

《教育理念》

地域医療機能推進機構は質の高い医療を提供しつつ、地域住民、行政、医療機関、教育機関等と連携し、安心して暮らせる地域づくりに貢献することを理念とし、以下を使命としている。

1. 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支える。
2. 地域医療の課題の解決・情報発信を通じた全国的な地域医療・介護の向上を図る。
3. 地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民への情報発信を強化する。
4. 独立行政法人として、社会的な説明責任を果たしつつ、透明性が高く、財政的に自立し運営を行う。

また、看護の理念として「地域住民の幸福な生活を支える看護」を掲げ、看護教育では看護実践能力及びマネジメント能力をもち、医師など多職種との協働によりチーム医療を積極的に提供できる人材を育成している。これらのことを踏まえ、本校の教育理念は、地域医療、地域包括ケアの担い手として、保健・医療・福祉の向上と、地域社会の多様なニーズに対応するため、看護に関する幅広い能力と豊かな人間性を兼ね備えた看護実践者を育成することにある。

看護は、対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルに統合された存在として捉え、倫理観に基づき、あらゆる発達段階、健康状態にある人々に対して、地域においてその人らしい日常生活が営めるように援助することである。これに基づき、卒業時には看護の専門職業人として、地域包括ケアシステムを理解し、多職種との協働及びチーム医療や在宅看護の視点も入れた必要な基礎的知識や技術・態度を習得し、科学的思考力と判断力・コミュニケーション力・実践力を身につける。

また、生命に対する深い畏敬の念や倫理観をもって、対象の人間としての尊厳や権利を尊重し、対象と信頼関係を築き、対象や周囲の人々の自己決定プロセスを支援できる人材の育成を目指すものである。

さらに、豊かな感性と創造力を培うとともに、専門職業人として自己研鑽に励みながら、自己の能力の維持・開発に努め、地域医療に貢献できる人材の育成を目指すものである。

そして、学習者が協調性をもちながら主体的に行動できるよう動機づけ、支援する役割を果たし、学習者と教育者は教育のプロセスを通じて、相互作用のなかで共に成長していくことを目指す。

《教育目的》

看護師として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、生命の尊厳と人権の尊重のもとに、その人らしく生きることを支える看護の専門職業人を育成し、保健・医療・福祉の向上と地域社会に貢献できる有能な人材を育成する。

《教育目標および卒業生の特性》

| 教 育 目 標 | 卒 業 生 の 特 性 |
|---|--|
| 1. 看護の対象である人間を総合的に理解できる。 | 1. 人間の特性について理解できる。 2. 看護の対象である人間を成長発達段階からとらえることができる。 3. 看護の対象をあらゆる健康レベルからとらえることができる。 4. 看護の対象を生活者として捉え、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解できる。 5. 看護の対象を身体的、精神的、社会的、霊的側面から統合された存在としてとらえることができる。 6. 生命の尊厳について理解できる。 |
| 2. 対象の健康上の課題に対応するため、科学的思考に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 | 1. 科学的根拠のある安全で安楽な看護の実践ができる。 2. 対象の健康状態、障害の状態に応じた看護が実践できる基礎的能力をもつ。 |
| 3. 保健・医療・福祉におけるチームの一員として、チームメンバーとの良好な関係が持てる。 | 1. 看護の対象の健康上の課題について、看護チーム内で連携・協働できる基礎的能力をもつ。 2. 他の職種との関係形成ができ、チーム医療を実践できる基礎的能力をもつ。 3. 社会資源を活用するための基礎的能力をもつ。 |
| 4. 地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と看護を果たす基礎的能力を養う | 1. 社会保障制度の基本的理念が理解できる。 2. 社会保障制度を活用し、地域住民の保健・医療・福祉の向上に向けて活躍できる基礎的能力をもつ。 |
| 5. 専門職業人としての自覚と責任感を持ち、常に自己研鑽する態度を身につける。 | 1. 専門職業人として倫理観を持ち、対象が心からの癒しと満足が得られるような看護が提供できる。 2. 自己を振り返りつつ、自己学習能力を高めることができる。 3. 看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢をもつ。 4. 自己の看護観を明確にし、発展させることができる。 5. 看護をめぐる状況の変化に対応するために、自己啓発・自己成長できる素地を養う。 |
| 6. 人間愛を基盤とした調和のとれた幅広い人間性を身につける。 | 1. 豊かな感性を養い、創造性を高めることができる。 2. 人間性を尊重し、共感をもって接する態度をもつ。 3. 社会の動向に関心をもち、国際的視野に立って、活躍できる基礎能力をもつ。 |

《概念規定》

本校では、カリキュラムの主要概念を人間・健康・環境・看護・教育の5つにおき、下記のように規定する。

《人間》

- ・人間は、成長・発達し続ける存在である。
- ・人間は、身体的・精神的・社会的・霊的側面をもった統合体であり、生活している存在である。
- ・人間は、自然・社会・文化的環境との相互作用により、絶えず変化している存在である。
- ・人間は、感情と理性と思考能力をもち、ニーズを充足しながら、社会の中で生活している存在である。
- ・人間は、社会の中で役割をもちながら自己実現を目指す存在である。

《健康》

- ・望ましい健康とは、身体的・精神的・社会的・霊的にバランスのとれた状態であり、その人らしい生活を送り自分の能力を最大限に発揮できる状態である。
- ・健康には、最良の状態から死までの連続的なレベルがあり、常に流動している。
- ・健康は、人間が生きていく上での基本的権利であり、社会のシステムのなかで保護されるべきものである。
- ・健康は、時代や文化、個人の価値観により異なる。

《環境》

- ・環境は、内部環境（個体）、外部環境（自然・社会・文化的環境）の総合であり、人間も環境の一部である。
- ・外部環境は、物理的、化学的、生物的、社会的、文化的環境に分けられる。
- ・外部環境は、人間の内部環境に直接的、間接的に作用し、人間生活に影響をあたえる。

《看護》

- ・看護はあらゆる成長発達段階にある個人と、その家族または集団を対象とする。
- ・看護は、その人がその人らしくあるように、健康の保持・増進・回復そして生と死に関わることである。
- ・看護は、対象との人間関係を基盤として、日常生活を整え、セルフケアができるように援助することである。
- ・看護は、健康上の課題を明確にし、その課題を解決するために科学的根拠に基づいて系統的に働きかけることである。
- ・看護は、専門職として独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で仲介・調整の役割りを担う。
- ・看護は、その時代の社会の変化にあわせ人々の多様な保健医療のニーズに対応するものである。

- ・看護者は、対象の生命を畏敬し、人間性を尊重し倫理観に基づいた行動をとる人である。

《教育》

- ・教育とは、人間の人間に対する目的意識をもった人間形成への働きかけである。
- ・教育とは、学習者の可能性を引き出しその可能性を学習者自身が主体的に伸ばしていけるようにすることである。
- ・教育とは、学習者と教授者との相互作用のなかで共に成長していく過程である。

カリキュラムの構造

1. 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野の学習のねらいと位置付け

教育課程は、看護の基本概念である〈人間、健康、環境、看護、教育〉をもとに、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5分野で構成されている。

《基礎分野》：専門基礎分野、専門分野の基礎となる科目であり、看護の対象である人間と人間をとりまく環境に対して、さまざまな領域の学問の学習を通して、ものの見方、考え方を学び、コミュニケーション能力を高め専門職業人として生涯にわたり幅広い人間形成をはかる基礎とする。

《専門基礎分野》：専門分野である看護学の学習に必要な知識や考え方の基礎になる科目である。主に医学的側面と社会的側面から人間のライフサイクルと健康について系統立てて理解し、健康・疾病に関する観察力、判断力を養い、看護援助の理論根拠とする。

《専門分野》：基礎分野、専門基礎分野で学習した、「人間と人間をとりまく環境、人間のライフサイクルと健康」に対する知識を総合的に理解・活用し、対象に応じた看護を実践できる基礎能力を修得する。

専門分野Ⅰ

基礎看護学は、看護における最初の専門分野であり、各看護学及び在宅看護論の基盤及び発展していく導入部である。看護の豊かさや奥深さをイメージでき、各看護学への学習の動機付けとなることを目指す。さらに、看護の実践能力の基礎となるような内容とする。

基礎看護目的・対象論では専門職としての看護とは何か、看護が果たす役割とは何かを理解する。さらに、臨床等で出会う看護の対象を生活者として多面的にとらえ、看護を実践するための基礎的知識とする。また、看護実践をする上で欠かせない生命や職業に対する倫理観をはぐくむ内容とする。

基礎的看護技術は、共通基本技術、日常生活を整える看護技術と診療に伴う看護技術、および看護過程の展開の技術で構成される。各看護学すべての基盤となるような内容とする。さらに、臨床看護総論は今日の臨床の現状をふまえ、各臨床領域の看護学を学ぶために、共通の基本的な看護について学び、各

看護学に発展・拡大することをねらいとした科目である。看護研究の基礎は、よりよい看護を提供するために、専門職として研究することの意義を理解し、今までの知識、技術をもとに研究し、看護の発展に寄与する必要性を理解する。また、看護の実践を科学的に研究し、改善していくための学習となる科目である。

専門分野Ⅱ

成長発達段階を軸として小児看護学、成人看護学、老年看護学を、ライフステージを通したまとまりとして母性看護学、精神看護学を設定している。専門分野における各看護学の内容構成の基本的な考え方は、各看護学における看護の対象および目的の理解、予防、健康の回復、保持増進および疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ内容とした。臨地実習ではチームの一員としての役割を理解し、保健医療福祉との連携・協働を通して看護を実践できる能力を養う。

《統合分野》：基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容の知識や技術を統合し、在宅や臨床現場の状況に即した看護が提供できる能力を養う科目とし、専門科目のうえに位置付けた。

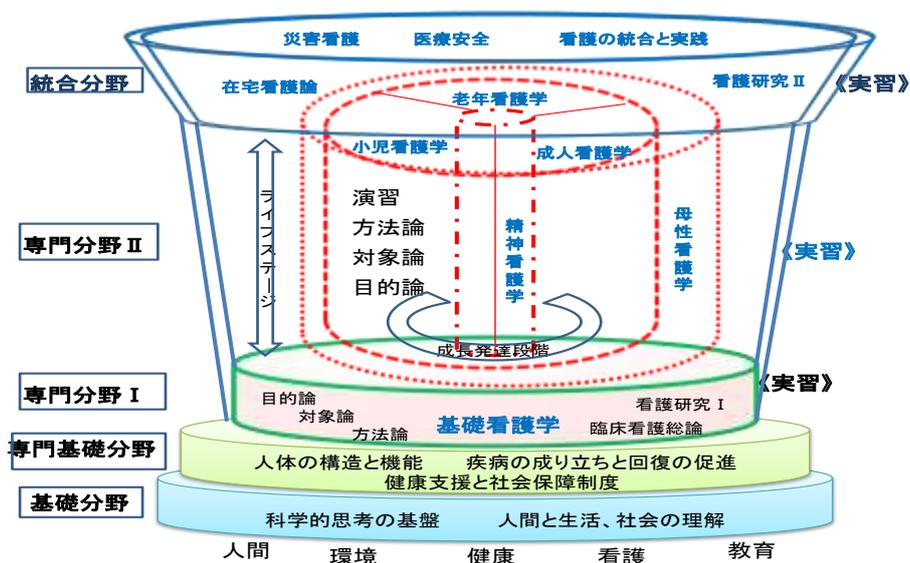
統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」で構成される。「在宅看護論」は医療を取り巻く環境の変化により、医療サービスの提供のあり方が在宅に大きくシフトしていることをふまえ、対象者が在宅でその人らしく生活し、最後を全うできるような看護を学ぶ内容とした。また、他職種と協働する中で看護の役割を理解することをねらいとした。「災害看護」や「医療安全」は、社会における看護の役割やチーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。「看護の統合と実践」では、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う科目とした。

《臨地実習》：基礎看護学実習を各看護学の基盤として位置付け、各看護学の実習は、基礎看護学で学んだ知識・技術を活用しながら、各看護学に特徴的な看護の内容を学ぶものとして位置付けた。各領域の保健医療福祉に関連した実習施設で学ぶ。統合分野における臨床総合実習は、各看護学での実習をふまえ、臨床に即した看護実践や看護チームの一員としての役割の理解、看護管理の基礎を学ぶ実習とした。

2. カリキュラムの構造およびデザイン

専門分野の看護学で統合が図れ、さらに統合分野においてより拡大できるように構築している。

教育課程の構造図

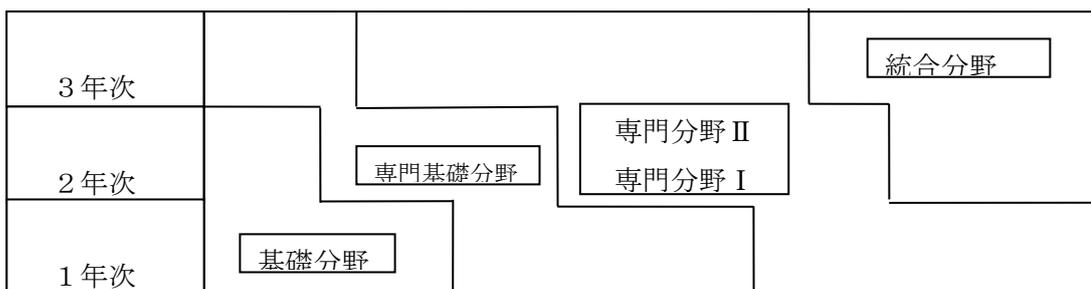


基礎分野・専門基礎分野は人間形成・看護の科学的実践活動の基盤となるものとして、専門分野の学習と統合・発展させながら学んでいくため、専門分野の土台と位置づけた。

基礎看護学は、その知識と技術を各領域の看護の学習の基盤となり、さらに連動しながら各領域及び統合分野へと発展していくことをあらわしている。専門分野 II においては、小児・成人・老年看護学を発達段階別の領域とし、精神看護学や母性看護学はライフステージ全体に関わることを意味し、精神看護学は中心に、母性看護学は取り囲むようにあらわした。「統合分野」については、基礎看護学から「統合」できるように考え、積み重ねの連続性と最終段階での統合と考え図式化した。

各分野間のカリキュラムデザインは、積み上げ型および漸進型プログラムの混合とした。

カリキュラムデザイン



学則第9条による教育課程

別表

| 分野 | 領域 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 分野 | 領域 | 科目 | 単位数 | 時間数 | |
|-------------|-------------------|-------------------------|-----|---------|----------------------|-------------------|-------------------|----------------|------|-----|
| 基礎分野 | 科学的思考の 基盤 | 論理学 | 1 | 30 | 専門分野Ⅱ | 成人看護学 | 成人看護目的・対象論 | 1 | 30 | |
| | | 情報科学 | 1 | 30 | | | 成人の健康と生活を支える看護 | 1 | 15 | |
| | | 生活科学 | 1 | 30 | | | 周手術期の看護 | 1 | 30 | |
| | | 看護物理学 | 1 | 15 | | | 健康障害との共存を支える看護 | 1 | 30 | |
| | | 臨床英語 | 1 | 30 | | | セルフケアを支える看護 | 1 | 30 | |
| | 終末期にある対象の看護 | 1 | 15 | 成人看護学演習 | | | 1 | 30 | | |
| | 人間の生活・社会の理解 | 心理学 | 1 | 30 | | 老年看護学 | 老年看護目的・対象論 | 1 | 15 | |
| | | 教育学 | 1 | 30 | | 高齢者の健康と生活を支える看護 | 1 | 30 | | |
| | | 家族社会学 | 1 | 30 | | 健康障害のある高齢者の看護 | 1 | 30 | | |
| | | 人間関係論 | 1 | 30 | | 老年看護学演習 | 1 | 30 | | |
| | | カウンセリングの基礎 | 1 | 15 | | 小児看護学 | 小児看護目的・対象論 | 1 | 30 | |
| | | 生命倫理 | 1 | 15 | | 小児の健康と成長発達を促す看護 | 1 | 30 | | |
| | | 異文化理解 | 1 | 30 | | 健康障害のある小児の看護 | 1 | 30 | | |
| 保健体育 | | 1 | 30 | 小児看護学演習 | 1 | 30 | | | | |
| 小計 | | | 13 | 345 | 母性看護学 | 母性看護目的・対象論 | 1 | 30 | | |
| 専門基礎分野 | 人体の構造と機能 | 人体の構造と機能(人体の概要と発生) | 1 | 15 | 女性の健康と看護 | 1 | 30 | | | |
| | | 人体の構造と機能(呼吸・循環・血液) | 1 | 30 | 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護 | 1 | 30 | | | |
| | | 人体の構造と機能(消化・栄養・代謝) | 1 | 15 | 母性看護学演習 | 1 | 30 | | | |
| | | 人体の構造と機能(腎泌尿器系・内部環境の調節) | 1 | 30 | 精神看護学 | 精神看護目的論 | 1 | 15 | | |
| | | 人体の構造と機能(骨格・筋肉・神経・感覚器) | 1 | 30 | 精神看護対象論 | 1 | 15 | | | |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 微生物学 | 1 | 30 | 心の健康を支える看護 | 1 | 30 | | | |
| | | 病理学総論 | 1 | 15 | 精神看護学演習 | 1 | 30 | | | |
| | | 呼吸器系・循環器系疾病論 | 1 | 30 | 専門分野Ⅱ(学科)小計 | | | 23 | 615 | |
| | | 消化器系疾病論 | 1 | 30 | 臨地実習 | 成人 | 健康を維持するための看護実習 | 2 | 90 | |
| | | 内分泌・代謝系、女性生殖系疾病論 | 1 | 30 | | | 急性・回復期にある患者の看護実習 | 2 | 90 | |
| | | 脳神経・運動器系疾病論 | 1 | 30 | | 終末期にある患者の看護実習 | 2 | 90 | | |
| | | 自己免疫系・血液造血器系・腎泌尿器系疾病論 | 1 | 30 | | 老年 | 様々な場で生活する高齢者の看護実習 | 2 | 90 | |
| | | 感覚器系疾病論 | 1 | 30 | | 健康障害のある高齢者の看護実習 | 2 | 90 | | |
| | | 臨床薬理 | 1 | 30 | 小児 | 健康な成長発達を促す援助実習 | 1 | 45 | | |
| | | 治療学 | 1 | 30 | 健康障害のある小児の看護実習 | 1 | 45 | | | |
| | 社会保健支援と 健康保障制度 | 医療論 | 1 | 15 | 母性精神 | 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護実習 | 2 | 90 | | |
| | | 社会保障・社会福祉 | 1 | 30 | 精神障害のある人の看護実習 | 2 | 90 | | | |
| | | 公衆衛生学 | 2 | 30 | 専門分野Ⅱ(臨地実習)小計 | | | 16 | 720 | |
| | | 医療と法律 | 1 | 15 | 専門分野Ⅱ小計 | | | 39 | 1335 | |
| | | 看護と法律 | 1 | 15 | 統合分野 | | | 8 | 180 | |
| | 小計 | | | 21 | 510 | 統合分野 | 在宅看護論 | 在宅看護目的論 | 1 | 15 |
| 専門分野Ⅰ | 基礎看護学 | 基礎看護目的・対象論 | 2 | 45 | 在宅看護対象論 | | | 1 | 15 | |
| | | 看護共通基本技術 | 2 | 60 | 在宅療養者と家族の健康と生活を支える看護 | | | 1 | 30 | |
| | | 環境を整える看護技術 | 1 | 30 | 在宅看護論演習 | | | 1 | 30 | |
| | | 身体を快適に整える看護技術 | 1 | 30 | 看と護の実践の統合 | | | 災害看護 | 1 | 30 |
| | | 活動を整える看護技術 | 1 | 30 | | | 医療安全 | 1 | 30 | |
| | | 診療に伴う看護技術 | 1 | 30 | | | 看護研究の実際 | 1 | 15 | |
| | | 薬物療法に伴う看護技術 | 1 | 30 | 看護の総合と実践 | | 1 | 15 | | |
| | | 看護過程展開の技術 | 1 | 30 | 統合分野(学科)小計 | | | 8 | 180 | |
| | | 臨床看護総論 | 1 | 30 | 臨地実習 | | 在宅統合 | 地域で生活する人々の看護実習 | 2 | 90 |
| | | 看護研究の基礎 | 1 | 15 | | 臨床総合実習 | | 2 | 90 | |
| 専門分野Ⅰ(学科)小計 | | | 12 | 330 | | 統合分野(臨地実習)小計 | | | 4 | 180 |
| 実臨習地 | 日常生活を整える看護実習 | 1 | 45 | 統合分野小計 | | | 12 | 360 | | |
| | 看護過程展開の基礎実習 | 2 | 90 | 総計 | | | 100 | 3015 | | |
| | 専門分野Ⅰ(臨地実習)小計 | | | 3 | 135 | | | | | |
| 専門分野Ⅰ小計 | | | 15 | 465 | | | | | | |

学科進度表

| 分野 | 領域 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | |
|-----------|-----------------------|-------------------------|-----|-----|-----|----|-----|----|-----|----|
| | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 基礎分野 | 基礎的思考の 人間の生活・社会の理解 | 論理学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 情報科学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 生活科学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 看護物理学 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 臨床英語 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 心理学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 教育学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 家族社会学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 人間関係論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | カウンセリングの基礎 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 生命倫理 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 異文化理解 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 保健体育 | 1 | 30 | | | | | | |
| 小計 | | 13 | 345 | | | | | | | |
| 専門基礎分野 | 人体の機能構造 | 人体の構造と機能(人体の概要と発生) | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 人体の構造と機能(呼吸・循環・血液) | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 人体の構造と機能(消化・栄養・代謝) | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 人体の構造と機能(腎泌尿器系・内部環境の調節) | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 人体の構造と機能(骨格・筋肉・神経・感覚器) | 1 | 30 | | | | | | |
| | 疾病の成り立ちと回復の促進 | 微生物学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 病理学総論 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 呼吸器系・循環器系疾病論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 消化器系疾病論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 内分泌・代謝系、女性生殖器系疾病論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 脳神経・運動器系疾病論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 自己免疫系・血液造血器系・腎泌尿器系疾病論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 感覚器系疾病論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | 健康支援と社会保障制度 | 臨床薬理 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 治療学 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 医療論 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 社会保障・社会福祉 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 公衆衛生学 | 2 | 30 | | | | | | |
| | | 医療と法律 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 看護と法律 | 1 | 15 | | | | | | |
| | | 小計 | | 21 | 510 | | | | | |
| 専門分野 I | 基礎看護学 | 基礎看護目的・対象論 | 2 | 45 | | | | | | |
| | | 看護共通基本技術 | 2 | 60 | | | | | | |
| | | 環境を整える看護技術 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 身体を快適に整える看護技術 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 活動を整える看護技術 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 診療に伴う看護技術 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 薬物療法に伴う看護技術 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 看護過程展開の技術 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 臨床看護総論 | 1 | 30 | | | | | | |
| | | 看護研究の基礎 | 1 | 15 | | | | | | |
| | 専門分野 I (学科)小計 | 12 | 330 | | | | | | | |
| | 実習地 | 日常生活を整える看護実習 | 1 | 45 | | | | | | |
| | | 看護過程展開の基礎実習 | 2 | 90 | | | | | | |
| | | 専門分野 I (臨床実習)小計 | 3 | 135 | | | | | | |
| 専門分野 I 小計 | 15 | 465 | | | | | | | | |

| 分野 | 領域 | 科目 | 単位数 | 時間数 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | |
|----------------|-------|----------------------|-------|-----------------|-----|----|-----|----|-----|----|--|
| | | | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| 成人看護学 | 成人看護学 | 成人看護目的・対象論 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 成人の健康と生活を支える看護 | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | 周手術期の看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 健康障害との共存を支える看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | セルフケアを支える看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 終末期にある対象の看護 | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | 成人看護学演習 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 老年看護学 | 老年看護学 | 老年看護目的・対象論 | 1 | 15 | | | | | |
| | | | | 高齢者の健康と生活を支える看護 | 1 | 30 | | | | | |
| | | | | 健康障害のある高齢者の看護 | 1 | 30 | | | | | |
| | | | | 老年看護学演習 | 1 | 30 | | | | | |
| | | 小児看護学 | 小児看護学 | 小児看護目的・対象論 | 1 | 30 | | | | | |
| | | | | 小児の健康と成長発達を促す看護 | 1 | 30 | | | | | |
| 健康障害のある小児の看護 | 1 | | | 30 | | | | | | | |
| 小児看護学演習 | 1 | 30 | | | | | | | | | |
| 母性看護学 | 母性看護学 | 母性看護目的・対象論 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 女性の健康と看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 母性看護学演習 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 精神看護学 | 1 | 15 | | | | | | | |
| 精神看護学 | 精神看護学 | 精神看護目的論 | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | 精神看護対象論 | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | 心の健康を支える看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 精神看護学演習 | 1 | 30 | | | | | | | |
| 専門分野 II 学科小計 | 23 | 615 | | | | | | | | | |
| 臨床実習 | 臨床実習 | 健康を維持するための看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| | | 急性・回復期にある患者の看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| | | 終末期にある患者の看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| | | 様々な場で生活する高齢者の看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| | | 健康障害のある高齢者の看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| | | 健康な成長発達を促す援助実習 | 1 | 45 | | | | | | | |
| | | 健康障害のある小児の看護実習 | 1 | 45 | | | | | | | |
| 母性精神 | 2 | 90 | | | | | | | | | |
| 精神障害のある人の看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | | | |
| 専門分野 II 臨床実習小計 | 16 | 720 | | | | | | | | | |
| 専門分野 II 小計 | 39 | 1335 | | | | | | | | | |
| 統合分野 | 在宅看護学 | 在宅看護目的論 | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | 在宅看護対象論 | 1 | 15 | | | | | | | |
| | | 在宅療養者と家族の健康と生活を支える看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 在宅看護論演習 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 在宅看護学小計 | 4 | 120 | | | | | | | |
| | 看護の統合 | 災害看護 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 医療安全 | 1 | 30 | | | | | | | |
| | | 看護研究の実際 | 1 | 15 | | | | | | | |
| 看護の総合と実践 | 1 | 15 | | | | | | | | | |
| 統合分野学小計 | 8 | 180 | | | | | | | | | |
| 臨床実習 | 在宅統合 | 地域で生活する人々の看護実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| | | 臨床総合実習 | 2 | 90 | | | | | | | |
| 統合分野 臨床実習小計 | 4 | 180 | | | | | | | | | |
| 統合分野小計 | 12 | 360 | | | | | | | | | |
| 総計 | 100 | 3015 | | | | | | | | | |

基礎分野

| | | | |
|---|--|-----------------------|-----|
| 授業科目(必須) | 論理学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～8月 | | |
| 教科書等 | 『資料:論理的思考』(「看護教育」研究会) | | |
| 授業概要 <p>自己の考えを筋道たてて、わかるように伝えられる能力を養う。主張の根拠を示して表現できるようになる。</p> | | | |
| 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 正しい思考の形式と法則を理解する。 論理的思考、文章表現の方法を理解する。 批判的思考をする能力を養う。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 「文の七原則」、資料文①「先天異常児の助命は絶対か」、悪文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの書き改め | 悪文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの小テストを行う | |
| 2 | ①意見文ABの検討、『作文の論理』第一章の視写、医療用語ⅠⅡの答え合わせ | 印刷してある①意見文を使って検討の練習する | |
| 3 | 資料文②「物差し狂っている母娘」の検討、『作文の論理』第二章の視写、医療用語Ⅰ・Ⅱ、 | 資料文②を分析する | |
| 4 | ②意見文ABCDEFGHの検討、『作文の論理』第三章の視写、医療用語Ⅲ・Ⅳ | 読みⅠの小テストを行う | |
| 5 | 資料文②「物差し狂っている母娘」2の意見文ABCDの検討、『作文の論理』第四章の視写、医療用語Ⅴ・Ⅵ | 読みⅡの小テストを行う | |
| 6 | 資料文③「個性と異常の境界線は」意見文ABCDEFGHの検討、『作文の論理』第五章の視写、医療用語書き | 読みⅢの小テストを行う | |
| 7 | 資料文③「個性と異常の境界線は」2意見文ABCDEFGHの検討、『作文の論理』第六章の視写、医療用語書き | 一般用語・カタカナ語の小テストを行う | |
| 8 | 資料文④「体位変換」の間違い、資料文④「体位変換」の書き改め | 書きⅠの小テストを行う | |
| 9 | 資料文⑤「告知」意見文ABCDEFGHの検討、死因推移 | 書きⅡ・「体位変換」の小テストを行う | |
| 10 | 資料文⑥「インフォームドコンセント」の間違い | 漢字・誤字・死因の小テストを行う | |
| 11 | 資料文⑦「コオロギ」の間違い | ⑦の小テストを行う | |
| 12 | 資料文⑧「プライバシー」の分析 | いつ、どこで、誰が、誰に、何をどうしたか | |
| 13 | ⑧「プライバシー」意見文ABCDEFGHの検討 | ⑧の小テストを行う | |
| 14 | ⑨「バスジャック」意見文の検討、文章を書く時の約束 | ⑨の小テストを行う | |
| 15 | 修了試験 | 授業の中で筆記試験を行う | |
| 授業方法 講義・演習 評価方法・評価基準 <p>評価方法: ①筆記試験30% ②小テスト30% ③提出物30% ④授業態度10%</p> <p>評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②③④に関して、詳細は授業にて提示する ①②③④を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | | |
| その他 <p>この授業で、自己の考えを筋道立てて、わかるように相手に主張と根拠を示して表現できるようになって欲しいと願っている。</p> <p>*各自、A4・400字詰原稿用紙(縦書き)を準備。</p> | | | |

| | | | |
|--|--------------------------------|--|-----|
| 授業科目(必須) | 情報科学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 5月～10月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院) | | |
| 授業概要 <p>情報化社会において、情報の持つ意味を考え、医療や看護と情報の関わりを知る。また、コンピュータに関する知識を深め、情報の処理、判断に役立てることができる。さらに日常の看護の学習や実践に役立てることができる。</p> 到達目標 1. 情報科学の基礎的知識を修得し、看護との関連性を理解する。 2. 情報処理の基本的方法を習得する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | オリエンテーション 授業の進め方 文書の作成 ワードの使い方 | | |
| 2 | エクセルの使い方1 | 授業の中で、実際にパソコンを使用し、WordやExcelといったソフトを用いて、基本的な操作を学んでいく。授業の中で課題を出します。 | |
| 3 | セルへの入力と選択 セルを使って計算する | | |
| 4 | エクセルの使い方2 | | |
| 5 | グラフの使い方と作り方 | | |
| 6 | エクセルの使い方3 | | |
| 7 | 関数を使う 集計の仕方 | | |
| 8 | エクセルの使い方4 | | |
| 9 | 統計の基礎 エクセルの使い方まとめ | | |
| 10 | パワーポイントの使い方1 | | |
| 11 | プレゼンテーションとは | | |
| 12 | パワーポイントの使い方2 | | |
| 13 | プレゼンテーション演習の準備 | | |
| 14 | パワーポイントの使い方3 | | |
| 15 | プレゼンテーション演習 | | |
| 授業方法 講義、パソコンを用いた演習 評価方法・評価基準 評価方法: ①エクセルのまとめとプレゼンテーション演習20% ②出席と課題提出80% 評価基準: ①内容の充実度等によって評価し、評価基準は授業時に詳細を提示する。 ②出欠席状況や課題の提出状況等によって評価し、評価基準は授業時に詳細を提示する。 ①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 近年、病院においても電子カルテが導入されており、看護師として必要となる基本的なパソコン操作を身に付けていく。 | | | |

| | | | |
|---|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 生活科学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～7月 | | |
| 教科書等 | 食 : 公衆栄養学 (同文書院) 衣・住 : なし | | |
| 授業概要 看護者の役割は、健康上に問題をもつ人に対して、快適な療養生活がおくれるように身の周りを整えることにある。人間が生活をするに当たって基本的な要素である“食べること”“住むこと”“着ること”の行為は、共通性がありながら非常に個別性の強い行為である。生活環境を含めた衣・食・住のあり方を学び、日常生活援助の基礎にする。 | | | |
| 到達目標 1. 人間にとっての衣・食・住生活の意義を理解する。 2. 看護における日常生活援助の基礎となる、人間にとっての衣・食・住のあり方について理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 衣生活 | | | |
| 1 | 1. 人間にとっての衣生活 1)被服の機能・役割 2)靴のサイズと選び方のポイント 3)繊維製品の表示 | | |
| 2 | 4)繊維の種類と特徴 5)被服材料の主な性能 6)混紡の特徴 7)寝具の種類 | | |
| 3 | 8)織物と編み物の種類と特徴 9)繊維製品の加工と加工剤 | | |
| 4 | 2. 衣服の洗濯 1)衣服の汚れとしみ抜き 2)洗剤の種類と使い方 3)界面活性剤の働き | 演習の中でしみ抜きの体験をしていく | |
| 5 | 4)漂白剤の種類と使い方 5)アイロンの適正温度 6)防虫剤 7)ドライクリーニング 8)高齢者・障害者の被服の条件 | | |
| 食生活 | | | |
| 6 | 1. 食と食を取り巻く環境を考える～食事スケッチ法から～ | | |
| 7 | 2. 食歴を振り返る～国民健康・栄養調査の概要～ | | |
| 8 | 3. 食事摂取基準 | 食事バランスガイドを活用して、自分が普段とっている食事のチェックをしていく。 | |
| 9 | 4. おいしさとは～312弁当箱法について～ | | |
| 10 | 5. 料理選択型の食事バランスガイドを使った食事診断の発表、まとめ | 発表会を通して学びの共有とまとめをしていく。 | |
| 住生活 | | | |
| 11 | 1. 住宅の基本的な考え方 | | |
| 12 | 2. 空間・部位別住まいの工夫 | 事例を紹介しながら、授業を進めていく。 | |
| 13 | 3. 図面の読み方、書き方 | | |
| 14 | 4. 住宅の部位別性能の在り方 | | |
| 15 | 5. 認知症と住環境 | | |
| 16 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義、演習(住:バリアフリーの図面作成 衣:しみ抜き、足型取り 食:食育指導など) | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験(100%) 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 この講義は基礎看護学と関連が深く、日常生活援助技術の根拠として活用できる基礎知識を学ぶ。 | | | |

| | | | |
|---|---------------------|--|----------|
| 授業科目(必須) | 看護物理学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～6月 | | |
| 教科書等 | 看護学生のための物理学(医学書院) | | |
| 授業概要 看護学は人間を対象とする学問であるため、医学、化学、物理学、心理学、哲学等と深い関係があり、非常に学際的である。特に、日常行われている看護のほとんどが物理学と密接に結びついている。本講義では、看護学の中にある物理学的事項への関心を深め、看護技術の原理・原則を理解し、技術の改善・応用までも可能にする基礎力を養うことを目的とする。 | | | |
| 到達目標 1. 位置や速度、力、時間、エネルギーなどの基本概念を理解する。 2. 力学法則、エネルギーと運動量の保存側などを理解する。 3. 看護に必要な力学(力の合成、分解、モーメント、摩擦力、重心)について理解する。 4. 看護に必要な圧力について理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 力のモーメントとてこの原理 | | |
| 2 | 2. てこの原理の応用～人体への応用～ | | |
| 3 | 3. 看護ボディメカニクス | 基礎看護技術において活用するボディメカニクスのについて学ぶ。 | |
| 4 | 4. 圧力とは何か | 血圧や酸素ポンプの圧力など医療でよく用いられる圧力の原理について学ぶ。 | |
| 5 | 5. 大気圧と圧力の効果 | | |
| 6 | 6. 吸引(ドレナージ) | 圧力の中でも陰圧について原理を学ぶ。 | |
| 7 | 7. 点滴と血圧 | 点滴の速度計算など看護師国家試験でもよく出題される問題の考え方を学んでいく。 | |
| 8 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 看護学の中にある物理学的事項への関心を深め、看護学と物理学の密接に関係していることを理解する。また、看護実践にあたり安全で効果的に行うために根拠となる知識を習得する科目である。 | | | |

| | | | |
|--|---|---------------------|-----|
| 授業科目(必須) | 臨床英語 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 4月 ～ 6月 | | |
| 教科書等 | Xanthe Smith Serafin, Beauty and the Beast. (IBCパブリッシング) 『看護師の英単語』、『看護師の英会話ワークブック』 | | |
| 授業概要 看護の分野に関する英文を読むため、及び、看護の現場で実際に英語を用いるための能力を養う。 到達目標 1. 看護の分野で用いられる医学英語を理解することができる。 2. 看護の分野に関する英文を読み、内容を理解することができる。 3. 患者と英語でコミュニケーションをとることができる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | イントロダクション、単語(1～20)、リーディング(17～18ページ) | | |
| 2 | 英会話(Unit 1)、単語(21～40)、リーディング(19～20ページ) | 第1回小テスト(単語1～20) | |
| 3 | 英会話(Unit 2)、単語(41～60)、リーディング(21～22ページ) | 第2回小テスト(単語21～40) | |
| 4 | 英会話(Unit 3)、単語(61～80)、リーディング(23～24ページ) | 第3回小テスト(単語41～60) | |
| 5 | 英会話(Unit 4)、単語(81～100)、リーディング(25～26ページ) | 第4回小テスト(単語61～80) | |
| 6 | 英会話(Unit 5)、単語(101～120)、リーディング(27～28ページ) | 第5回小テスト(単語81～100) | |
| 7 | 英会話(Unit 6)、単語(121～140)、リーディング(29～30ページ) | 第6回小テスト(単語101～120) | |
| 8 | 英会話(Unit 7)、単語(141～160)、リーディング(31～32ページ) | 第7回小テスト(単語121～140) | |
| 9 | 英会話(Unit 8)、単語(161～180)、リーディング(34～35ページ) | 第8回小テスト(単語141～160) | |
| 10 | 英会話(Unit 9)、単語(181～200)、リーディング(36～38ページ) | 第9回小テスト(単語161～180) | |
| 11 | 英会話(Unit 10)、リーディング(39～41ページ) | 第10回小テスト(単語181～200) | |
| 12 | 英会話(Unit 11)、リーディング(42～44ページ) | | |
| 13 | 英会話(Unit 12)、リーディング(45～47ページ) | | |
| 14 | リーディング(49ページ)修了試験 | 筆記試験 | |
| 15 | 期末試験返却・振り返り、リーディング(50～52ページ) | | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 55% 平常点(小テスト、提出物等) 45% 評価基準: ①筆記試験では、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②授業で学習した内容の理解を確認するために小テストを実施する。 ①～②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|--|----------------------------------|----------|-----|
| 授業科目(必須) | 心理学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 4月 ~ 10月 | | |
| 教科書等 | 新・心理学の基礎を学ぶ(中里至正、松井洋、中村真編著)八千代出版 | | |
| 授業概要 <p>看護において重要である人間理解を図るために、こころの科学である心理学の立場から知識を習得する。</p> | | | |
| 到達目標 1. 心理学の基礎的な考え方を理解する。 2. 人間理解のために必要な人に特有な行動特性を理解する。 3. 社会的な関係によって生じる特有な人の行動傾向を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 心理学の歴史と方法 | | |
| 2 | 知覚心理学 | | |
| 3 | 動機と行動(動因・誘因) | | |
| 4 | フラストレーションと感情、適応機制 | | |
| 5 | 発達(1)遺伝と環境 (2)ことばの獲得と認知機能の発達 | | |
| 6 | | | |
| 7 | パーソナリティの理論(特性論、類型論)と測定(エゴグラム) | | |
| 8 | | | |
| 9 | 学習の理論(古典的条件づけ、オペラント条件づけ) | | |
| 10 | 記憶の情報処理モデル | | |
| 11 | 思考、問題解決、知能 | | |
| 12 | 社会心理学 (1)対人認知 (2)社会的ジレンマ | | |
| 13 | | | |
| 14 | 臨床心理学(心理学的援助) | | |
| 15 | 修了試験・まとめ | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 評価基準: 筆記試験において100点満点中60点以上の得点をもって合格とする。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|--|-------------------------------|--|-----|
| 授業科目(必須) | 教育学 | | |
| 担当講師 | 倉矢 匠 | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 9月 ~ 11月 | | |
| 教科書等 | | | |
| 授業概要 <p>教育の本質と人間形成における教育の重要性を学び、看護における教育活動に応用できるようになる。</p> | | | |
| 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育とは何かを基盤として、看護職者としての教育的視点を養う。 2. 教育方法・評価と学習意欲について理解する。 3. 現代社会における諸問題と教育について考える。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 教育学と看護 | ワークやディスカッション、映像資料等を通して教育学と看護について学習する。特に、異なる価値観への理解、相手の視点で考える客観性の獲得を重視する。 | |
| 2 | | | |
| 3 | ソーシャル・スキルのトレーニング/エンカウンター・グループ | | |
| 4 | | | |
| 5 | 記憶と教育/医学情報の記憶 | | |
| 6 | | | |
| 7 | 青年期と自己/価値観の交流 | | |
| 8 | | | |
| 9 | 「思い込み」の影響(教育の現場/医療の現場) | | |
| 10 | | | |
| 11 | 感情と教育/感情労働とバーンアウト | | |
| 12 | | | |
| 13 | 差別・偏見と教育/ジェンダーと教育 | | |
| 14 | | | |
| 15 | 修了試験 | | |
| 授業方法 講義 グループワーク演習 評価方法・評価基準 <p>評価方法: ①筆記試験70% ②レポート課題30%</p> <p>評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するため総合的な問題を出題する。 ②レポートの評価基準: (1)内容の独創性 (2) 考えや主張の説得力 (3) 客観的な視点 詳細は授業で説明する なお、この3点については教育における重要な要素として、各回の授業で事前に扱う。 ①～②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上をの得点を合格とする。</p> | | | |
| その他 <p>教育に関する幅広い時事問題を多く取り入れた授業である。 現代を生きる看護者として必要な教育問題に関する知識と問題解決力が身につくことを指導のねらいとしている。 意欲的な参加を望む。</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------|--|
| 授業科目(必須) | 家族社会学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 9月 ~ 後期 12月 | | |
| 教科書等 | なし | | |
| 授業概要 <p>基礎集団とされる家族に焦点を当て、社会の構造と機能を学び、「機能としての家族」「感情家族としての家族」という視点から家族と個人の関係、社会と人間との関わりを理解する。 さらに家族成員の疾病や高齢、あるいは障害等、家族機能や家族関係に大きな影響を与える問題を取りあげ、家族ソーシャルワークの可能性を検討する。</p> | | | |
| 目標 1. 社会学の基本概念を理解する。 2. 家族とは、家族機能の役割・変遷について理解する。 3. 家族ソーシャルワークの基本概念を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. オリエンテーション なぜ看護職に家族社会学が必要なのか | | 基礎集団とされる家族に焦点を当て、社会の構造と機能を学び、「機能としての家族」「感情家族としての家族」という視点から家族と個人の関係、社会と人間との関わりを理解する。 さらに家族成員の疾病や高齢、あるいは障害等、家族機能や家族関係に大きな影響を与える問題を取りあげ、家族ソーシャルワークの可能性を検討する。 |
| 2 | 2. 社会学というパースペクティブ(包丁?)の強み | | |
| 3 | 3. 私の家族は「ふつうの家族?」「あたまえの家族?」 | | |
| 4 | 4. 社会学という包丁で家族を料理する | | |
| 5 | 5. 現代の家族問題1 LGB、同性婚、サンボ、DINK、同棲は家族? | | |
| 6 | 6. 現代の家族問題2 児童虐待、DV、介護、発達障害等 | | |
| 7 | 7. 政策のなかの家族 機能関係としての家族・感情関係としての家族 | | |
| 8 | 8. 日本の家族政策の歴史的展開 明治以前、明治～戦前、戦後～いま | | |
| 9 | 9. 日本型福祉社会政策(低負担?・低福祉)の現在(いま) | | |
| 10 | 10. 家族による在宅介護の現実と課題ワールド・カフェ 家族介護における要介護者のメリット・デメリット | | |
| 11 | 11. グループワーク 家族を視点に入れた事例から | | |
| 12 | 12. グループワークの視点 私の中の家族、家族の中の私 | | |
| 13 | 13. 事例はその都度 | | |
| 14 | 14. プレゼンテーションと議論 | | |
| 15 | 15. 事例の講評と授業全体の総括 | | |
| 授業方法 講義 グループワーク 課題 | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: レポート課題 評価基準: レポート評価の視点 レポートは基本的に、日本型福祉社会政策とグループワークの考察なので、1、授業での問題提起や各自使用した参考文献が的確に理解されているか、2、自分の考え方が論理的に説明できているかの点で評価する。 評価の詳細は講義で説明する。 | | | |
| その他 人間は社会的存在として集団生活の中で生活しており、特に、誰も家族とは無縁ではない。ひとり一人の人間がその人らしく生活すること、家族のメンバーであることとはどのような関わりがあることなのか。直接の対象としての患者だけでなく、家族のメンバーとしての患者を考え、家族のメンバーとしての私を考えることで、看護者としての自分自身を考える基礎になることを願っている。 | | | |

| | | | |
|---|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 人間関係論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 10月 ~ 11月 | | |
| 教科書等 | なし | | |
| 授業概要 <p>この講義では人間関係の基礎といえるコミュニケーションについて考える。行動療法、人間性心理学、論理療法といった心理臨床的学問を背景としたアサーション<自己表現>トレーニングをベースとして「自他尊重」のコミュニケーションのあり方について深めることを目的とする。ゼミナールでは、理論的理解を体験的理解へ深めるためにグループワークを中心に自己理解、他者理解、相互作用の理解について考えていきたい。</p> | | | |
| 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 日常生活において自己対他者、援助者対被援助者、個人対集団などの人間関係のあり方について理解する。 コミュニケーションが人間生活においてはたす役割、機能、相互作用などについて理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. コミュニケーションとは | 講義で得た知識を実践を通して理解を深め、実際の生活や看護の場面で活用できるよう学ぶ。 | |
| 2 | 2. 自分自身への信頼と自己表現 | | |
| 3 | 3. 認知と感情、行動の関連 | | |
| 4 | 4. さわやかな自己表現1 日常場面を中心として | | |
| 5 | 5. さわやかな自己表現2 問題解決場面を中心として | | |
| 6 | | | |
| 7 | ゼミナール | 日常を離れ宿泊を通してクラスメートと生活を共にしながらゼミナール形式で学ぶ。グループでの体験学習が中心となる。目的意識を持ち、積極的に取り組んでもらいたい。 | |
| 8 | 自己理解、コミュニケーション、リーダーシップ、価値観など人間関係を構成する諸要素をテーマとしたグループ学習 | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | ゼミナールのまとめ | | |
| 授業方法: 講義形式 グループワーク演習、ゼミナール 評価方法・評価基準 <p>評価方法: 授業終了時の①レポートによるフィードバック課題70%、②積極的な演習課題への参加30% 評価基準: 授業には毎回、学習目標を設けている。授業で体験したこと、気づいたこと、疑問に思ったこと、全てが評価の対象になる。学生には、それらを振り返ってもらう。また、グループでの課題解決や意見交換をする機会が多いので、積極的な学習態度を求める。 評価の詳細は講義で説明する。</p> | | | |
| その他 <p>グループワーク等演習を多く取り入れた授業である。受け身の態度ではなく、積極的に働きかける姿勢を期待する。この講義で学習した対人関係や行動のスキルを実際に臨床の場で積極的に使い、人間理解が深められることを願う。</p> | | | |

| | | | |
|-----------|---|----------|---------------------|
| 授業科目(必須) | カウンセリングの基礎 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 13年(臨床心理士)1年(公認心理師) |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 9月～11月 | | |
| 教科書等 | 以下の書籍を参考としたプリント教材を使用: ・やさしく学ぶ カウンセリング26のレッスン 長尾博 金子書房 ・看護コミュニケーション 篠崎恵美子・藤井徹也 医学書院 ・聴く・伝える・共感する技術 便利帖 大谷佳子 翔泳社 ・ヘルピング・スキル クララ・E・ヒル 金子書房(看護領域に限らない内容) ・対人コミュニケーション入門 渡部富栄 ライフサポート社 ・ケアの質を高める看護カウンセリング 飯田澄美子 見藤隆子 医歯薬出版株式会社 | | |
| 授業概要 | 心理学、人間関係論 I を基礎に、看護の基本となる人間関係を発展させるためのカウンセリング技法とその基礎理論および背景を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | 1. 対人援助の専門家としての態度を知り、身につける 2. 自らの言動の傾向、考え方、人間観などについて自己理解を深める 3. 他者の考え方、感じ方等への理解を深め、尊重する 4. 看護の現場特有のカウンセリングのあり方について理解し、実践する | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | コミュニケーションと対人援助の基本的知識 | | |
| 2 | 【演習・ロールプレイ】コミュニケーションを促進する実践的応答 | | |
| 3 | 「準拠枠」に基づく自己の認知と感情の理解 | | |
| 4 | 【演習・ロールプレイ】対人コミュニケーションにおける自己の傾向に気づく | | |
| 5 | 他者理解のための態度、応答技法 | | |
| 6 | 【演習・ロールプレイ】事実・感情・思考を区別しながら他者の話を聴く | | |
| 7 | 【演習・ロールプレイ】実習現場で出会った困難事例への対処を考える | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義 演習(ロールプレイ形式) | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法:筆記試験 100% | | |
| 評価基準: | <input type="checkbox"/> 到達目標にあげた内容について基礎知識の理解度を確認する。 また自分自身の専門家としての課題を発見し、言語化できているかどうかについて査定する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | |
| その他 | 対人援助の専門職としての看護師の職務は感情労働と言われる。自分自身の考え方、感情、価値観などを十分に理解できるようになることは患者さんを理解・尊重し最善のケアを提供するために不可欠だけでなく、専門家として職務に専念できるよう自分自身の心身を健康に保つためにも重要なことである。本講義ではカウンセリングの基礎知識と技法の習得だけでなく、自己理解と他者理解のための演習を取り入れ、対人援助職としての基本的態度を身につけることを目指している。 | | |

| | | | |
|-----------|------------------------|----------|----------|
| 授業科目(必須) | 生命倫理 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 9月 | | |
| 教科書等 | 村上喜良著『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房 | | |

授業概要
看護の実践においては倫理的な様々な問題が起こる。しかもそれらの問題は、善き看護とは何か、そもそも善さとは何か、人間とは何か、という究極の問題につながる。人間存在の根本にある善さ、すなわち徳を見極め、徳を鍛え、現代の高度医療がもたらす倫理的問題を自ら考え、医療スタッフや患者と共に解決していける倫理的リテラシーを身に付けるのが、この授業の目的である。

- 到達目標**
1. 現代医療の倫理的大原則とは何かを理解し、説明できる。
 2. 生命の始まりと終わりにおける倫理的問題を理解し、考察できる。
 3. 生殖補助技術と家族の在り方に関する倫理的問題を理解し、考察できる。
 4. 遺伝子操作による未来社会への影響とその倫理的問題を理解し、考察できる。
 5. 脳死臓器移植における倫理的問題を理解し、考察できる。
 6. 人間存在の根底、すなわちスピリチュアルな次元のケアの在り方について考察できる。

授業計画・授業内容

| 回 | 授業内容 | 備考 |
|---|---|--|
| 1 | 1. 現代医療の四大原則と諸規則、何故そのようなルールが必要か | 事前にテキストを読み、自らの考えをまとめておく。 第1回⇒第1・2章 第2回⇒第3章 第3回⇒第7章 第4回⇒第4章 第5回⇒第5章 第6回⇒第6章 第7回⇒第10章 |
| 2 | 2. 命の始まり 1)胎児の生存権はいつから生じるか 2)中絶に関する様々な立場を考察する | |
| 3 | 2. 命の終わり 1)安楽死と尊厳死の違いと現在の状況を理解する 2)命は誰のものかを考察する | |
| 4 | 3. 生殖補助技術 1)人工授精、体外受精、代理母の倫理的問題を考察する 2)LGBTと生殖補助技術と家族の在り方を考察する | |
| 5 | 4. 遺伝子操作 1)デザイナーベビーとパーフェクトベビーとは 2)未来社会はどうなるのだろうか | |
| 6 | 5. 脳死臓器移植 1)人の死とは何か 2)移植のルールについて考える | |
| 7 | 6. スピリチュアル・ケアの必要性 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 |

授業方法
講義 グループディスカッション

評価方法: 筆記試験100%
評価基準: 筆記試験で、到達目標にある内容を考察する為の理解度を総合的な問題で確認する。
100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。

その他
看護実践において原則を守ることは大切だが、それだけでは対処しえない様々な倫理的問題が起きる。その際、絶対にこうでなければならぬという解決策は、そんなにあるものではない。何が正しい善い看護なのか、それは状況によっても、人によってもそれぞれである。したがって、原則は遵守するとしても、異なった意見を尊重しつつ、何が患者にとって最善なのか、その看護は倫理的に問題がないのかを自ら考える能力とスタッフとともに意見を交わす能力、患者と意見を交わす能力、しっかりと培ってもらいたい。

| | | | |
|---|---|------------------------|-----|
| 授業科目(必須) | 異文化理解 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～9月 | | |
| 教科書等 | Xanthe Smith Serafin, Beauty and the Beast. (IBCパブリッシング) 『英文法確認ワークブック』 | | |
| 授業概要 英文法を正確に理解して英文を読む練習を通して、看護の現場で英語を用いるための基礎能力を養う。 到達目標 1. 比較的平易な英文を読み、内容を理解することができる。 2. 比較的平易な英語で、自分の言いたいことを言うことができる。 3. 異文化に興味を持ち、自分とは違う考え方を尊重することができる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | イントロダクション | | |
| 2 | 文法(Unit 1)、リーディング(3～4ページ) | | |
| 3 | 文法(Unit 2)、リーディング(5～6ページ) | 第1回小テスト(文法Unit 1の内容) | |
| 4 | 文法(Unit 3)、リーディング(7～8ページ) | 第2回小テスト(文法Unit 2の内容) | |
| 5 | 文法(Unit 4)、リーディング(9～10ページ) | 第3回小テスト(文法Unit 3の内容) | |
| 6 | 文法(Unit 5)、リーディング(11～12ページ) | 第4回小テスト(文法Unit 4の内容) | |
| 7 | 文法(Unit 6)、リーディング(13～15ページ) | 第5回小テスト(文法Unit 5の内容) | |
| 8 | 文法(Unit 7)、リーディング(16～17ページ) | 第6回小テスト(文法Unit 6の内容) | |
| 9 | 文法(Unit 8)、リーディング(18～20ページ) | 第7回小テスト(文法Unit 7の内容) | |
| 10 | 文法(Unit 9)、リーディング(21～22ページ) | 第8回小テスト(文法Unit 8の内容) | |
| 11 | 文法(Unit 10)、リーディング(23～24ページ) | 第9回小テスト(文法Unit 9の内容) | |
| 12 | リーディング(25～27ページ) | 第10回小テスト(文法Unit 10の内容) | |
| 13 | リーディング(28～30ページ) | | |
| 14 | リーディング(31ページ)、修了試験 | 筆記試験 | |
| 15 | 期末試験返却・振り返り、リーディング(32～34ページ) | | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 修了試験 55% 平常点(小テスト、提出物等) 45% 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②授業で学習した内容の理解を確認するための小テストを実施する。 ①と②を合計し100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|--|-------------------|---|---|
| 授業科目(必須) | 保健体育 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 9月 ~ 後期 1月 | | |
| 教科書等 | なし | | |
| 授業概要 健康生活を支える運動について理解し自己の体力の維持・増進を図る。個人及び、集団の健康教育に活用できる基礎的な知識を養う。 | | | |
| 目標 1. 運動を行うことによって自己の体調の確認ができる。 2. 自己の体力の維持・増進を図ることができる。 3. 安全に行う必要性を理解し、協力体制が取れる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | | 授業内容 | 備考 |
| 1 | 自己紹介・他者紹介・授業について | <ul style="list-style-type: none"> 川上の自己紹介 2人組でヒヤリング <ul style="list-style-type: none"> 出身地 経験のある運動活動 好きなもの | <ul style="list-style-type: none"> ヒヤリングした仲間の紹介(他者紹介) 授業の内容の目的と評価方法の説明 |
| 2 | 自分を知らう！体力測定 | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 体力とは？と測定の説明 <ul style="list-style-type: none"> 握力 全身反応 | <ul style="list-style-type: none"> 垂直跳び 腹筋 整理運動 |
| 3 | 自分でできる筋トレ&ストレッチ | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 可動範囲の拡さやバランスの説明 2人組で身体可動範囲の確認 筋トレ | <ul style="list-style-type: none"> 体力について、日常では弱い体力項目に合わせた行動、スポーツ時などでは強い項目に合わせた行動になることを理解し、体力向上を促す。 運動不足による疾患についての知識(初歩的)の理解 普段の身体の使い方が筋肉のアンバランスを生み、結果的に不良姿勢につながることを理解し、日常で運動を行うことや良い姿勢を保つよう促す。 |
| 4 | 歩行について | <ul style="list-style-type: none"> 歩行についての説明 準備運動 <ul style="list-style-type: none"> 歩き方のチェック 正しい歩き方 | <ul style="list-style-type: none"> 歩行は誰でも行うことができる身体活動であることを知り、その質を高めることの大切さを知る。 歩行を正しく行うことにより、活動量の増加や均整の取れた身体が維持できることを知る。 |
| 5 | 脂肪燃焼エクササイズ | <ul style="list-style-type: none"> 脂肪を燃焼する運動方法の説明 準備運動 <ul style="list-style-type: none"> 筋トレ エアロビクス | <ul style="list-style-type: none"> 筋トレを行なった後、有酸素運動を行うことが脂肪燃焼に効果的であることを知る。 日常のあらゆる場面で筋トレが行えることを知る。 |
| 6 | 鬼ごっこ(公園) | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 鬼ごっこの内容を決定 鬼ごっこ | <ul style="list-style-type: none"> みんなで協力して楽しむ工夫をすることで、仲間意識を高める。 |
| 7 | インディアカ | <ul style="list-style-type: none"> インディアカの説明 準備運動 <ul style="list-style-type: none"> 球になれる 投げる | <ul style="list-style-type: none"> サーブ |
| 8 | インディアカ(班分け) | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> キャッチボールリレー 円陣パス | <ul style="list-style-type: none"> サーブ 班わけ |
| 9 | インディアカ | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 円陣パス カット練習 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ チーム練習 |
| 10 | インディアカ | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 円陣パス カット練習 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ チーム練習 |
| 11 | インディアカ | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 円陣パス カット練習 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ ゲーム |
| 12 | インディアカ | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 円陣パス カット練習 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ チーム練習 |
| 13 | インディアカ | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 円陣パス カット練習 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ チーム練習 |
| 14 | インディアカ試合 | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 試合 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ チーム練習 |
| 15 | インディアカ試合 | <ul style="list-style-type: none"> 準備運動 インディアカ <ul style="list-style-type: none"> 試合 | <ul style="list-style-type: none"> サーブ チーム練習 |
| 授業方法 講義、実技 評価方法・評価基準 ・評価はA,B,Cの3段階で行う。 ・右記の内容が全てできればA ・絶対評価 評価: 体調管理 時間厳守 挨拶と身だしなみ 協力体制 | | | |
| その他 | | | |

専門基礎分野

| | | | |
|---|---|--|---------------|
| 授業科目(必須) | 人体の構造と機能(人体の概要と発生) | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 大学解剖学教室に勤務 医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次、前期 4月～5月 | | |
| 教科書等 | 系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院 | | |
| <p>授業概要</p> <p>看護の対象である人間を生物学的側面から捉え、人体を構成する組織・器官から細胞までの用語の概念を、医学共通の基本的知識として理解する。さらに、人体の発生と生命の連続性としての機能及び、構造を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 人体の概要を理解する。 2. 人体の発生のメカニズムを理解する。</p> <p>授業計画・授業内容</p> | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 人体とその構成 | | | |
| 1 | 1.形からみた人体 1.体表からみた人体の部位 2.蝕知できる骨格部位 3.蝕知できる大きな筋 | 人体の構造と機能の基本的知識の理解がないとエビデンスをもって看護援助を行うことができない。そのため、人体の構造と機能の基本的知識を養い看護援助に役立てるために学ぶ。 | |
| 2 | 2.素材からみた人体 1.人体とはどのようなものか 2.細胞の構造 3.細胞を構成する物質とエネルギーの生産 | | |
| 3 | 3.細胞膜の構造と機能・細胞の増殖と染色体・細胞がつくる組織 | | |
| 生殖器・人体の発生 | | | |
| 1 | 1.男性生殖器 | 生殖は、貴重な生命を継続可能にしてくれるメカニズムである。生殖器には、第一の特徴と第二の特徴がある。生殖のメカニズムを理解し、生殖器の特徴を学ぶことで、看護援助時に必要な知識を得るために学ぶ。 | |
| 2 | 2.女性の生殖器 | | |
| 3 | 3.受精と胎児の発生 | | |
| 遺 伝 | | | |
| 1 | 1.成長と老化 1.小児期の成長 2.老化 | 身体それぞれの部位・臓器・組織に起こっている現象について学び理解を深める。 | |
| 1 | 1 修了試験 | 筆記試験 | |
| <p>授業方法 講義 解剖見学実習(全講義終了後)</p> <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価方法:筆記試験</p> <p>評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>生物学的側面から人間を理解する最も基本的な知識なので、生体の位置、構造、機能を正確に専門用語を使って理解し、看護援助のエビデンスに活用できるように学ぶ。</p> | | | |

| | | | |
|--|---------------------------|----------|-----------------|
| 授業科目(必須) | 人体の構造と機能(呼吸・循環・血液) | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 大学解剖学教室に勤務 医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間+1時間) | 講義回数 | 15回・オリエンテーション1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次、前期 4月～5月 | | |
| 教科書等 | 系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院 | | |
| 授業概要 | | | |
| 人間の生命維持機能として呼吸、循環、血液、リンパ系の構造と機能を関連づけて理解する。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. 呼吸の機構(換気と発声、ガス交換、ガスの運搬、呼吸調節)を理解する。 | | | |
| 2. 循環系の構造と機能(心臓、血管系、リンパ系)を理解する。 | | | |
| 3. 血液と生体の防御機構を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1.オリエンテーション | | |
| 呼 吸 | | | |
| 1 | 1.呼吸をつかさどる器官の構造 呼吸器系(上気道) | | |
| 2 | 2.呼吸をつかさどる器官の構造 呼吸器系(下気道) | | |
| 3 | 3.呼吸のしくみ(肺組織の機能) | | |
| 4 | 4.呼吸のしくみ(呼吸生理・呼吸調節) | | |
| 循 環 | | | |
| 1 | 1.循環をつかさどる器官の構造(循環器概論) | | |
| 2 | 2.循環をつかさどる器官の構造(脈管・心臓の構造) | | |
| 3 | 3.循環のしくみ(刺激伝達系・心電図) | | |
| 4 | 4.循環のしくみ(頭頸部への動脈系) | | |
| 5 | 5.末梢循環系の構造(動脈系) | | |
| 6 | 6.末梢循環系の構造(静脈系) | | |
| 血液とリンパ液 | | | |
| 1 | 1.血液の循環調節(血圧) | | |
| 2 | 2.血液(赤血球・ヘモグロビン) | | |
| 3 | 3.血液(白血球・血小板) | | |
| 4 | 4.血液(リンパ球) | | |
| 5 | 5.リンパとリンパ管 1.リンパの構造 | | |
| | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義 解剖見学実習(全講義終了後) | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | |
| 評価方法:筆記試験 | | | |
| 評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |
| 人間が生活体として活動していく際の身体的状況を反映する重要な指標としてバイタルサインがある。看護援助の根拠となるので機能とメカニズムを関連づけて理解し、アセスメントに活用する。 | | | |

| | | | |
|--|--|---|---------------|
| 授業科目(必須) | 人体の構造と機能(消化、栄養、代謝) | | |
| 担当講師 | 松川 睦 | 担当講師実務経験 | 大学解剖学教室に勤務 医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回 ・テスト 1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次、前期 7月 | | |
| 教科書等 | 系看 専門基礎 解剖生理学[1] 医学書院 系看専門基礎 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院 | | |
| 授業概要 生命活動に必要な栄養を摂取し体内に蓄え、不要物を排泄するメカニズムについて、構造と機能に関連づけて理解する。 また、栄養素の働きと代謝についても関連づけて理解する。 | | | |
| 到達目標 1. 栄養摂取の機構(食欲、咀嚼、嚥下、消化と吸収、代謝)を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 消化・吸収・排泄 | | | |
| 1 | 1.口の構造と機能 1.口腔 | 私たちが生きていくために必須である消化して吸収するはたらきをしているのが、消化器系である。消化器系は、口から肛門まで続く1本の消化管といくつかの器官で構成されている。その消化管の構造と機能を学習し、看護援助を实践するのに必要な知識を深めるために学ぶ。 | |
| | 2.口の構造と機能 1.歯 2.舌 | | |
| 2 | 3.咽頭と食道の構造と機能 1.咽頭 2. 嚥下 | | |
| | 4.咽頭と食道の構造と機能 1.食道 | | |
| 3 | 5.腹部消化管の構造と機能 1.胃の構造 2. 胃の機能 | | |
| | 6.腹部消化管の構造と機能 1.空腸と回腸 | | |
| 4 | 7.腹部消化管の構造と機能 1.小腸の構造 2.小腸の機能 | | |
| | 8.腹部消化管の構造と機能 1.大腸の構造 2.大腸の機能 | | |
| 5 | 9.膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1. 膵臓 | | |
| | 10.膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1.肝臓と胆嚢の構造 | | |
| 6 | 11.膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1.肝臓の機能 | | |
| | 12.腹膜 | | |
| 栄養と代謝 | | | |
| 1 | 1.栄養素の消化と吸収 1.糖質の消化と吸収 2.タンパク質の消化と吸収 | | |
| | 2.栄養素の消化と吸収 1.脂肪の消化と吸収 2.水・電解質・ビタミンの吸収 | | |
| 1 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 解剖見学実習(全講義終了後) 評価方法・評価基準 評価方法: 評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 日常生活を営んでいる人間の生物体としての側面から人体をとらえ、正常時の構造・機能を理解し、看護援助を实践する時の根拠となる知識となります。フィジカルアセスメントする際の最も基本的な知識となりますので、確実な知識を学ぶ。 | | | |

| | | | |
|--|--|----------|---------------|
| 授業科目(必須) | 人体の機能と構造 腎泌尿器系・内部環境の調節 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 大学解剖学教室に勤務 医師 |
| 単位数(時間) | 1単位30時間 | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次、前期～後期 9月～10月 | | |
| 教科書等 | 系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院 | | |
| 授業概要 <p>生体の内部環境を維持するために、尿の生成・体液及び電解質が支える物流機構、内分泌系による調節機構の構造及び機能について理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の機構(尿の生成、細胞外液の調節、排尿、排便)を理解する。 2. 内分泌系(ホルモン、ホルモン分泌の調節、機能)を理解する。 <p>授業計画・授業内容</p> | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 《泌尿器系》 | | | |
| 1 | 1.腎臓の機能と構造 1.腎臓の構造と機能 2.糸球体の構造と機能 3.尿細管の構造と機能 | | |
| 2 | 2.腎臓の機能と構造 1.傍糸球体装置 2.クリアランスと糸球体濾過量 3.腎臓から分泌される生理活性物質 | | |
| 3 | 3.排尿路の機能と構造 1.尿管・膀胱・尿道 | | |
| 4 | 4.排尿路の機能と構造 1.尿の貯蔵と排尿 | | |
| 《体液と電解質》 | | | |
| 1 | 1.体液の調節 1.水の出納 2.脱水 | | |
| 2 | 2.浸透圧・酸塩基平衡 | | |
| 《内分泌》 | | | |
| 1 | 1.内分泌系概論 1.内分泌とホルモン | | |
| 2 | 2.内分泌系概論 1.ホルモンの化学構造と作用機序 | | |
| 3 | 3.ホルモンを分泌する器官の構造 1.視床下部 | | |
| 4 | 4.ホルモンを分泌する器官の構造 1.下垂体系 | | |
| 5 | 5.ホルモンを分泌する器官の構造 1.松果体 2.甲状腺 | | |
| 6 | 6.ホルモンを分泌する器官の構造 1.上皮小体 2.膵島 | | |
| 7 | 7.ホルモンを分泌する器官の構造 1.副腎 2.性腺 3.その他の内分泌線 | | |
| 《体温とその調節》 | | | |
| 1 | 1.体温とその調節 1.体温調節 | | |
| 2 | 2.自律神経による調節 | | |
| | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義 解剖見学実習(全講義終了後) 評価方法・評価基準 評価方法:筆記試験 評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 尿の生成及び体液、電解質が生命体の内部環境保持の重要な因子であることを理解し、看護実践のアセスメントの根拠とする内容を学ぶ。 | | | |

| | | | |
|--|---|----------|---------------|
| 授業科目(必須) | 人体の構造と機能(骨格・筋肉・神経・感覚器) | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 大学解剖学教室に勤務 医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次、前期 6月 ~ 7月 | | |
| 教科書等 | 系看 解剖生理学[1] 解剖生理学 医学書院 | | |
| 授業概要 <p>人体を形成している骨格と筋について位置、構造と機能を関連づけて理解する。生体が個体として生きていくために外界からの刺激や情報を各器官がどのように受容し、調和のとれた働きができるのかについて神経性調節及び感覚器を認識と関連づけて理解する。</p> 到達目標 1. 中枢神経を構成する器官の構造と機能 2. 末梢神経を構成する器官の構造と機能 3. 脳神経系による情報処理能力 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 骨 格 | | | |
| 1 | 1. 骨格とはどのようなものか 骨の連結 | | |
| 筋 肉 | | | |
| 1 | 1. 骨格筋 1.骨格筋の構造 2.骨格筋の作用 3.骨格筋の神経支配 | | |
| 2 | 2.体幹の骨格と筋 1.脊髄 2.胸郭 3.背部の筋 4.胸部の筋 5.腹部の筋 | | |
| 3 | 3.上肢の骨格と筋 | | |
| 4 | 4.下肢の骨格と筋 1.下肢帯と骨盤 2.自由下肢の骨格 3.下肢帯の筋群 | | |
| 5 | 5.下肢の骨格と筋 1.大腿の筋群 2.下肢の筋 3.足の筋 4.下肢の運動 | | |
| 6 | 6.頭頸部の骨格と筋 | | |
| 7 | 7.筋の整理 | | |
| 神 経 | | | |
| 1 | 1.情報の受容と処理 | | |
| 2 | 2.脊髄と脳幹 | | |
| 3 | 3.小脳と間脳 | | |
| 4 | 4.大脳皮質、脳室・髄膜 | | |
| 5 | 5.脊髄神経と脳神経 | | |
| 6 | 6.脳の高次機能 | | |
| 感 覚 器 | | | |
| 1 | 1.伝達路、感覚器、皮膚の構造 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 解剖見学実習(全講義終了後) 評価方法・評価基準 評価方法: 評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |
| 人間が活動するうえで重要な因子であることを理解し、看護実践のアセスメントの根拠とする内容を学ぶ。 | | | |

| | | | |
|--|--|----------|--|
| 授業科目(必須) | 微生物学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 大学微生物学 医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月 ~ 9月 | | |
| 教科書等 | 系看専門基礎3・疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕微生物学(医学書院) | | |
| 授業概要 <p>微生物の特徴と生体におよぼす影響及び病原微生物について理解し、感染予防について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の概念と変遷が理解できる。 2. 感染と発病が理解できる。 3. 微生物の種類と特徴が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. 微生物学の概念と変遷 1) 微生物学の歩み | | |
| 2 | 2) 微生物学と看護 3) 微生物の分布と人体 | | |
| 3 | 2. 感染と発病 1) 環境と栄養 | | 微生物が水や土壌の中など自然界での生活から、別の生き物のからだの中にまでも生活域を広げて増殖し、感染する生物(宿主)を病気にしたり、死に追いやったりする現象を学習する。 |
| 4 | 2) 人体と感染防御機構と免疫反応 | | |
| 5 | 3) 感染・発病を規定する要因 | | |
| 6 | 4) 常在細菌叢 | | |
| 7 | 5) 感染源と感染経路 6) 病原微生物の感染経路と潜伏期間 7) 化学療法と薬剤耐性菌 | | |
| 8 | 3. 微生物の種類と特徴 1) 細菌 | | 微生物である、細菌・ウイルス・真菌・原虫の形態と構造を学習する。 |
| 9 | 2) ウイルス | | |
| 10 | | | |
| 11 | 3) 真菌 | | |
| 12 | | | |
| 13 | 4) 原虫 | | 感染源対策・感染経路対策について学習する。 修了試験を含む。 |
| 14 | 4. 感染予防の手段 1) 滅菌と消毒 | | |
| 15 | 2) 伝染病の予防 | | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 前半の中間試験 50%・終了時筆記試験 50% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を抽出する。 ②前半の中間試験・終了時の終講試験を合計して100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 看護は健康上に問題を持つ人が対象となる。健康障害の主たる原因である微生物について、正しく理解することである。 | | | |

| 授業科目(必須) | 病理学総論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|------------|---|------|----|---|----------------------------|----------------------------|---|---|---|---|---|-------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|-------------------|--------------------|---|------|------|
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 臨床医師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 講義7回・テスト1回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 10月～11月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 系看専門基礎4・疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 (医学書院) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 <p>疾病の原因や発生病理の形態と機能および代謝変化のメカニズムを理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異常状態に影響する個人の条件(免疫、代謝異常、老化、先天異常)が理解できる。 2. 細胞や組織に生じる変化(炎上、変性、壊死、循環障害、腫瘍など)が理解できる。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 病理学とは 2. 細胞・組織の障害と修復</td> <td>病気の原因、成り立ちについて、正しい知識を学習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 先天異常 1) 奇形と遺伝性疾患 2) 奇形の種類 3) 遺伝の関与しない奇形 4) 遺伝の関与する奇形 5) 遺伝異常による疾患 6) 遺伝性疾患の診断と治療</td> <td>遺伝に関する基礎的知識を身につけて、先天異常・遺伝子異常とはどのようなものか、どのような原因で生じるかを学習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4. 代謝障害 1) 萎縮と肥大 2) 変性 3) 壊死</td> <td>生活習慣病として、相互に密接に関わる疾患について学習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5. 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 循環血液量の障害 3) 閉塞性の循環障害 4) 側副循環 5) リンパの循環障害</td> <td>がん・心筋梗塞などの心疾患や、脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患の原因・成り立ちについて学習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>6. 炎症と免疫 1) 炎症の原因と免疫反応 2) 炎症の各型 3) 免疫と疾患 4) 炎症の治療 5) 損傷修復と再生</td> <td>生体の防御反応としての炎症と免疫について、免疫反応がもたらすアレルギーや自己免疫疾患について学習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>7. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の転移と進行度 3) 腫瘍の発生病理 4) 加齢と悪性腫瘍の発生 5) 腫瘍の診断と治療</td> <td>悪性腫瘍は死因の第1位であり、腫瘍とは何か、がん腫と肉腫の違い、悪性腫瘍と良性腫瘍の違いについて学習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>8. 移植 9. 多臓器不全</td> <td>移植を含む再生医療について学習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>修了試験</td> <td>筆記試験</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業方法 講義</p> <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価方法: 筆記試験 100%</p> <p>評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を抽出する。 ②筆記試験で、100点をもって満点とし60点以上を合格とする。</p> <p>その他</p> <p>健康が障害されたとき、からだの中ではどのようなメカニズムが働いているのかについて、共通基本的な知識を学習する。</p> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 1 | 1. 病理学とは 2. 細胞・組織の障害と修復 | 病気の原因、成り立ちについて、正しい知識を学習する。 | 2 | 3. 先天異常 1) 奇形と遺伝性疾患 2) 奇形の種類 3) 遺伝の関与しない奇形 4) 遺伝の関与する奇形 5) 遺伝異常による疾患 6) 遺伝性疾患の診断と治療 | 遺伝に関する基礎的知識を身につけて、先天異常・遺伝子異常とはどのようなものか、どのような原因で生じるかを学習する。 | 3 | 4. 代謝障害 1) 萎縮と肥大 2) 変性 3) 壊死 | 生活習慣病として、相互に密接に関わる疾患について学習する。 | 4 | 5. 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 循環血液量の障害 3) 閉塞性の循環障害 4) 側副循環 5) リンパの循環障害 | がん・心筋梗塞などの心疾患や、脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患の原因・成り立ちについて学習する。 | 5 | 6. 炎症と免疫 1) 炎症の原因と免疫反応 2) 炎症の各型 3) 免疫と疾患 4) 炎症の治療 5) 損傷修復と再生 | 生体の防御反応としての炎症と免疫について、免疫反応がもたらすアレルギーや自己免疫疾患について学習する。 | 6 | 7. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の転移と進行度 3) 腫瘍の発生病理 4) 加齢と悪性腫瘍の発生 5) 腫瘍の診断と治療 | 悪性腫瘍は死因の第1位であり、腫瘍とは何か、がん腫と肉腫の違い、悪性腫瘍と良性腫瘍の違いについて学習する。 | 7 | 8. 移植 9. 多臓器不全 | 移植を含む再生医療について学習する。 | 8 | 修了試験 | 筆記試験 |
| 回 | 授業内容 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 病理学とは 2. 細胞・組織の障害と修復 | 病気の原因、成り立ちについて、正しい知識を学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 3. 先天異常 1) 奇形と遺伝性疾患 2) 奇形の種類 3) 遺伝の関与しない奇形 4) 遺伝の関与する奇形 5) 遺伝異常による疾患 6) 遺伝性疾患の診断と治療 | 遺伝に関する基礎的知識を身につけて、先天異常・遺伝子異常とはどのようなものか、どのような原因で生じるかを学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 4. 代謝障害 1) 萎縮と肥大 2) 変性 3) 壊死 | 生活習慣病として、相互に密接に関わる疾患について学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 5. 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 循環血液量の障害 3) 閉塞性の循環障害 4) 側副循環 5) リンパの循環障害 | がん・心筋梗塞などの心疾患や、脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患の原因・成り立ちについて学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 6. 炎症と免疫 1) 炎症の原因と免疫反応 2) 炎症の各型 3) 免疫と疾患 4) 炎症の治療 5) 損傷修復と再生 | 生体の防御反応としての炎症と免疫について、免疫反応がもたらすアレルギーや自己免疫疾患について学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 7. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の転移と進行度 3) 腫瘍の発生病理 4) 加齢と悪性腫瘍の発生 5) 腫瘍の診断と治療 | 悪性腫瘍は死因の第1位であり、腫瘍とは何か、がん腫と肉腫の違い、悪性腫瘍と良性腫瘍の違いについて学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 8. 移植 9. 多臓器不全 | 移植を含む再生医療について学習する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 修了試験 | 筆記試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|--|--|--|-----------|
| 授業科目(必須) | 呼吸器・循環器系疾病論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実績経験 | 臨床医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 10月～3月 | | |
| 教科書等 | 系看・成人看護学2呼吸器疾患患者の看護、3循環器疾患患者の看護(医学書院) 系看・臨床外科看護各論(医学書院) | | |
| 授業概要 呼吸器系循環器系における生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。 | | | |
| 到達目標 1. 呼吸機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。 2. 循環機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 呼吸器系疾病論 | | | |
| 1 | 1. 呼吸器系に障害がある時の主な症状と病態生理 1)呼吸困難 | 既習の解剖生理学・病理学(特に呼吸器系)の内容を復習し講義に臨む。 1回から5回目の内科的疾患の治療終了後6・7回目の外科的治療について講義する。 検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 50点 |
| 2 | 2)咳嗽 3)喘鳴 4)喀痰 5)胸水 6)咯血 など 2. 主な検査 1)X線検査 2)血液ガス分析検査 3)肺機能検査 4)肺生検 5)CTスキャン 6)胸腔穿刺など | | |
| 3 | 3. 主な治療 1)酸素療法2)薬物療法3)放射線療法4)肺理学療法5)気管切開 6)胸腔ドレナージなど | | |
| 4 | 4. 主な疾患 1)肺炎・間質性肺炎 2)気管支喘息 | | |
| 5 | 3)気管支拡張症 4)慢性閉塞性肺疾患 5)肺結核 6)肺がん7)自然気胸など | | |
| 6 | 4. 主な疾患(自然気胸の病態と治療) 5)手術療法 | | |
| 7 | 4. 主な疾患(肺がんの治療) 5)手術療法 | | |
| 循環器系疾病論 | | | |
| 1 | 1. 循環器系に障害がある時の主な症状と病態生理 1)動悸 2)呼吸困難 息切れ 3)胸痛 4)不整脈 5)チアノーゼなど 2. 主な検査 1)X線検査 2)心電図(負荷心電図含む) 3)心エコー 4)中心静脈圧測定 5)心臓カテーテル法 6)心臓血管造影など 3. 主な治療 1)安静療法 2)酸素療法 3)食事療法(Na制限、水分制限) 4)薬物療法 5)心臓ペースメーカー 6)PTCR, PTCA など | 既習の解剖生理学・病理学(特に循環器系)の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 内科系の疾患や治療、麻酔学の講義終了後に外科的治療を必要とする疾患と手術療法について学習する。 | 50点 |
| 2 | 主な検査と症状:心電図、不整脈 | | |
| 3 | 4. 主な疾患 1)心臓弁膜症 2)先天性心疾患 | | |
| 4 | 4. 主な疾患 3)狭心症 4)心筋梗塞 | | |
| 5 | 4. 主な疾患 5)心不全 | | |
| 6 | 4. 主な疾患 6)高血圧 などその他の循環器疾患 | | |
| 7 | 4. 主な疾患(狭心症、弁膜症) 7)手術療法 | | |
| 8 | 4. 主な疾患(大動脈瘤、先天性心疾患など) 7)手術療法 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義 | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法:筆記試験100% 評価基準:筆記試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | |
| その他 | 解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。 | | |

| | | | |
|----------------|---|--|-----------|
| 授業科目(必須) | 消化器系疾病論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実績経験 | 臨床医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 10月～3月 | | |
| 教科書等 | 系看・成人看護学5 消化器疾患患者の看護(医学書院) 系看・成人看護学5 消化器疾患患者の看護(医学書院) | | |
| 授業概要 | <p>消化器系における生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</p> | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 消化器系疾病論(内科的疾患) | | | |
| 1 | 1. 消化器系に障害がある時の主な症状と病態生理 1)嘔下困難 2)食欲不振 3)腹痛 4)吐血・下血 5)嘔気・嘔吐 6)腹水 7)排便異常 8)腹部膨満 9)出血傾向 10)肝性昏睡 11)黄疸 12)体重減少など | 既習の解剖生理学・病理学(特に消化器系)の内容を復習し講義に臨む。 1回から7回目の内科的疾患の治療終了後外科的治療について講義する。 検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 60点 |
| 2 | 2. 主な検査 1)血液検査 2)肝機能検査 3)糞便検査 4)内視鏡検査 5)細胞診 6)放射線検査(X線検査、PTC、ERCP、血管造影 など) 7)CTスキャン 8)MRI 9)陽電子放射断層撮影(PET) | | |
| 3 | 上部消化管疾患 食道がん、胃十二指腸潰瘍、胃がんの内科的治療 | | |
| 4 | 腸及び腹膜疾患 潰瘍性大腸炎、クローン病、消化管憩室の内科的治療 | | |
| 5 | 胆・膵疾患 胆石症、胆嚢炎、胆のうがん、胆管がん、膵炎、すい臓がんの内科的治療 | | |
| 6 | 肝疾患 肝硬変の治療 | | |
| 7 | 肝疾患 肝臓がんの内科的治療 | | |
| 消化器系疾病論(外科的疾患) | | | |
| 1 | 胆道疾患 手術療法 | 既習の解剖生理学・病理学(特に消化器系)の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 内科系の疾患や治療、麻酔学の講義終了後に外科的治療を必要とする疾患と手術療法について学習する。 | 40点 |
| 2 | 食道、胃、十二指腸 手術療法 | | |
| 3 | 肝疾患 手術療法 | | |
| 4 | 膵疾患 手術療法 | | |
| 5 | 肛門疾患 手術療法 | | |
| 6 | 大腸がん 手術療法 | | |
| 7・8 | 歯牙、口腔疾患 症状と病態、検査、治療 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義 | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>評価方法:筆記試験100%</p> <p>評価基準:修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | <p>解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。</p> | | |

| | | | |
|---|---|--|-----------|
| 授業科目(必須) | 内分泌・代謝系・女性生殖器系疾病論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実績経験 | 臨床医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 10月～3月 | | |
| 教科書等 | 系看 成人看護学(内分泌・代謝疾患患者の看護)(女性生殖器疾患患者の看護) 系看 臨床外科看護各論(医学書院) | | |
| 授業概要 内分泌・代謝系及び女性生殖器系における生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。 | | | |
| 到達目標 1. 内部環境調節機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解できる。 2. 生命の連属性をつくりだす機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 内分泌代謝系疾病論 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 1 | 1. 内分泌系に障害がある時の主な症状と病態生理 1) 頻脈、 2) 口渇 3) 体重の異常 4) 血糖の異常 5) テタニーなど | 既習の解剖生理学・病理学(特に呼吸器系)の内容を復習し講義に臨む。検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 50点 |
| | 2. 主な検査 1). 基礎代謝 2) 血液検査など | | |
| 3 | 3. 主な治療 1) 薬物療法 2) 運動療法 3) 食事療法 4) 安静療法 5) 手術療法など | | |
| 4 | 4. 主な疾患 1) バセドウ病 2) クッシング症候群 3) 痛風 4) 糖尿病 5) 甲状腺腫 など | | |
| 5 | 5. 糖尿病の治療 | | |
| 6 | 1. 甲状腺疾患1 主な検査、主な治療 | | |
| 7 | 1. 甲状腺疾患2 主な検査、主な治療 | | |
| 女性生殖器系 | | | |
| 1 | 1. 女性生殖器系に障害がある時の主な症状と病態生理 1) 月経異常 2) 帯下 3) 乳房腫瘍 など | 既習の解剖生理学・病理学(特に循環器系)の内容を復習し講義に臨む。代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 50点 |
| 2 | 主な検査 1) 超音波検査 2) 子宮卵管造影 3) コルポスコピー 4) 基礎体温測定 | | |
| 3 | 4. 主な治療 1) 薬物療法 2) 手術療法 3) 放射線療法 | | |
| 4 | 4. 主な疾患 1) 子宮筋腫 2) 子宮内膜症 3) 不妊症 4) 膣炎 | | |
| 5 | 5. 主な疾患 1) 子宮がん 2) 卵巣腫瘍 | | |
| 6 | 乳がんの概念 乳がんの診断、治療について | | |
| 7 | 乳がん 奨励検討 | | |
| 1 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 評価方法・評価基準 | 講義 評価方法 : 筆記試験100% 評価基準 : 修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | |
| その他 | 解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。 | | |

| | | | |
|--|--|--|------|
| 授業科目(必須) | 脳神経系・運動器系疾病論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実績経験 | 臨床医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 4月～7月 | | |
| 教科書等 | 系看成人看護学〔7〕脳・神経〔10〕運動器(医学書院) | | |
| <p>授業概要</p> <p>脳神経運動器系における生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 脳機能の障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。 2. 運動機能の障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</p> <p>授業計画・授業内容</p> | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 脳神経系疾病論 | | | |
| 1 | 1. 脳神経系に障害がある時の主な症状と病態生理 意識障害、高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害、反射性運動障害、 頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 30点 |
| 2 | 2. 主な検査 脳血管撮影、EEG、髄液検査、MRI、CT、MRAなど | | |
| 3 | 3. 主な治療 手術療法、理学療法、薬物療法、放射線療法、安静療法など | | |
| 4 | 4. 主な疾患 脳梗塞、脳出血、脳動脈瘤、脳腫瘍、頭部外傷、脳動静脈奇形など | | |
| 5 | 1. 脱髄疾患、神経変性疾患 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療 | | 30点 |
| 6 | 1. 脊髄疾患と中毒 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療 | | |
| 7 | 1. 末梢神経・筋疾患 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療 | | |
| 8 | 1. 神経系の感染症、内科疾患に伴う神経疾患 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療 | | |
| 9 | 1. 認知症、てんかん 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療 | | |
| 運動器系疾病論 | | | |
| 1 | 1. 運動器系の解剖生理 1) 骨、関節、筋について | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 40点 |
| 2 | 2. 主な検査 1) 計測法、脊髄造影法、筋電図、知覚検査、関節鏡、関節液検査、生検など | | |
| 3 | 3. 骨折 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療(手術療法、ギプス、牽引など) | | |
| 4 | 4. 神経、関節(変形性股関節症、慢性関節リウマチ等) 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療(手術療法、薬物療法、など) | | |
| 5 | 5. 腫瘍、脊髄疾患(椎間板ヘルニア、脊髄損傷等) 1) 主な症状と病態、2) 主な検査、3) 主な治療(手術療法、理学療法、装具など) | | |
| 1 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義 | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>評価方法: 筆記試験100%</p> <p>評価基準: 修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | <p>解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。</p> | | |

| 授業科目(必須) | 自己免疫、血液・造血器系、腎泌尿器系疾病論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|-----------|---|------|----|----|----------|--|--|--|---|---|--|-----|---|------------------------------------|---|---------------------------------|-----------|--|--|--|---|---|--|---|------------------------------------|---|--|---|--|------|--|--|--|---|--|---|-----|---|---|---|-----------------------------|---|----------|---------|--|--|--|---|--|---|-----|---|---|---|----------------------------------|---|---------|------|--|------|----|--|--|-----------|--|--|--|-----|---|--|--|
| 担当講師 | | 担当講師実績経験 | 臨床医師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト1回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 1月～3月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 系看 成人看護学[11]アレルギー・膠原病・感染症 系看 成人看護学[4] 血液・造血器 系看 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>血液造血器系腎泌尿器系における生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の防御機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。 2. 造血機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。 3. 排泄機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">自己免疫系疾病論</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. 自己免疫系の疾患、症状と病態生理 SLE、AIDS・HIV感染症、慢性関節リウマチ、アレルギーなど</td> <td rowspan="3">既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。</td> <td rowspan="7">50点</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 主な検査 抗原・抗体検査、LE細胞試験、抗原抗体反応など</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 主な治療 脱感作療法、免疫療法、ステロイド療法など</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">血液造血器系疾病論</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1. 血液・造血器系に障害がある時の主な症状と病態生理 貧血、出血傾向、白血球減少症、脾腫、リンパ節腫脹など</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2. 主な検査 骨髓穿刺、血液検査、リンパ節生検、RI検査など</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>3. 主な治療 骨髓移植、輸血療法、化学療法、放射線療法、食事療法など</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>4. 主な疾患 白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、多発性骨髄腫、血友病など</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">腎疾病論</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. 腎臓に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など</td> <td rowspan="4">既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。</td> <td rowspan="4">30点</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー、腎生検 3. 主な治療 安静療法、食事療法、薬物療法、透析療法</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4. 主な疾患 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5. 透析室見学</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">泌尿器系疾病論</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. 泌尿器系に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など</td> <td rowspan="3">既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。</td> <td rowspan="3">20点</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー 3. 主な治療 放射線療法、ESWL、手術療法など</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4. 主な疾患 尿路結石、膀胱腫瘍、腎腫瘍、前立腺肥大など</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. 修了試験</td> <td>筆記試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業方法</td> <td colspan="3">講義</td> </tr> <tr> <td>評価方法・評価基準</td> <td colspan="3">評価方法:筆記試験100% 評価基準:修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="3">解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 | 自己免疫系疾病論 | | | | 1 | 1. 自己免疫系の疾患、症状と病態生理 SLE、AIDS・HIV感染症、慢性関節リウマチ、アレルギーなど | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 50点 | 2 | 2. 主な検査 抗原・抗体検査、LE細胞試験、抗原抗体反応など | 3 | 3. 主な治療 脱感作療法、免疫療法、ステロイド療法など | 血液造血器系疾病論 | | | | 4 | 1. 血液・造血器系に障害がある時の主な症状と病態生理 貧血、出血傾向、白血球減少症、脾腫、リンパ節腫脹など | | 5 | 2. 主な検査 骨髓穿刺、血液検査、リンパ節生検、RI検査など | 6 | 3. 主な治療 骨髓移植、輸血療法、化学療法、放射線療法、食事療法など | 7 | 4. 主な疾患 白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、多発性骨髄腫、血友病など | 腎疾病論 | | | | 1 | 1. 腎臓に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 30点 | 2 | 2. 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー、腎生検 3. 主な治療 安静療法、食事療法、薬物療法、透析療法 | 3 | 4. 主な疾患 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、 | 4 | 5. 透析室見学 | 泌尿器系疾病論 | | | | 1 | 1. 泌尿器系に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 20点 | 2 | 2. 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー 3. 主な治療 放射線療法、ESWL、手術療法など | 3 | 4. 主な疾患 尿路結石、膀胱腫瘍、腎腫瘍、前立腺肥大など | 1 | 1. 修了試験 | 筆記試験 | | 授業方法 | 講義 | | | 評価方法・評価基準 | 評価方法:筆記試験100% 評価基準:修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | その他 | 解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。 | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己免疫系疾病論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 自己免疫系の疾患、症状と病態生理 SLE、AIDS・HIV感染症、慢性関節リウマチ、アレルギーなど | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 50点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2. 主な検査 抗原・抗体検査、LE細胞試験、抗原抗体反応など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 3. 主な治療 脱感作療法、免疫療法、ステロイド療法など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 血液造血器系疾病論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 1. 血液・造血器系に障害がある時の主な症状と病態生理 貧血、出血傾向、白血球減少症、脾腫、リンパ節腫脹など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 2. 主な検査 骨髓穿刺、血液検査、リンパ節生検、RI検査など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 3. 主な治療 骨髓移植、輸血療法、化学療法、放射線療法、食事療法など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 4. 主な疾患 白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、多発性骨髄腫、血友病など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腎疾病論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 腎臓に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 30点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2. 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー、腎生検 3. 主な治療 安静療法、食事療法、薬物療法、透析療法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 4. 主な疾患 腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 5. 透析室見学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 泌尿器系疾病論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 泌尿器系に障害がある時の主な症状と病態生理 尿の異常、浮腫、尿毒症、排尿異常など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 20点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2. 主な検査 尿検査、腎機能検査、X線検査、エコー 3. 主な治療 放射線療法、ESWL、手術療法など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 4. 主な疾患 尿路結石、膀胱腫瘍、腎腫瘍、前立腺肥大など | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 修了試験 | 筆記試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法:筆記試験100% 評価基準:修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。 毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|---|--|----------------------|
| 授業科目(必須) | 感覚系疾病論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実績経験 | 臨床医師 皮膚・排泄ケア認定看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回・テスト |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 4月～7月 | | |
| 教科書等 | 系看成人看護学[14]耳鼻咽喉 [12]皮膚 [13]眼 (医学書院) | | |
| <p>感覚器系における生体の正常な生理機能の疾患による変化や、疾病の症状や徴候に起因する身体内部の過程について学び、看護の根拠とする。さらに、回復に必要な治療や検査についても理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1. 感覚機能障害の主な症状、病態生理、検査、治療について理解する。</p> <p>授業計画・授業内容</p> | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 耳鼻咽喉科系疾病論 | | | |
| 1 | 1. 耳鼻咽喉系に障害がある時の主な症状と病態生理 耳：難聴、耳鳴、眩暈など 鼻：鼻閉、嗅覚障害など 咽頭・喉頭：咽頭痛、嚥下障害、音声・言語障害など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 検査・治療や疾病の理解が進むよう模型や視聴覚教材を活用して講義をする。 | 25点 |
| 2 | 2. 主な検査 聴力検査、平衡機能検査、副鼻腔検査、内視鏡検査、画像検査など | | |
| 3 | 3. 主な治療 外耳疾患、中耳疾患、内耳・後迷路性疾患、外鼻疾患、鼻腔疾患、副鼻腔疾患、咽頭疾患、唾液疾患、喉頭疾患、音声・言語障害など | | |
| 4 | 4. 主な疾患 咽頭疾患、唾液疾患、喉頭疾患、音声・言語障害など | | |
| 眼科系疾病論 | | | |
| 1 | 1. 眼科系に障害があるときの主な症状と病態生理 視力障害、視野障害、色覚異常、複視、充血、流涙、羞明、眼痛など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 25点 |
| 2 | 2. 主な検査 視力検査、屈折検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧検査など | | |
| 3 | 3. 主な治療 点眼法、洗眼法、涙嚢洗浄、涙管プジー、光凝固、屈折矯正、手術など | | |
| 4 | 4. 主な疾患 屈折・調節・色覚の異常、眼瞼・結膜・角膜・眼底・水晶体の疾患・緑内障など | | |
| 皮膚疾病論 | | | |
| 1 | 1. 皮膚に障害があるときの主な症状と病態生理 発疹、掻痒など | 既習の解剖生理学・病理学の内容を復習し講義に臨む。 代表的な疾患に焦点を当てながら関連する症状や検査治療を学ぶ。 | 50点 |
| 2 | 2. 主な検査 免疫・アレルギー検査、光線過敏症検査 | | |
| 3 | 3. 主な治療 外用療法、光線療法、手術療法 | | |
| 4 | 4. 主な疾患 表在性皮膚疾患、真皮・皮下組織および皮膚付属器の疾患、物理的皮膚障害など | | |
| 5 | 1. 褥瘡発生のメカニズム 2. 褥瘡のアセスメント 3. 褥瘡の予防 | | |
| 6 | 4. スキンケア 5. 褥瘡の分類と創面評価 | | |
| 7 | 6. スキンケア・褥瘡リスクアセスメント演習 | | |
| 1 | 1. 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義 | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>評価方法：筆記試験100%</p> <p>評価基準：修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | <p>解剖生理学や病理学、臨床薬理など既習学習を活用し学習すること。</p> <p>毎講義後復習をして理解を深め、主体的な姿勢で学習に取り組むこと。</p> | | |

| | | | |
|---|---|----------|---|
| 授業科目(必須) | 臨床薬理 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 指導薬剤師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 10月～2月 | | |
| 教科書等 | 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 | | |
| 授業概要 <p>健康障害に対する治療の重要な柱である薬物療法の基礎知識を学び、病態生理と合わせて身体内で薬物がどのように作用しているのか学び、対象の看護の根拠とする。</p> | | | |
| 到達目標 1. 薬物の特徴、作用機序が理解できる。 2. 薬物の取り扱い、管理方法が理解できる。 3. 主な治療薬剤とその特徴が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. 薬理学総論 1)薬理学概要 2)薬物と法令 3)薬物の作用 4)薬物の体内動態 | | 薬物療法において、安全かつ有効な医療をもたらす、患者の早期回復につながる基本的知識を学習する。 |
| 2 | 5)薬物の有害作用 6)薬物の保管・管理 7)薬剤添付文書の読み方 8)薬剤の濃度・量の単位の見方 9)新薬とジェネリック医薬品 | | |
| 3 | 2. 薬理学各論 1)中枢神経に作用する薬物 | | 各疾患・治療に使用される薬物の種類、使用目的、作用、有害作用、禁忌などを学習する。 |
| 4 | 2)末梢神経に作用する薬物 | | |
| 5 | 3)オータコイド・アレルギー用薬 | | |
| 6 | 4)心臓・血管系に作用する薬物 | | |
| 7 | 5)血液造血器系に作用する薬物 | | |
| 8 | 6)呼吸器系に作用する薬物 | | |
| 9 | 7)消化器系に作用する薬物 | | |
| 10 | 8)生殖器系に系に作用する薬物 | | |
| 11 | 9)物質代謝に作用する薬物 | | |
| 12 | 10)抗感染症薬 | | |
| 13 | 11)抗悪性腫瘍薬 | | |
| 14 | 12)漢方薬 13)生物学的製剤と診断用薬 | | |
| 15 | 14)薬・毒物中毒の処置 | | |
| | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を抽出する。 ②修了試験で、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 治療の重要な柱である薬物療法の基本となる知識を学習する。 病態生理と合わせて身体内で薬物がどのように作用しているか学び、基礎看護方法論をはじめとする各看護学での診療の補助技術のエビデンスとしていくことである。 | | | |

| | | | |
|--|---|---|----------------------|
| 授業科目(必須) | 治療学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 管理栄養士、理学療法士、放射線診断専門医 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 10月 ~ 2月 | | |
| 教科書等 | 系看別巻5食事療法(医学書院)、食品成分表(女子栄養大学) 系看別巻7臨床放射線医学(医学書院) 新体系看護学36リハビリテーション看護(メヂカルフレンド社) | | |
| 授業概要 | | | |
| 回復を目的に行う医学的な処置である治療の代表的なものを取り上げ学習し、治療を受ける患者の看護を行う上での基礎的知識を得る。 | | | |
| 到達目標 | | | |
| 1. 食事療法の基礎と各障害に伴う食事療法について理解できる。 2. 放射線の基礎知識と放射線による検査、治療について理解できる。 3. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術の基礎が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 食事療法 | | | |
| 1 | 《食事療法》(管理栄養士;10h) 1. 食事療法の基礎 1)各栄養素の役割 2)栄養所要量 3)食品学の概要 | 栄養食事療法の、健康状態や栄養状態をよりよい状態へ改善し疾病の予防・治療・増悪防止をし、さらにQOLを向上させるために必要な知識を学習する。 | 40点 |
| 2 | 2. 食事療法の実際 1)消化、吸収に障害がある時 2)タンパク・アミノ酸代謝に障害がある時 | | |
| 3 | 3)糖質代謝に障害がある時 4)脂質代謝に障害がある時 | | |
| 4 | 5)水・ミネラル代謝に障害がある時 6)食品アレルギーのある対象 | | |
| 5 | | | |
| 放射線療法 | | | |
| 1 | 《放射線療法》(放射線診断専門医;10h) 1. 放射線療法の基礎 1)放射線とは 2)放射線の性質 | 放射線や磁場を用いて検査を行うことは、すべての診療の検査に関わることであり、安全に検査が行われるために必要な検査の知識・検査に必要な看護について学習する。 放射線治療を受ける患者の看護に必要な、放射線治療の原理・特徴・対象となる疾患・治療の流れ・放射線方法を学習する。 | 30点 |
| 2 | 3)人体に対する放射線の影響 4)放射線防護と健康管理 | | |
| 3 | 2. 各種検査と診断 1)X線診断 2)血管造影とIVR 3)磁気共鳴画像診断(MRI) | | |
| 4 | 4)核医学診断 | | |
| 5 | 3. 放射線治療 1)悪性腫瘍の放射線感受性 2)放射線治療の役割と治療の原則 3)治療に必要な放射線量と照射回数 4)併用療法 | | |
| リハビリテーション | | | |
| 1 | 《リハビリテーション》(理学療法士;10h) 1. リハビリテーションの基礎 | 日常生活を送るうえで身体的・精神的に何らかの困難があり、その人らしい生活を送ることが出来ない状態をアセスメントする力が必要となる。人体の形態や機能、疾病や障害に必要なリハビリテーションについて学習する。 | 30点 |
| 2 | 1)リハビリテーションの概念 2)リハビリテーションの展開 | | |
| 3 | 3)障害機能の評価 | | |
| 4 | 2. リハビリテーションの実際 1)運動麻痺と機能訓練 2)呼吸器疾患とリハビリテーション | | |
| 5 | 3)心疾患とリハビリテーション 4)言語機能回復のリハビリテーション | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 演習(献立の作成・調理実習、患者体験とリハビリテーション) | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を抽出する。 ②修了試験で、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 病態生理をふまえて各看護学を展開する時に基本となる知識である。それぞれの治療が行われることにより生じる身体内部の変化や患者の心理、治療を継続させるコツなど各看護学を展開する際に関連させて考えられるようにしていく必要がある。 | | | |

| | | | |
|---|--|----------|----------|
| 授業科目(必須) | 医療論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 臨床医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 1月～3月 | | |
| 教科書等 | | | |
| 授業概要 <p>患者の権利、倫理問題など医療に関する社会問題・課題を概観し、医の倫理、医療活動の実際について学ぶ。 生活者の健康を守る視点から我が国の医療制度を概観し、今後の動向や医療経済について学習し専門職業人として必要な基礎的な知識を学ぶ。</p> | | | |
| 到達目標 1. 医学・医療のあり方を理解する 2. 医療保障制度の沿革と類型を理解する。 3. 健康保険と保険診療について理解する。 4. 医療制度の現状と今後の動向について理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. 生命倫理と医療倫理 | | |
| 2 | 2. 医学概論 1) 医療の本質と現代医療 ① 予防医学と診断 ② 今後の医学・医療の方向 ③ インフォームドコンセント、患者への対応 | | |
| 3 | 3. 日本の医療制度 1) 健康保険法の制定 2) 生活者の健康に関する医療制度 3) 医療制度改革と今後の動向 | | |
| 4 | 4. 医療保険体制 1) 健康保険と国民健康保険 ① 保険者と対象者 ② 給付と患者負担 2) 保険診療のしくみ ① 保健医療機関と保険医 ② 診療報酬と薬価基準 ③ 診療報酬の審査支払 | | |
| 5 | 5. 現代医療 1) 医療の崩壊 2) 今後の医療の方向性 | | |
| 6 | 6. 医療における倫理問題 1) 尊厳死 2) 安楽死 | | |
| 7 | 7. がん治療 1) がんの告知 2) がんの治療の方向性 | | |
| 8 | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ①を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 医療の仕組みを理解し、今後の医療の方向性を考えていく授業である。がんの告知、尊厳死、安楽死など医療における倫理問題も学習していく。学習を通して自分の考えを深めてもらいたい。 | | | |

| 授業科目(必須) | 社会福祉・社会保障 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------------|-----|---|------|----|---|--|--|---|------------------------------------|--|---|-----------------|--|---|---------------|-----------------|---|----------------------------------|-----------------|---|-------------------------------|---|---------------------------|---|-------------------|---|-------------------|----|-----------------------------|--|----|---------------------------------------|--|----|--------------------------------|--|----|------------------------------|--|----|-------------------------|--|----|-------------------------|--|--|------|------|
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月～9月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 系看専門基礎 健康支援と社会保障制度[3] 社会福祉 (医学書院) 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 <p>社会福祉・社会保障を支える基本的な考え方を理解し、社会福祉の分野とサービスの実践活動の概要を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と歴史を理解する。 2. 社会福祉の分野とサービスの内容を理解する。 3. 社会福祉の現状について理解し看護への活用を実際を理解する。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会福祉とは ・用語の意味 ・近年の動向 ・社会福祉の理念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会福祉の法制度 ・組織 ・実施体制 ・マンパワー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現代社会の変化と社会保障の動向</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会保障の目的、機能、体系</td> <td>社会保険に関するDVD視聴予定</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会保険 1)医療保険 ①構造 ②種類 ③給付と負担</td> <td rowspan="5">介護保険に関するDVD視聴予定</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2)介護保険 ①概要 ②認定 ③給付 ④財源 ⑤課題</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3)年金保険 ①構造 ②給付 ③負担 ④課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>4)雇用保険 ①構造 ②給付</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>5)労災保険 ①構造 ②給付</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>公的扶助 1)生活保護制度 ①概要 ②課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>低所得対策 高齢者福祉制度 ①介護保険外のサービス ②虐待対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>障害者福祉制度 ①定義 ②変遷 ③サービス体系 ④就学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>児童福祉制度 ①少子化 ②保育 ③虐待 ④DV対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>社会福祉援助技術 ①歴史 ②過程 ③種類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>社会福祉の歴史(日本と海外)医療・看護との連携</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>修了試験</td> <td>筆記試験</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業方法 講義</p> <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価方法: ①筆記試験 100%</p> <p>評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ①を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>その他</p> <p>社会福祉・社会保障は、人々の健康や生活を支え、よりよい状態に維持していくことにつながる。そのためには、医療・保険・福祉の連携が大変重要になる。看護師には、患者の生活を支えるための様々な社会福祉制度・サービスの理解が不可欠である。この授業では、その基礎的知識を学ぶ。関連する領域の学習と関連付けて学習してもらいたい。</p> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 1 | 社会福祉とは ・用語の意味 ・近年の動向 ・社会福祉の理念 | | 2 | 社会福祉の法制度 ・組織 ・実施体制 ・マンパワー | | 3 | 現代社会の変化と社会保障の動向 | | 4 | 社会保障の目的、機能、体系 | 社会保険に関するDVD視聴予定 | 5 | 社会保険 1)医療保険 ①構造 ②種類 ③給付と負担 | 介護保険に関するDVD視聴予定 | 6 | 2)介護保険 ①概要 ②認定 ③給付 ④財源 ⑤課題 | 7 | 3)年金保険 ①構造 ②給付 ③負担 ④課題 | 8 | 4)雇用保険 ①構造 ②給付 | 9 | 5)労災保険 ①構造 ②給付 | 10 | 公的扶助 1)生活保護制度 ①概要 ②課題 | | 11 | 低所得対策 高齢者福祉制度 ①介護保険外のサービス ②虐待対策 | | 12 | 障害者福祉制度 ①定義 ②変遷 ③サービス体系 ④就学 | | 13 | 児童福祉制度 ①少子化 ②保育 ③虐待 ④DV対策 | | 14 | 社会福祉援助技術 ①歴史 ②過程 ③種類 | | 15 | 社会福祉の歴史(日本と海外)医療・看護との連携 | | | 修了試験 | 筆記試験 |
| 回 | 授業内容 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 社会福祉とは ・用語の意味 ・近年の動向 ・社会福祉の理念 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 社会福祉の法制度 ・組織 ・実施体制 ・マンパワー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 現代社会の変化と社会保障の動向 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 社会保障の目的、機能、体系 | 社会保険に関するDVD視聴予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 社会保険 1)医療保険 ①構造 ②種類 ③給付と負担 | 介護保険に関するDVD視聴予定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 2)介護保険 ①概要 ②認定 ③給付 ④財源 ⑤課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 3)年金保険 ①構造 ②給付 ③負担 ④課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 4)雇用保険 ①構造 ②給付 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 5)労災保険 ①構造 ②給付 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 公的扶助 1)生活保護制度 ①概要 ②課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 低所得対策 高齢者福祉制度 ①介護保険外のサービス ②虐待対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 障害者福祉制度 ①定義 ②変遷 ③サービス体系 ④就学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 児童福祉制度 ①少子化 ②保育 ③虐待 ④DV対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 社会福祉援助技術 ①歴史 ②過程 ③種類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 社会福祉の歴史(日本と海外)医療・看護との連携 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-----------|-------------------------------------|----------|-----|
| 授業科目(必須) | 公衆衛生学 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 無 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 9月～12月 | | |
| 教科書等 | 系看専門基礎 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 (医学書院) 他 | | |

授業概要

社会集団の健康問題について人間-環境系から理解する。疫学的診断に基づく疾病予防の方策について理解し、社会集団のニーズに対する社会医療システムの対応について学ぶ。

到達目標

1. 公衆衛生学と予防医学の意義を学ぶ。
2. 健康に関する疫学と統計情報について理解する。
3. 健康増進・疾病予防のための保健活動の実際が理解する。
4. 公衆衛生を取り巻く現状と今後の課題について理解する。

授業計画・授業内容

| 回 | 授業内容 | 備考 |
|----|---|------|
| 1 | 1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の目的・方法 2) 権利とプライマリーヘルスケア 3) 健康の権利から健康の格差 2. 疫学と健康指標 3. 公衆衛生の法・制度・しくみ | |
| 2 | 4. 人口動態統計 1) 出生 | |
| 3 | 2) 死亡、死因 3) 健康状態 4) 受療状況 | |
| 4 | 5. 地域保健 1) 地域保健法 | |
| 5 | 2) 医療法 6. 成人保健 7. 高齢者保健 8. 学校保健 | |
| 6 | 9. 感染症 1) 感染症法 2) 予防接種法 3) 感染症対策 | |
| 7 | 10. 母子保健 1) 母子保健法 2) 母体保護法 | |
| 8 | 11. 感染症 1) 感染症法 | |
| 9 | 2) 予防接種法 3) 感染症対策 | |
| 10 | 12. 生活習慣病 1) 生活習慣病(心疾患、脳血管疾患、脂質異常症、肥満) | |
| 11 | 2) がん対策基本法 3) 健康日本21 4) 予防医学 | |
| 12 | 13. 生活環境、地球環境問題 1) 環境基本法 | |
| 13 | 14. 障害・難病 15. 健康危機管理 | |
| 14 | 16. 国民生活基礎調査 | |
| 15 | 17. 国民健康栄養調査 18. まとめ、公衆衛生と現代社会 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 |

授業方法 講義

評価方法・評価基準

- 評価方法: ①筆記試験 100%
- 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。
①を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。

その他

公衆衛生は、疾病を予防し、寿命を延ばし、健康づくりとさまざまな活動を高めるためのものである。ひとが健康に過ごせる適切な生活水準をどのように保障していくのか、その基礎的知識を学ぶ。関連する領域と関連付けて学習してもらいたい。

| | | | |
|---|---|---|----------|
| 授業科目(必須) | 医療と法律 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 10月 | | |
| 教科書等 | 系看 専門基礎分野 看護関係法規 健康支援と社会保障制度④ 医学書院 | | |
| 授業概要 看護師は助産師や保健師と同様に、国家試験の合格を必須条件とするものであり、その職は法律によって厳格に規定されている。この講義は法とは何か、法の体系に関する基礎知識を習得させ、その上で、看護職を根底から規定している保健師助産師看護師法ならびに、その施行令や施行規則の基本的な条項を取り上げ、何故そのような法規が定められているのかを理解することを目的とする。 | | | |
| 到達目標 1. 法とは何か、法の制定と種類 2. 憲法と看護に関する法の構成を理解する 3. 保助看法の目的を理解する 4. 籍と業務届の義務の必要性を理解する 5. 看護師の法的責任を理解する 6. 看護職、ならびに患者の法的保護の必要性を理解する 7. その他の関係法規を理解する | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 法とは何か 1)法と道徳の違い 2)憲法・法律・命令(政令・府令・省令)・条例・規則 | テキスト第1章を事前に読み、理解できなかったところをマークする。 | |
| 2 | 2. 憲法と看護法 1)憲法と看護法との関係 2)保助看法、施行令、施行規則、厚生科学審議会令、医道審議会令 | テキスト第2章を事前に読み、理解できなかったところをマークする。 | |
| 3 | 3. 保助看法 1)保健師・助産師・看護師の定義と関係 2)免許と欠格事由 | 保助看法第1条から第9条までを、事前にすらすら読めるようにする。 | |
| 4 | 4. 籍と業務届 1)看護師籍と登録内容と変更 2)業務の届出義務とその意義 | 保助看法第10-12、33条と施行令第2-8条を、事前にすらすら読めるようにする。 | |
| 5 | 5. 法的責任 1)医療過誤とは(結果発生の予見と回避義務) 2)民事・刑事・行政上の責任 | テキストの「医療過誤」の項目の部分を事前に読む。 | |
| 6 | 6. 法的保護 1)看護職の保護(業務独占・名称独占) 2)患者の保護(守秘義務の法的根拠) | 保助看法第29-31条を事前に読む。 保助看法第42の2条を事前に読む。 | |
| 7 | 7. その他の法律 1)人材確保の促進に関する法律 2)緊急時の看護に関する法 | テキスト付録で当該法律(抄)を読む。 テキストで該当箇所を読む。 | |
| 8 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験100% 評価基準: ①修了試験で、取上げた条項の習得度と理解度を確認するための総合的な問題を出題する。 満点の60%以上を獲得することが単位認定の条件である。 | | | |
| その他 看護職とは法律によって厳格に規定された、とても重い責任を伴うものであることを学んでほしい。また、看護に関わる法律を学ぶことは、患者や社会に対する看護師の責任を自覚する為だけでなく、反対に看護師自身をも守るものであることを理解してもらいたい。つまり、これらの法律は患者だけでなく、あなた方が志している看護師をも守るものなのである。したがって、しっかりと法令を学んで、それを遵守することの意味と大切さを学んで欲しい。なお、法律の文章は日常の表現とはかなり異なり、大変読み辛いものである。しかし、法文の慣例的表現を習得すれば、それほど難しいものでもないので、まずはすらすらと読めるように努めてもらいたい。 | | | |

| 授業科目(必須) | 看護と法律 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|----------|----------|---|------|----|---|--|--|---|--|--|---|---|--|---|--|--|---|--|--|---|--|--|---|--|--|---|------|------|
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 後期 12月 ~ 1月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 系看専門基礎 健康支援と社会保障制度〔4〕 看護関係法令 (医学書院) 看護六法 (新日本法規) 他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 <p>看護職者の関わる法制度を理解し、人の生命に関わる看護師の身分、業務、責務を学ぶ。医療過誤発生時の問題と看護師の法的責任について理解し、専門職業人として自覚した行動がとれるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における法的基盤を理解する。 2. 看護実践における法的責任および医療事故における法的責任を理解する。 3. 患者の安全を守るだけでなく、看護職の安全を守り、環境の保護も視野に入れて法のしくみを学ぶ。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 看護における法律 1) 保健師助産師看護師法 2. 衛生法規 1) 医事法規 2) 薬事法規 3) 公衆衛生法規</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 看護と関係法律 1) 看護活動の根拠法令ー保健師助産師看護師法 2) 看護職と関係する法律ーコメディカルに関する法律 3) 看護師等の人材確保に関する法律</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>4) 看護活動に直接・間接にかかわる法律 5) 看護職の責務と医療過誤 6) 医療事故と罰則</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>修了試験</td> <td>筆記試験</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業方法 講義 グループワーク</p> <p>評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験 100% 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。 ①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>その他 看護職が質の高い看護を提供するには、まず、職業人としての任務を十分果たさなくてはならない。そのためには、深い専門的な知識と技術を身につけるとともに、保健医療福祉に関する諸制度と規定する諸法令を理解しなければならない。この授業を通して医療事故、医療事故に関する罰則なども考えていく。看護に関する法律を学び、自分の考えを深めてもらいたい。</p> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 1 | 1. 看護における法律 1) 保健師助産師看護師法 2. 衛生法規 1) 医事法規 2) 薬事法規 3) 公衆衛生法規 | | 2 | | | 3 | 3. 看護と関係法律 1) 看護活動の根拠法令ー保健師助産師看護師法 2) 看護職と関係する法律ーコメディカルに関する法律 3) 看護師等の人材確保に関する法律 | | 4 | | | 5 | | | 6 | 4) 看護活動に直接・間接にかかわる法律 5) 看護職の責務と医療過誤 6) 医療事故と罰則 | | 7 | | | 8 | 修了試験 | 筆記試験 |
| 回 | 授業内容 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 看護における法律 1) 保健師助産師看護師法 2. 衛生法規 1) 医事法規 2) 薬事法規 3) 公衆衛生法規 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 3. 看護と関係法律 1) 看護活動の根拠法令ー保健師助産師看護師法 2) 看護職と関係する法律ーコメディカルに関する法律 3) 看護師等の人材確保に関する法律 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 4) 看護活動に直接・間接にかかわる法律 5) 看護職の責務と医療過誤 6) 医療事故と罰則 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 修了試験 | 筆記試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

専門分野 I

| | | | |
|---|---|---|-------------|
| 授業科目(必須) | 基礎看護目的・対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(45時間) | 講義回数 | 22回 ・ テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～ | | |
| 教科書等 | 系統看護講座 看護学概論 (医学書院) 看護覚え書 ー看護であること看護でないことー フローレンス・ナイチンゲール著 湯楨 ます他訳 現代社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 看護倫理 看護の本質を探究・実践する 編集 石井トク他 Gakken 厚生指標 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会 | | |
| 授業概要 看護の対象と看護の基本となる目的及び機能について学習する。人々が健康を保持・増進し、疾病から回復しあるいは安らかな死を迎えるために、看護師が果たす役割について理解する。 | | | |
| 到達目標 1. 看護の基本的概念をふまえて、看護の目的、機能、看護師の役割が理解できる。 2. 看護の対象としての人間を統合体としてとらえる意味が理解できる。 3. 看護の歴史的背景を学び、その時代背景と看護の関連が理解できる。 4. 看護ケアを行う状況の中で、倫理的な視点で考えることができる。 5. 保健・医療・福祉における看護活動の概要が理解できる。 6. 看護における現在の動向について理解できる。 7. 看護管理の基本を理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 看護の概念 | 「看護とは何か」 これから看護を学ぶ上で重要となる問いを自分の中に持とう。 | |
| 2 | 1) 看護とは何か 2) 看護を構成する4つの要素 | | |
| 3 | 3) 看護の定義 4) 看護の目的、対象、機能 | | |
| 4 | | | |
| 5 | 2. 看護の対象 | 「人間とは？」 看護の対象である人間をあらゆる角度から考えてみる。 「健康とは？」看護が目指す健康とは何か。改めて考えてみる。 | |
| 6 | 1) 生活統合体としての人間の特性 2) 人間の成長発達 | | |
| 7 | 3) 人間と環境 4) 人間にとっての健康 | | |
| | 5) 国民の健康に関する動向 | | |
| 8 | 3. 職業としての看護 | | |
| 9 | 1) 看護の歴史 2) 看護制度 3) 看護職養成制度 | 看護師について歴史的・法的な視点から考える。歴史を振り返ると、今の看護が理解でき、未来が見える。 | |
| 10 | 4. 看護における倫理 | 看護師にとって重要な倫理について事例を用いて考える。 「物事を見る角度が変わると見えてくるもの。」 | |
| 11 | 1) 看護における倫理の必要性 2) 看護倫理とは | | |
| 12 | 3) 道徳的ジレンマと倫理課題 4) 倫理的課題への対応 | | |
| 13 | 5. 看護の機能と活動の場 | 看護師の活躍が求められる場について幅広く理解する。 対象をより望ましい健康状態へ導くためのプロセスを学ぶ。 | |
| 14 | 1) 保健医療福祉システムと看護 2) 看護提供のしくみ | | |
| 15 | 3) 看護を実践するための手段としての看護過程 | | |
| 16 | 4) 看護職者の教育とキャリア開発 | | |
| 17 | 6. 看護と社会 | | |
| 18 | 1) 看護職者と社会 2) 看護と国際協力 | | |
| 19 | 3) 社会の変貌とこれからの看護 | | |
| 20 | 7. 看護サービスの管理 | 看護倫理サービスを管理の視点から考える。 | |
| 21 | 1) 看護管理とは 2) 組織 3) 人的資源の管理 | | |
| 22 | | | |
| | | | |
| 修了試験 | | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 必読文献: 川嶋 みどり: 看護の力 岩波新書 この講義は、「看護とは何か」を考えるための第一歩となる基礎的な知識や対象を理解するための授業である。そして、その知識を実際に臨床で深めていくことを求めている。紹介するテキストだけでなく、様々な本に興味を持ち、クラスメートをはじめとする、自分と異なった考えを持つ人々へ深い関心を寄せよう。お互いを理解するために活発に意見交換を期待している。 | | | |

| | | | |
|-------------------|---|---|-----------|
| 授業科目(必須) | 看護共通基本技術 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(60時間) | 講義回数 | 29回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～10月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 系看 医療安全 (医学書院) NG ヘルスアセスメント(メディカ出版) 他 | | |
| 授業概要 | 看護の技術は、人権の尊重を基盤とした援助であり、実践の科学であることについて理解を深める。看護師の判断が中心となって実施される日常生活の援助や、診療に伴う看護などを含め、すべての看護行為に共通する基本となる看護技術について学ぶ。 | | |
| 到達目標 | 1. 看護技術の特徴が理解できる。 2. 安全を守るための援助技術が理解できる。 3. 安楽で、経済的な動きを行うための技術が理解できる。 4. 看護におけるコミュニケーションの重要性が理解できる。 5. 看護場面におけるコミュニケーション技術が理解できる。 6. 看護における観察・記録・報告の方法が理解できる。 7. フィジカルアセスメントの方法を理解し、基本的技術が実施できる。 8. 看護場面における教育・指導技術が理解できる。 | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 看護技術の概念 | | | |
| 1 | 1. 看護技術の概念 1)技術とは 2)技術と技能 3)技術の構造 4)看護技術とは 5)看護技術の構造 6)看護技術の特徴 7)看護技術の展開 8)看護実践と倫理 | | / |
| 看護場面における安全安楽 | | | |
| 1 | 1. 看護場面における安全安楽 1)安全の意義 (1)安全とは 2)人間にとって安全 (3)看護技術構成要素としての安全 | 看護師は対象である患者に安全・安楽な看護技術を提供しなくてはならない。そのため、看護者としての安全・安楽への知識を学び、基本的技術を身につけるために学ぶ。 | 30点 |
| 2 | 2. 安全を阻害する因子(㉑)患者がもつ阻害因子 (2)看護師がもつ阻害因子(㉒)その他の阻害 | | |
| 3 | 3. 安楽への援助 (1)事故防止 (2)抑制法 (3)無菌操作 | | |
| 4 | 4. 安楽の意味 | | |
| 5 | 5. 安楽の阻害する因子 1)感染経路 2)隔離法および感染源の拡散防止 | | |
| 6 | 6. 安楽への援助 1)個人防護用具の使用法 2)無菌操作 | | |
| 7 | 7.看護技術演習 1)ガウンテクニック 2)滅菌手袋装着 3)無菌操作 | | |
| 看護場面におけるコミュニケーション | | | |
| 1 | 1. コミュニケーションの概念 1)コミュニケーションの構成要素 2)コミュニケーションの成立過程 | コミュニケーションの概念について、自分たちのコミュニケーションを振り返りながら、理解を深める。 | 20点 |
| 2 | 3)コミュニケーションの種類 4)コミュニケーションの技術 5)看護における情報収集の技術 | | |
| 3 | 2. 効果的なコミュニケーションの実践 3. 看護における説明の技術 | | |
| 4 | 4. コミュニケーション障害への対応 視力障害のある対象へのコミュニケーションの実践 | | |
| 5 | 5. まとめ 病棟実習を通して患者とのコミュニケーションの実際から学んだこと | | |
| 観察・記録・報告 | | | |
| 1 | 1. 観察とは 1)観察の意義 2)観察の方法 | 観察することの目的や方法について学ぶ。 | 20点 |
| 2 | 2. 記録 1)看護記録の法的規定 2)看護記録の構成 3)看護記録記載時の留意点 | | |
| 3 | 3. 報告 1)報告の意義 2)SBAR | | |
| 4 | 4. 記録・報告の実際 | | |

| フィジカルアセスメント | | |
|--|--|---|
| 1 | 1. フィジカルアセスメントの定義・方法 1)フィジカルイグザミネーション、 2) バイタルサインの定義・意義 | |
| 2 | 2. 意識レベル 3. 体温 1)体温調節のメカニズム、2)体温の正常・異常、3)体温異常の種類と原因、 4)体温の測定方法 | 脳神経・呼吸器・循環器の解剖生理学の知識をよく復習した上で、授業に臨むこと。 毎回の授業の復習をしっかり行い、技術練習を十分にした上で、5回目のバイタルサイン測定の校内実習に臨むこと。 |
| 3 | 4. 脈拍 1)脈拍の正常)・異常、2)脈拍の測定方法 5. 呼吸 1)呼吸の正常・異常、2)呼吸数の測定方法 | |
| 4 | 6. 血圧 1)血圧の正常・異常、2)血圧の測定方法(触診法・聴診法)、3)血圧計の種類と構造 | |
| 5 | 7. バイタルサイン測定(校内実習) | |
| 6 | 8. 呼吸器のフィジカルアセスメント 1)呼吸音の問診、視診、聴診、触診、打診 9. 循環器系のフィジカルアセスメント 1)異常心音と心雑音、2)心尖拍動の異常の有無、3)頸動脈、頸静脈 | 呼吸器・循環器の解剖生理学の知識をよく復習した上で、授業に臨むこと。 |
| 7 | 10. 腹部のフィジカルアセスメント 1)腹部の問診、視診、聴診、触診、打診 | 消化器の解剖生理学の知識をよく復習した上で、授業に臨むこと。 |
| 8 | 11. フィジカルイグザミネーション | 校内実習を行う。技術について復習と練習をした上で臨むこと。 |
| 9 | 12. 脳神経のフィジカルアセスメント 1)運動機能の評価、2)髄膜刺激症状、3)瞳孔の評価 13. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1)関節可動域、2)徒手筋力測定法 | 脳神経・運動器の解剖生理学の知識をよく復習した上で、授業に臨むこと。 |
| 10 | 14. フィジカルアセスメントOSCE(校内実習) | 事例患者に対して、今まで学んだフィジカルイグザミネーションの技術を活用し、実施していきます。事前課題を出すので、しっかり取り組んで臨むこと。 |
| 教育・指導 | | |
| 1 | 1. 教育・指導の概念 2. 看護における教育・指導 | / |
| 2 | 3. 教育指導の方法 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 |
| <p>授業方法 講義、演習</p> <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価方法: ①筆記試験 95% ②手順書作成 5%</p> <p>評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。</p> <p>②手順書作成は内容の充実度、提出状況によって評価する。詳細は授業にて提示する。</p> <p>①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| <p>その他</p> <p>この科目は、看護援助の実施の基盤となる技術を学習する。看護者は対象との関係形成や、対象を適切に捉えながら、対象に安全で安楽な看護技術を提供することが必要である。そのための知識や技術を身につける。関連科目としては、心理学、人間関係論、微生物学、人体の構造と機能等が特に重要である。</p> | | |

| | | | |
|---|---|---|---------|
| 授業科目 | 環境を整える看護技術 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～7月 | | |
| 教科書等 | 系看 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院) ベッドまわりの環境学(医学書院) 他 | | |
| 授業概要 看護とは様々な健康段階にある対象に、より健康に近づけた日常生活を送れるよう援助することである。看護の原則となる安全・安楽・自立に向け、最も適した援助を理論的に裏付けされた方法で行えるよう実践する必要がある。ここでは、看護実践のうえで基本となる援助技術を学ぶ。人間は環境と相互に作用しあっており、環境の善し悪しが健康や生活行動の質を左右する。より健康的な生活を送るための調整方法や技術について理解する。 | | | |
| 到達目標 1. 人間にとっての健康な日常生活と環境の関連について理解できる。 2. 快適な療養生活を送るための環境調整の方法が理解できる。 3. 療養環境を整えるために必要な援助技術が実施できる。 4. 活動・睡眠・休息を助けるために必要な援助技術が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 環境を整える看護技術 | | | |
| 1 | 1. 環境の意義 1)環境とは 2)健康と環境 | 人間にとっての環境の意義を理解し、人間、健康、環境、看護の関連性を考える。 環境調整は、人間特に患者の「自然治癒力を高め、健康へ向かわせる積極的援助」であることを考える。 医療法施行規則や療養環境における法的な基準、快適な環境条件について理解する。 デモンストレーションや校内実習を通して、根拠に基づいた技術が習得できるようにする。 | 80点 |
| 2 | 1. 環境の意義 1)個人を尊重した環境 | | |
| 3 | 1. 環境の意義 3)病院と環境 | | |
| 4 | 2. 環境を整えるアセスメントの視点 1)室内環境条件 2)快適な環境を整えるとは | | |
| 5 | 3. 環境を整えるための援助 1)病床整備の意味と方法 | | |
| 6 | 3. 環境を整えるための援助 1)病床の作り方:ベッドメイキング | | |
| 7 | ベッドメイキング:オープンベッド、クローズドベッド | | |
| 8 | 3.環境を整えるための援助 1)病室環境の整備 | | |
| 9 | 3. 環境を整えるための援助 1)臥床患者のシーツ交換 | | |
| 10 | 3. 環境整備の実際 | | |
| 11 | 1)事例に応じた環境調整の計画実施評価 | OSCEを通し、状態状況に応じた援助を体験する。ビデオ視聴による振り返りで自己の傾向を知る。 | |
| 活動睡眠休息を助ける援助技術 | | | |
| 1 | 1. 活動・睡眠・休息の意義 2. 活動に影響を及ぼす因子とアセスメント | 人間の生活における活動と休息の意味を考える。 健康的に生活するための活動と休息のバランスを考え援助につなげられるようにする。 | 20点 |
| 2 | 3. 睡眠の生理、睡眠休息に影響を及ぼす因子とアセスメント | | |
| 3 | 4. 睡眠休息を助ける援助方法 | | |
| 1 | 技術試験、修了試験 | | |
| 授業方法 講義・演習 評価方法・評価基準 評価方法:筆記試験、技術テスト(ベッドメイキング) 評価基準:□ ①筆記試験で、到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。70% ②技術試験は技術評価表の評価基準に則り60点以上を合格とする。:15% ③レポート課題は共通評価基準に基づいて評価する。15% ①～④を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 人間にとって健康な日常生活を送るとはどういうことかを理解し、対象の日常生活をアセスメントするための視点を理解することが必要である。日常生活の援助の実施にあたっては、科学的根拠を明確にして実施する必要がある。日常生活の援助として、実施頻度が高く基本的な技術としてベッドメイキングの技術試験を行う | | | |

| | | | |
|---------------|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 身体を快適に整える看護技術 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 7月 ~ 11月 | | |
| 教科書等 | 系看 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 基礎臨床看護技術(医学書院) ベッドまわりの環境学(医学書院) 他 | | |
| 授業概要 | 看護とは様々な健康段階にある対象に、より健康に近づけた日常生活が送れるよう援助することである。看護の原則となる安全・安楽・自立に向け、最も適した援助を理論的に裏付けされた方法で行えるよう実践する必要がある。身体を清潔に快適にすることは、人間が尊厳を持ちその人らしく生きるために重要である。その基本となるのが、衣服や身体を清潔に整えることである。心身ともに快適にする看護技術の基本を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の清潔を保つ援助を行うために必要な知識が理解できる。 2. その人らしさを保つための身体の清潔の援助技術が実施できる。 3. 衣服の選択や着脱を行うために必要となる知識が理解できる。 4. その人らしさを尊重した寝衣の着脱の援助技術ができる。 | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 身体の清潔を保つ援助方法 | | | |
| 1 | 1. 身体の清潔の意義 | 人間にとっての清潔の意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で援助が考えられるようにする。清潔ケアに共通する生体への影響について理解し、心地よい清潔を実施するための根拠とする。 | 65点 |
| 2 | 2. 身体の清潔を保つ援助方法 | | |
| 3 | 3. 身体の清潔に影響を及ぼす因子、 4. 身体の清潔を助けるためのアセスメントの視点 | | |
| 4 | 5. 清潔の援助における安全安楽 | | |
| 5 | 5. 安全安楽な援助方法 1)全身清拭 | デモンストレーションや校内実習を通して、根拠に基づいた技術が習得できるようにする。 | |
| 6 | 5. 安全安楽な援助方法 1)全身清拭 | デモンストレーションは個々に技術練習をし校内実習に臨むこと。 | |
| 7 | 5. 安全安楽な援助方法 2)口腔ケア | 患者体験を通して、患者の心理を理解し、自己の技術向上に活かしていく。 | |
| 8 | 5. 安全安楽な援助方法 3)洗髪 | 自己学習時間を活用し主体的に技術習得に努めること。 | |
| 9 | 5. 安全安楽な援助方法 3)洗髪 | より良い援助について検討する。 | |
| 10 | 5. 安全安楽な援助方法 4)足浴 | | |
| 11 | 6. 状況に応じた援助の計画と実施 | | |
| 衣服の着脱を助ける援助技術 | | | |
| 1 | 1)衣服の意義2)衣服の着脱に影響を及ぼす要因3)その人らしい衣服の着脱を助けるためのアセスメントの視点4)病人にとっての衣服の意義(1)選択時の条件(2)病衣の条件5)その人らしい衣服の着脱を助ける援助方法(1)病衣の選択(2)病衣の交換・寝衣交換 | 人間にとっての衣服の意義を理解し、安全・安楽・自立の視点で援助が考えられるようにする。 | 35点 |
| 2 | 6)技術演習 和式寝衣の交換 | デモンストレーションや校内実習を通して、根拠に基づいた技術が習得できるようにする。 | |
| 3 | 6)技術演習 和式寝衣の交換 | | |
| 4 | 6)技術演習 パジャマ交換 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義・演習 | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法:筆記試験、技術テスト(清拭・寝衣交換、洗髪) 評価基準:□ ①筆記試験で、到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。75% ②技術試験は技術評価表の評価基準に則り60点以上を合格とする。:15% ③レポート課題は共通評価基準に基づいて評価する。10% ①～④を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | |
| その他 | 人間が健康的な日常生活を送るとはどういうことを考え、対象の日常生活をアセスメントするための視点を理解することが必要である。日常生活の援助の実施にあたっては、科学的根拠を明確にして実施する必要がある。そこで、人体の構造と機能をふまえて学習する必要がある。日常生活の援助として、実施頻度が高く、基本的な技術として、3項目の技術試験を行う。 | | |

| | | | |
|---|--|---|-----------|
| 授業科目(必須) | 活動を整える看護技術 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 4月～後期 12月 | | |
| 教科書等 | 系統漢語講座 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 基礎・臨床看護技術 第2版 (医学書院) ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント (メディカ出版) 他 | | |
| 授業概要 人間が生きるため、また、より健康的に生活するためには日常生活における”活動”を理解し、快適に整えるための方法や技術を理解する。 到達目標 1. 身体の姿勢・移動を保つための援助技術が実施できる。 2. 適切な食事を助けるために必要な援助技術が実施できる。 3. 自然な排泄を助けるために必要な援助技術が実施できる。 4. 排泄行動に障害がある、排泄異常のある対象への援助方法が理解できる。 5. 技術演習の患者体験を通して、患者の想いを理解し、対象の気持ちや心情に配慮することができる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 身体の姿勢・移動を助ける援助技術 | | | |
| 1 | 1. 姿勢・移動の概念 2. 活動・姿勢・移動に影響を及ぼす要因とアセスメントの視点・ボディメカニクスの概念 | 校内演習では、安全・安楽に留意して体位変換や移乗・移送を実施する。(車いす、ストレッチャー) また、患者体験を通して対象の気持ちや心情を考え、どのような配慮が必要か考える。グループメンバーと協力し、よりよい方法や注意点について意見を出し合い演習する | 30点 |
| 2 | 3. 姿勢・移動を助ける援助方法 ① 歩行介助 ② 車いす移送 ③ ストレッチャー移送 | | |
| 3 | 安楽な姿勢の保持と体位変換 校内演習 ①体位変換時のボディメカニクス | | |
| 4 | 移乗・移送を助ける援助方法 校内演習 ① 車いす移送 ② ストレッチャー移送 ③ 歩行器・各種杖歩行介助 | | |
| 適切な食事を助ける援助技術 | | | |
| 1 | 1. 食事の意義 2. 食事に影響を及ぼす要因 1)適切な食事を助けるためのアセスメント 2)適切な食事 | 校内演習では、事例患者にどのような介助がよいか考え、介助を実施する。また、患者体験を通して食事介助を受ける対象の気持ちや心情を考え、どのような配慮が必要か考える | 30点 |
| 2 | 3. 病人と食事 | | |
| 3 | 食事介助 校内演習 | | |
| 自然な排泄を助ける援助技術 | | | |
| 1 | 1. 排泄の意義 2. 排泄に影響を及ぼす要因 1)自然な排泄を助けるためのアセスメントの視点 | 尿器便器を使用した排泄援助、浣腸、導尿の校内演習を実施するが、排泄介助は羞恥心を伴う援助であるため、どのような援助がよいか考え、介助を実施する。また、身体の侵襲が大きな援助でもあるため、安全に留意して実施する。患者体験を通して排泄介助を受ける対象の気持ちや心情を考え、どのような配慮が必要か考える。 | 40点 |
| 2 | 3. 自然な排泄の援助方法 | | |
| 3 | 4. 排泄行動に障害のある人への援助方法 | | |
| 4 | 尿器・便器を使用する排泄介助 校内演習 ① 便器 ② 尿器 | | |
| 5 | 5. 排泄異常のある人への援助方法 | | |
| 6 | 排泄異常のある人への援助 校内演習 グリセリン浣腸 | | |
| 7 | 排泄異常のある人への援助 校内演習 導尿 | | |
| 1 | 1 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 校内演習 評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験 100% 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ①を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 普段、何気なく行っている日常生活行動だが、人間が生きていくためには不可欠な活動である。障害された場合にどのような影響があるのか、また健康に、より快適に活動を整えていくためにはどのように援助していくかを学習する。また、校内演習で各援助技術を実施・習得するが、苦痛や侵襲の大きい技術であるため、安全・安楽に留意して実施する必要がある。特に『排泄』援助は、羞恥心を伴う援助でもあるので、どのような配慮するとよいか、意見交換して具体的な学びにつなげてほしい。 | | | |

| | | | |
|---|---|----------|--|
| 授業科目(必須) | 診療に伴う看護技術 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 11月～2月 | | |
| 教科書等 | 看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(メヂカルフレンド社) 基礎・臨床看護技術(医学書院) 他 | | |
| 授業概要 少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化など、看護を取り巻く社会の状況は著しく変化している。また、人々の医療に対するニーズや健康に対する価値観が多様化しており、これらに対応できる質の高い看護が求められている。患者の安全を保障し、患者が安心して診療が受けられるよう責任と倫理観を養いながら、基本的知識と技術の習得を目指す。ここでは臨床で必須となる技術の中でも、身体侵襲性の高い専門的な技術について学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 診察・検査時の看護の役割が理解できる。 2. 診察・検査時の援助方法が理解できる。 3. 治療・処置に関わる基礎的知識が理解できる。 4. 診察・検査・処置における責任と倫理観を養う。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. 診療に伴う基本的看護技術 1) 診察場面における看護の意義 2) 診察の意義 (1) 診察とは (2) 診察の目的 (3) 診察場面におけるインフォームドコンセント | | 診療における看護師の役割を理解し、診察を受ける患者の心理を知るとともに、診察時の援助・方法・診察過程における援助方法を学ぶ |
| 2 | 3) 診察の方法 (視診・問診・触診・打診・聴診) 4) 診察を受ける患者の心理 | | |
| 3 | 5) 診察における看護師の役割 6) 診察時の援助 (1) 診察過程における援助 | | |
| 4 | 7) 検査の意義 | | |
| | 8) 検査の種類 (1) 生体検査 (2) 検体検査 (3) 心理検査 | | 検査を受ける患者の心理を理解し、検査における看護師の役割を学ぶ |
| | 9) 検査に影響を及ぼす要因 | | |
| 5 | 10) 検査を受ける患者の心理 11) 検査における看護師の役割 (1) インフォームドコンセント (2) 安全を守る (3) 苦痛の軽減 | | |
| 6 | 12) 検査時の援助 (1) 検査前 (2) 検査中 (3) 検査後 | | グループワークにて検査時に援助方法を知らべ知識を深める。 |
| 7 | 13) 技術演習: 静脈血採血 | | 静脈血の基本技術を講義で学び、知識を深め、自己学習にて静脈血採血の手順書を作成のち、技術演習に臨み知識を深め技術を習得する。 |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | 2. 治療・処置における基本的看護技術 1) 酸素療法 | | 酸素療法の目的・方法を理解し、酸素療法の手技を学ぶ。 |
| 12 | 2) 体位ドレナージ 3) 吸引 | | |
| 13 | 4) 吸入 5) 瘻法 | | |
| 14 | 6) 技術演習: 酸素ポンプの取り扱い、気道内吸引、温枕・氷枕の作成 | | |
| 15 | | | |
| | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義 グループ演習 技術演習 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験・技術演習課題・技術演習の取り組み姿勢 評価基準: ①筆記試験80点満点 ②技術演習課題・技術演習に取り組み姿勢を各10点とする ③①と②を合計し100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 共通基本技術の安全、人体の構造と機能、臨床薬理などの既習の知識を基にして授業がすすめられる。特に技術の実施においては、関連領域の解剖生理について、十分な理解が求められる。 | | | |

| | | | |
|---|--|--|-----|
| 授業科目(必須) | 薬物療法に伴う看護技術 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 11月 ~ 2月 | | |
| 教科書等 | 系統看護講座 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 基礎・臨床看護技術 第2版 (医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院) 他 | | |
| 授業概要 薬物療法は疾病の治療や症状のコントロールおよび疾病の予防において適切に実施されることが重要であり、薬物療法における看護師の役割と責任は拡大している。ベッドサイドにあって安全な技術を提供するために、エビデンスとしての知識を活用し、さらにリスク感性を養い、安全な医療を提供できる基礎的能力を養う。 到達目標 1. 薬物療法・与薬に関わる看護師の役割が理解できる。 2. 経口与薬、皮下注射、点滴静脈内注射の基本的技術が実施できる。 3. 与薬時の様々な危険性を理解し、確実・安全な与薬ができるための方法がわかる。 4. 薬物療法における看護師の責任と倫理観を養う。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 薬物療法の意義 2. 薬物療法における看護師の役割 3. 与薬に伴う患者の観察・アセスメント 4. 安全で確実な薬剤投与 | 薬物療法は、身体の侵襲が非常に大きな技術である。領域の人体の機能と構造、臨床薬理の学習内容を復習し、授業に臨む。関連づけて学習するとわかりやすい。 | |
| 2 | | | |
| 3 | 5. さまざまな与薬方法と援助 ①経口与薬、口腔内与薬法 ②吸入法 ③点眼法 ④点鼻法 ⑤点耳法 ⑥経皮的与薬法(塗布、貼付法、経皮吸収型製剤) ⑦直腸内与薬法(坐薬) | | |
| 4 | | | |
| 5 | 経口与薬の実施 校内演習 ①錠剤 ②散剤 ③水剤 | 校内演習では、安全に留意して事例患者への与薬を実施。 | |
| 6 | 6. 注射法の基礎知識 ①目的 ②構造と特徴 ③準備・実施 ④合併症 ⑤安全管理(感染・事故防止) | 注射法は、身体の侵襲が非常に大きな技術である。薬物動態や血管損傷、神経損傷などの合併症を理解するためには、関連領域の人体の機能と構造、臨床薬理の学習内容を復習し、授業に臨んでもらいたい。関連づけて学習するとわかりやすい。 | |
| 7 | 7. さまざまな注射法と援助 ①皮下注射 ②皮内注射 ③筋肉注射 | | |
| 8 | 皮下、筋肉注射 校内演習 ①皮下、筋肉注射の準備、確認(その1) | | |
| 9 | 皮下、筋肉注射 校内演習 ①皮下、筋肉注射の準備、確認(その2) ②皮下注射モデル、筋肉注射モデルで実施 | 校内演習では、安全に留意して事例患者(注射モデルを使用)に注射法を実施。 | |
| 10 | | | |
| 11 | 9. さまざまな静脈内注射法と援助 ①静脈内注射 ②点滴静脈内注射 ③中心静脈カテーテル管理 | 関連領域の学習内容を復習し、授業に臨む。 | |
| 12 | 点滴静脈内注射 校内演習 ①点滴静脈内注射の準備 | 校内演習では、安全に留意して事例患者(注射モデルを使用)に点滴静脈内注射法を実施。 | |
| 13 | 点滴静脈内注射 校内演習 ①点滴静脈内注射モデルで実施 | | |
| 14 | 10. 輸血療法と援助 ①輸血療法の目的 ②輸血の種類 ③血液製剤の種類 ④輸血の副作用 ⑤輸血の援助 | 関連領域の学習内容を復習し、授業に臨む。 | |
| 15 | まとめ 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 校内演習 評価方法・評価基準 評価方法: ① 筆記試70% ② 手順書作成 30% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②手順書作成については、内容の充実度、提出状況によって評価する。 ①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 共通基本技術の安全、人体の構造と機能、臨床薬理などの既習の知識を基にして授業がすすめられる。特に技術の実施においては、身体の侵襲が非常に大きな技術であり、神経損傷・血管損傷などの合併症も考えられるため、関連領域の解剖生理について、十分な理解が求められる。基礎的知識と関連して学習してもらいたい。 | | | |

| | | | |
|---|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 看護過程展開の技術 | | |
| 担当講師 | 担当講師実務経験 | | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 11月 ~ 3月 | | |
| 教科書等 | ナースングラフィカ ヘルスアセスメント(メディカ出版) 系看護 専門分野 I 基礎看護技術 I (医学書院) NANDA看護診断 定義と分類 (医学書院) 中範囲理論入門(日総研) ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 (スーベルヒカリ) | | |
| 授業概要 看護過程(Nursing Process)とは、対象となる人々の健康上の問題を解決するために、科学的な問題解決法に基づくシステム化された一連の活動である。健康上の問題を導き出すために、対象の情報を収集をすることが重要である。正確な情報を収集することができる技術の一つとしてフィジカルアセスメントの方法を活用することを理解していく。看護過程の展開では、事例を通し情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案について学び、看護の科学性を支える理論基盤を習得する。 | | | |
| 到達目標 1. 看護過程の概念が理解できる。 2. 看護過程の各構成要素が理解できる。 3. 看護過程の展開方法が理解できる。 4. フィジカルアセスメントを活用することが理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 看護過程とは 2. 看護過程の5つの構成要素の概念 | 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義について学習する | |
| 2 | 3. 看護過程の5つの構成要素の理解 | | |
| 3 | 4. ゴードンの「11の機能的健康パターンの枠組み」とは | | |
| 4 | 5. 事例展開 | 紙上患者の疾病を学習し、病態だけでなく、看護の視点で患者の全体が把握できる関連図を書いて理解を深めていく | |
| 5 6 | 6. 関連図の作成 | | |
| 7 8 9 10 | 7. 各クラスターの情報分類・整理 各クラスターの解釈・分析 | 生活機能の視点からアセスメントするための情報を各カテゴリーごとに整理し、アセスメントし問題抽出していく | |
| 11 | 8. 看護問題の統合 | 問題の統合をし、問題リスト、期待される結果を全体像で書いて理解を深めていく | |
| 12 | 9. 全体像・看護問題リスト・期待される結果 | | |
| 13 | 10. 看護計画立案 | 問題リストに沿った看護計画を立案する | |
| 14 | 11. 看護過程の評価 | | |
| 15 | 12. 看護過程のまとめ・修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義. 紙上患者の看護過程の展開(個人学習、グループ討議) | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: 看護過程の展開の記録物 80%・筆記試験20% 評価基準: ①演習事例によるアセスメント、計画立案までの事例展開を、共通評価基準に基づいて評価する。 ②筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ③看護過程展開の記録物は、80点を満点とし、48点以上を合格とする。 ④筆記試験は、20点を満点とし、12点以上を合格とする。②③ともに、60%以上を合格とする。 | | | |
| その他 看護の方法は、科学的問題解決法を基盤としたものであり、その科学的思考および看護過程の展開の技術を学習していく。そのため、既習の知識を統合する必要がある。復習が重要になる。「看護共通基本技術」をはじめ各看護技術、「人体の構造と機能」「疾病論」などの科目と関連させていく必要がある。また事例を用いて学習するため、事前学習、自己学習に相当時間を必要とする。 | | | |

| | | | |
|--|--|---|---------------|
| 授業科目(必須) | 臨床看護総論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 臨床工学技士 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 9月 ~ 2月 | | |
| 教科書等 | 系統看護講座 臨床看護総論 (医学書院) 他 | | |
| 授業概要 <p>今日の臨床の現状をふまえ、各臨床領域の看護学を学ぶために、共通の基本的な看護について学び、各看護学に発展・拡大することをねらいとする。 経過および健康障害に応じた看護や、治療処置の基本的看護の方法を学ぶ。</p> 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床の看護の場の特徴が理解できる。 2. 医療を取り巻く環境の変化が臨床現場にどのような影響を与えているか理解する。 3. 健康問題を経過及び症状という視点から捉え、それぞれの特徴や各期に応じた看護を理解する。 4. 看護に活用する医療機器の原理と実際について理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 臨床看護とは 1)臨床看護の特徴 2)看護の活動の場 | 臨床看護における対象、看護の場の特徴について学習する。基礎看護目的対象論の学習内容を復習して授業に臨む必要がある。 | |
| 2 | | | |
| 3 | 2. 臨床看護における対象者の理解 1)患者、患者役割 2)患者と家族 3)患者と医療者 | | |
| 4 | 1. 症状とは 1)臨床で用いられる主な症状 | 主要症状とメカニズム、症状の看護についてGW・発表会に取り組む。(5、6回目) 学習した「人体の構造と機能」「病理学」の基礎知識を活用してメカニズムを考え、看護につなげて考える。 | |
| 5 | 2. 主要症状と看護 ①症状の定義 ②原因 ③看護 | | |
| 6 | | | |
| 7 | 1. 経過別看護とは 2. 健康維持期にある患者の特徴と看護 3. 急性期にある患者の特徴と看護(生命の危機状態の患者の看護を含む) | 経過別看護の急性期にある患者を事例にしてGW・発表会に取り組む。(10~12回目) この事例は「看護共通基本技術【フィジカルアセスメント】」「看護過程展開の技術」に関連する内容である。 基礎的な知識と関連させて、メカニズムをとらえ、看護につなげて考える。 | |
| 8 | 4. 回復期にある患者の特徴と看護 5. リハビリテーション期にある患者の特徴と看護 | | |
| 9 | 6. 慢性期にある患者の特徴と看護 7. 終末期にある患者の特徴と看護 | | |
| 10 | 経過別看護の急性期にある患者の看護 GW | 14回目 臨床工学技士による講義 15回目 病院にて実際の医療機器を使用した演習を行う。授業内容を復習して演習に臨む必要がある。 | |
| 11 | 経過別看護の急性期にある患者の看護 GW | | |
| 12 | 経過別看護の急性期にある患者の看護 発表会 | | |
| 13 | 1. 医療機器の使用目的と適切な活用 2. 臨床工学、臨床工学士 3. 医療機器の種類 | | |
| 14 | 4. 医療機器の安全管理と安全な使用 5. 医療機器を使用する患者の看護 6. 人工呼吸器を使用する患者の看護 | | |
| 15 | | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験 80% ②グループワーク 20% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。 ①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 この講義では、「臨床の看護」を学習する。社会背景の変化により、患者を取り巻く療養環境は大きく変化している。臨床で繰り返しられる「看護」をこれまでの学習と関連しながら考えていく。また、症状や病態についてのグループワークにも取り組むため、基礎的知識を活用して活発に意見交換して学習を進めていく。医療機器を使用する患者の看護では、臨床工学士により実際の医療機器を使用しての演習を行う。貴重な経験となるため、積極的に演習して実習に活用してほしい。 | | | |

| | | | |
|-----------|--|----------|-----------|
| 授業科目(必須) | 看護研究の基礎 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回(テスト1回) |
| 対象学年、開講時期 | 2年次後期 10月 ~ 3月 | | |
| 教科書等 | 系看 看護研究(医学書院) 看護学生のためのケース・スタディ 第4版(メヂカルフレンド社) 他 | | |

授業概要

看護は実践の科学といわれる。看護実践の科学的根拠を得る手段が看護研究である。看護の専門性を高めるために看護研究の必要性を理解し、将来、研究や看護ケアの改善方法を考案するための知識を学ぶ。また、実習を通して自分のテーマを決め論文作成のプロセスを実際を通して学ぶ。

到達目標

1. 研究とは何かを理解し、説明できる。
2. 看護研究がなぜ必要かを理解し、説明できる。
3. 看護研究を行うための必要な、考え方や研究方法を理解し、説明できる。
4. 看護研究に必要な、文献検索や研究計画書について理解し、説明できる。
5. 看護研究と倫理的配慮について説明できる。
6. 看護におけるケーススタディの意義が述べられる。

授業計画・授業内容

| 回 | 授業内容 | 備考 |
|---|------------------------------|----------------------|
| 1 | 1. 研究とは | |
| 2 | 2. 研究の基本的理解 | |
| | 3. 看護研究を行う上での倫理の原則 | |
| 3 | 4. 研究の進め方 1) 研究計画書の書き方 | |
| | 2) ケーススタディ | 実際に研究に必要な文献を検索してみよう。 |
| 4 | 5. 研究における文献検索の意義 1) 文献クリティーク | |
| 5 | 2) 文献検索の実際 | |
| 6 | 6. 看護研究論文の作成と発表 1) 論文の構成・書き方 | |
| | 2) 研究発表会の意義 | |
| 7 | 7. 研究的手法によるケーススタディ | |
| | | 筆記試験 |

授業方法

講義 演習

評価方法・評価基準

評価方法: 修了時筆記試験100%

評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。
100点満点中60点以上の得点をもって合格とする。

その他

専門職である看護師は、対象者によりよい看護を提供するために、看護上問題になっていることを解明し、よりよい方法を見出す必要があります。研究の基礎的な知識を学び、看護実践を振り返り、研究的視点で分析、考察していくことにより、研究的に臨む姿勢を身につけましょう。文献を熟読し看護に対する考え方を深化させる体験をしましょう。

| | | | |
|-----------|---|-----------------------------|------|
| 授業科目(必須) | 日常生活を整える看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(45時間) | 実習期間 | 1週間 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 前期 5月 ~ 後期 1月 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター | | |
| 授業概要 | <p>1. 入院患者の環境を理解する。</p> <p>2. 対象の基本的欲求を把握し、必要な日常生活援助を学ぶ。</p> | | |
| 到達目標 | <p>1. 患者の入院生活の実際を知る。</p> <p>2. 患者の生活を支える施設、設備、医療チームメンバーを知る。</p> <p>3. 患者の情報から基本的欲求の充足、未充足状態を判断し、日常生活の援助が計画できる。</p> <p>4. 患者に適した日常生活の援助が実施できる。</p> <p>5. 実施した援助の評価ができる。</p> <p>6. 実施した援助の記録・報告ができ、看護チームの一員としての認識がもてる。</p> <p>7. 患者を尊重した関わりができる。</p> | | |
| 実習計画・実習内容 | | | |
| 回 | 実習内容 | 備考 | |
| 1日間 | 1. 入院患者の生活の見学 | 実施方法、実習上の留意点などは実習要項で確認すること。 | 100点 |
| | 2. 患者の生活を支える施設・設備、医療チームメンバーの見学 | | |
| 6日間 | 3. 患者を尊重したコミュニケーションの実施 | | |
| | 4. 患者の健康障害や入院生活によって生じる制約や患者の受け止め方 | | |
| | 5. 患者の基本的欲求の充足・未充足状態の判断と援助の関連づけ | | |
| | 6. 患者に必要な日常生活の援助 | | |
| | 7. 患者の反応をふまえた評価 | | |
| | 8. 行った援助内容、患者の反応の記録と報告 | | |
| | 1. 実習後まとめの会 | 学びの確認共有をする。 | |
| 実習方法 | <p>病院内の患者の生活や治療を支える施設を見学し、それぞれの役割や職種について理解する。</p> <p>患者を1名受け持ち日常生活の援助を中心に実習する。</p> <p>受け持ち患者は、以下のような条件を考慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの援助が必要な患者 ・言語的コミュニケーションの図れる患者 ・状態の安定している患者 ・感染症のない患者 <p>毎日カンファレンスを行い学びの共有をする。</p> | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>出席時間・実習への参加状況・実習記録の記載内容を合わせ評価表に沿って評価する。</p> <p>100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|-------------|--|-----------------------------|-----|
| 授業科目(必須) | 看護過程展開の基礎実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 6月～7月 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター | | |
| 授業概要 | 看護過程の理論を活用して対象の健康上の問題を捉え、患者に必要な日常生活の援助を体験し看護実践の基礎を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の状態を観察し、情報の収集・整理ができる。 2. 整理した情報の解釈分析を行い看護上の問題が明らかにできる。 3. 看護上の優先順位を考え、患者の状態に合わせた援助が具体的に立案できる。 4. 立案した看護計画に沿って援助の実施・評価ができる。 5. 実施した援助の記録・報告ができる。 | | |
| 実習計画・実習内容 | | | |
| 回 | 実習内容 | 備考 | |
| 2 週 間 | 1. 患者のおかれている状況の観察と収集した情報の整理 | 実施方法、実習上の留意点などは実習要項で確認すること。 | |
| | 2. 整理した情報のアセスメント | | |
| | 3. 看護上の問題の抽出 | | |
| | 4. 実施する援助技術の計画立案 | | |
| | 5. 安全安楽を考慮した援助技術の実施 | | |
| | 6. 患者の反応をふまえた実施援助の評価 | | |
| | 7. 行った援助内容、患者の反応の記録と報告 | | |
| 1 週 間 | 病棟で実施した看護過程についての評価修正をする。 | 2週間の実習で実施した看護を振り返り記録を整理する。 | |
| | 実習後まとめの会 | 学びの確認と共有をする。 | |
| 実習方法 | <p>【病棟実習】</p> <p>成人老年の患者を1名受け持ち日常生活の援助を中心に実習する。</p> <p>看護技術は学習済みの範囲で実施する。</p> <p>カンファレンスを行い、看護過程の理解を深める。</p> | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>評価基準: □</p> <p>事前学習・出席時間・実習への参加状況・実習記録の記載内容を合わせ評価表に沿って評価する。</p> <p>100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | <p>「日常生活を整える看護実習」、「看護過程展開の技術」の履修が必要である。</p> | | |

専門分野Ⅱ

| | | | |
|--|--|---|-----|
| 授業科目(必須) | 成人看護目的・対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 9月～ | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 医学書院 事例を通して優しく学ぶ 中範囲理論 日総研 厚生指標 国民衛生の動向 厚生労働省統計協会 | | |
| 授業概要 成人期にある対象は、人間として身体的・精神的・社会的に著しい成長と発達をとげる一方で、身体的には加齢に伴い機能低下や体力の衰えを自覚し受容していく時期である。そのような対象の特徴・発達課題、それに伴う特徴的な健康問題を理解し、それぞれに適した看護を学ぶ。成人期における健康保持増進のための成人保健活動について理解する。 | | | |
| 到達目標 1. 成人各期にある特徴と発達課題について理解できる。 2. 成人各期にある対象の特徴的な健康問題について理解できる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護の基本について理解できる。 4. 成人に対する看護アプローチの基本として、学習理論、行動変容理論、危機/ストレス-コーピングの概念と看護の方法を理解できる。 5. 成人各期にある対象の健康を守る保健について理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 成人看護の目的 1) 健康レベルにあわせた看護の目的 | 成人期にある人や家族が健やかに生きるための成長・発達上の特性、発達課題(ライフタスク)、を理解する内容である。 | |
| 2 | 2. 成人期にある対象の理解 1) ライフサイクルからみた成人の位置づけ | | |
| 3 | 2) 成人各期の特徴と発達課題 | | |
| 4 | 3. 成人各期にある対象の特徴的な健康問題 1) 生活習慣に関連する健康障害 | 成人期に特徴的な健康破綻の要因とその予防について理解する内容である。 | |
| 5 | 2) 職業に関連する健康障害 | | |
| 6 | 3) ストレスと健康障害 | | |
| 7 | 4. 成人に対する基本的アプローチの主要概念 1) 健康レベルと、成人の特徴に応じた看護の特徴 | 成人期にある対象の特徴を踏まえて、基本的な看護アプローチを理論を用いて理解する内容である。 | |
| 8 | (1) 行動変容理論と保健行動 | | |
| 9 | (2) 大人の学習を促す理論 | | |
| 10 | (3) 危機理論/ストレス-コーピング | | |
| 11 | | | |
| 12 | 5. 成人の健康を守るための保健対策 1) 成人保健活動の動向 | 成人各期にある対象の健康状態を集団でとらえ、国や地域での保健医療福祉対策などを理解する内容である。 | |
| 13 | 2) 労働者に対する保健活動 | | |
| 14 | 3) 青年期の学生に対する保健活動 | | |
| 15 | 4) 地域住民に対する保健活動 | | |
| 15 | 5) 感染症予防に対する法律 | | |
| | | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 修了時筆記試験 100% 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 基礎看護目的・対象論で学習した看護の対象と関連させて、成人期にある対象を総合的に理解する。さらに、看護の機能、保健医療チームにおける看護師の役割をフィードバックしながら成人看護に求められる役割や機能について理解する。後に続く成人看護学の学習の基になる科目である。 | | | |

| | | | |
|-----------|-----------------------|----------|----------|
| 授業科目(必須) | 成人の健康と生活を支える看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月～6月 | | |
| 教科書等 | 系統看護講座 成人看護学総論(医学書院)他 | | |

授業概要

成人の健康期・健康危機期にある対象について学習する。身体的・精神的・社会的に自らをコントロールし社会生活に適応している人たちを対象に、現在の健康を維持するために必要な生活を整えるための援助や、主体的により健康を獲得していくために必要な看護の方法を理解する。生活習慣病に焦点を当て、健康の保持・増進のためどのような看護が必要なのかを学習する。

到達目標

1. 成人の健康維持期にある対象の特徴が理解できる。
2. 代表的な生活習慣病について理解できる。
3. 生活習慣病予防のための看護の方法について理解できる。

授業計画・授業内容

| 回 | 授業内容 | 備考 |
|---|--|---|
| 1 | 1. 成人の健康・健康危機期にある対象の特徴 1) 身体的特徴 2) 精神的特徴 3) 社会的特徴 2. 生活習慣病の理解 1) 生活習慣病 2) 生活習慣病対策 3) 特定健康診査、特定保健指導 3. 生活習慣病予防のための教育・指導 1) 大人の学習を促す条件 2) 教育・指導の計画立案 | 成人の特徴を理解し、生活習慣病予防のための教育・指導について学習する。 成人看護目的対象論の学習内容を復習して授業に臨む。 |
| 2 | 1. 生活習慣病予防のための教育・指導 1) 教育・指導の計画立案 ① 指導内容抽出 ② 指導案立案 ③ 発表準備 | 2～4回目グループワーク 生活習慣病予防のための教育・指導内容を抽出し、対象に合わせたわかりやすい指導方法を考えて計画する。対象が興味を持てる、わかりやすい発表・資料を目指し作成する。 |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | 1. 生活習慣病予防のための教育・指導の実践 発表会(ロールプレイング) ① 集団指導: 模擬健康教室 ② 個人指導: 模擬特定保健指導 | ロールプレイングで、生活習慣病予防のための教育指導をわかりやすく実施(発表)する。 看護者側だけでなく、対象者の気持ちで教育指導を受け、他グループの教育指導(発表)を評価し、どのような指導が効果的なのかを考える。 |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | 修了試験 | 筆記試験 |

授業方法 講義 グループワーク ロールプレイ

評価方法・評価基準

- 評価方法: ① 筆記試験 70% ② グループワーク 30%
- 評価基準: ① 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。
② グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。
①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。

その他

生活者としての成人は価値観も多様であり、したがって健康観も多様である。そのような対象により高い健康レベルを獲得する、あるいは現在を維持することの必要性をいかに伝えるかを学習していく。GW・発表会(模擬健康教室、模擬特定保健指導)をとり入れて、看護者だけでなく、対象者の想いも考えて教育指導に活用する。成人教育学(アンドラゴジー)を学び、効果的な健康教育や患者教育を行う基盤をつくり、看護につなげていく。

| | | | |
|---|---|--|---------------------|
| 授業科目(必須) | 周手術期の看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | ・日本麻酔科学会専門医 ・看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 11月～3月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 別巻1・2 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 | | |
| 授業概要 手術療法や、麻酔療法の理解を含め周手術期にある対象の生体反応を理解し、それに伴う看護の方法を学習する。又、生体が順調に回復する過程を促進するための援助の方法を学習する。回復期においては、ボディイメージの変化を伴う手術に焦点を当て、新しい身体、生活に受容していくために必要な看護の方法を学習する。 | | | |
| 到達目標 1. 手術、麻酔が生体に及ぼす反応について理解できる。 2. 手術侵襲に耐えうる身体面、精神面、社会面のアセスメントの視点が理解できる。 3. 生体への侵襲を最小限にするための看護の方法が理解できる。 4. 術後合併症予防のための看護方法が理解できる。 5. 失われた身体機能を受け入れ、適応していけるための看護の方法が理解できる。 6. 早期に社会復帰がはかれるための看護の方法が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 手術療法 | | | |
| 1 | 1. 手術療法の目的 | 治療の一つである手術療法について学ぶ。今まで学んだ解剖生理学の知識を元に、手術による影響等を考えていく。 | 15点 |
| 2 | 2. 手術侵襲と生体反応 3. 手術創及び創傷 4. 手術前に必要な検査と異常所見に対する援助 | | |
| 麻酔学 | | | |
| 1 | 1. 麻酔概要 1)麻酔とは 2)麻酔法の種類と選択 | 手術に欠かせない麻酔について、麻酔の効果(条件)や種類について学んでいく。 | 10点 |
| 2 | 2. 全身麻酔と局所麻酔 1)周手術期の一般的経過と管理 2)麻酔に伴う合併症 | 比較的身近な局所麻酔から意識がなくなる全身麻酔まで、手術をする上で欠かせない麻酔について学んでいく。 | |
| 急性期・回復期にある対象の看護(開腹手術を受ける患者の看護) | | | |
| 1 | 1. 開腹手術を受ける患者の看護 1)術前の看護 | 開腹術を受ける患者に対する術前から術中、術後にかけて、どのような合併症のリスクが高いのか、またどのような看護が必要なのか考えていきます。特に消化器の解剖生理学と疾病論の復習をして臨むこと。 | 50点 |
| 2 | 2)術中の看護 | | |
| 3 | 3)術後の看護 | | |
| 4 | 4)術式に応じた患者の看護 (1)胃切除術 (2)胆嚢摘出術 (3)肝切除術 (4)膵切除術 (5)下部消化管(大腸・結腸・直腸)切除術 (6)腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 (7)その他 | | |
| 5 | | 開腹術の中でも各術式による看護の違いについて授業の中で考えていきます。 | |
| 急性期・回復期にある対象の看護(開胸・開心手術を受ける患者の看護) | | | |
| 1 | 2. 開胸手術を受ける患者の看護 1)術前の看護 2)術後の看護 | 開胸術を受ける患者に対する看護について学ぶ。特に呼吸器の解剖生理学と疾病論の復習をして臨むこと。 | 15点 |
| 2 | 3. 開心手術を受ける患者の看護 1)心臓の構造 2)体循環と肺循環 3)術前の看護 | 循環器の解剖生理について想起しながら事例を用いて学ぶ。復習をして臨むこと。 | |
| 3 | 4)術後の看護 | 術後の看護について、事例をもとにグループワークを行う。 | |
| 急性期・回復期にある対象の看護(開頭手術を受ける患者の看護) | | | |
| 1 | 4. 開頭手術を受ける患者の術前・術後の看護 1)手術適応となる疾患について 2)術式 3)術前の看護 | 意識障害の評価法や観察のポイントについて学ぶ。 | 10点 |
| 2 | 4)術後の看護 | 術後合併症の予防や早期発見するための観察のポイントについて学ぶ。 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義、演習 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出题する。100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」と関連が深い科目です。またその後の「成人看護学演習」や実習にもつながっていく内容です。しっかり復習をして臨むこと。 | | | |

| | | | |
|---|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 健康障害との共存を支える看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 12月 ~ 3月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[3]循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5]消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10]運動器 (医学書院) | | |
| 授業概要 成人の慢性期にある対象について学習する。人間の身体を器官・系統別にわけて学習する。本科目では呼吸器系、循環器系、消化器系、運動器系に障害をきたした対象への看護を学習する。健康障害による疾病との共存をするために必要な看護や急性増悪により急激な健康破綻をきたさないための看護について学習する。人間の身体の正常な働きに以上をきたした場合に引き起こされる症状を理解し、根拠のある看護学習する。また検査・治療に伴う苦痛などの緩和について学習する。 | | | |
| 到達目標 1. 障害の状況に応じた看護の方法が理解できる。 1)呼吸機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 2)循環機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 3)消化・吸収機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 4)運動機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 呼吸機能障害がある患者の看護 | | | |
| 1 | 1. 呼吸器の解剖生理 2. 主な症状と看護 | 呼吸器の解剖生理や呼吸器系疾病論の知識が必要である。よく復習をして臨むこと。 | 25点 |
| 2 | 3. 呼吸機能障害を持つ患者の症状と看護 4. 検査を受ける患者の看護 | | |
| 3 | 5. COPD患者の看護 | | |
| 循環機能障害がある患者の看護 | | | |
| 1 | 1. 心臓の解剖生理と血液循環 2. 経過別看護(予防期、急性期、回復期、慢性期) | 循環器の解剖生理やフィジカルアセスメント、循環器系疾病論の知識が必要である。よく復習をして臨むこと。 | 25点 |
| 2 | 3. 症状別看護とフィジカルアセスメント 1)胸痛 2)動悸 3)浮腫 4)呼吸困難 | | |
| 3 | 4. 心筋梗塞患者の看護 | | |
| 4 | 5. 心筋梗塞患者の看護(まとめ) | | |
| 消化・吸収機能障害がある患者の看護 | | | |
| 1 | 1. 消化器疾患の動向 2. 難病の動向 | 主な消化器疾患や難病、急性期や慢性期といった経過別に分けて、看護を学ぶ。周手術期看護についてもよく復習しておくこと。 | 25点 |
| 2 | 3. 経過別看護 | | |
| 3 | 4. 症状別看護 1)嘔吐 2)下痢 3)肝性脳症 など | | |
| 4 | 5. 疾患別看護 1)クローン病 2)潰瘍性大腸炎 3)肝硬変 | | |
| 運動機能障害がある患者の看護 | | | |
| 1 | 1. 運動機能障害を持つ患者の特徴と看護 | 運動器の解剖生理や運動器系疾病論の知識が必要である。よく復習をして臨むこと。 | 25点 |
| 2 | 2. 運動機能障害を持つ患者への看護技術 3. 運動機能障害を持つ患者の症状と看護 | | |
| 3 | 4. 疾患別看護 1)頸椎性脊髄症 2)腰椎椎間板ヘルニア 3)腰椎変形性すべり症 4)変形性膝関節症 5)脊髄損傷 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義、演習(グループワーク) | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験100% 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 慢性期にある対象が、疾病と共存し、主体的に健康管理できるためには、どのような看護が必要かを考え、学習していく授業です。臨地実習で活用することができる重要な科目ですので、対象の状況を想像しながら、自分でもよく考え、学びを深めていく。 | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 授業科目(必須) | セルフケアを支える看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 看護師、助産師 皮膚・排泄ケア認定看護師 糖尿病看護認定看護師、感染管理認定看護師 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 4月～6月・後期 11月～3月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[6][8][9][4][11] 医学書院 | | |
| 授業概要 <p>成人の慢性期にある対象について学習する。人間の身体を器官・系統別にわけて学習する。本科目では、内分泌・代謝、排泄、性・生殖、血液造血器、防御機能系に障害を来した対象への看護を学習する。健康障害を持ちながら自ら生活をコントロールすることで社会生活に適応できるための看護について学習する。成人期という統合的な存在として生きるという特徴を加味し、人間の身体の正常な働きに異常を来した場合に引き起こされる症状を理解し根拠のある看護を学習する。また、検査・治療に伴う苦痛などの緩和について学習する。</p> | | | |
| 到達目標 <p>1. 障害の状況に応じた看護の方法が理解できる 1) 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる 2) 排泄機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる 3) 性・生殖機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる 4) 血液造血機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる 5) 防衛機能障害を持つ患者の看護の方法が理解できる</p> | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 1 2 3 | 1. 内分泌・代謝障害を持つ患者の看護 1) 内分泌・代謝障害を持つ患者の特徴 2) 内分泌・代謝障害を持つ患者の看護 (1) 糖代謝機能障害を持つ患者の看護 (2) その他の内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護 | 内分泌・代謝器官の構造と機能の基礎知識を活用し学習する。 | 20点 |
| 4 5 6 7 | 2. 排泄機能障害を持つ患者の看護 1) 排泄機能障害を持つ患者の特徴 2) 排泄機能障害を持つ患者の看護 3) 排泄経路を変更した患者の看護 | 排尿経路、排便経路を変更する患者の看護を学習する。腎・尿路の構造と機能および小腸・大腸の構造と機能の基礎知識を活用する。 | 20点 |
| 8 9 10 11 | 3. 性・生殖機能障害を持つ患者の看護 1) 性・生殖機能障害を持つ患者の特徴 2) 性・生殖機能障害を持つ患者の看護 3) 乳房切除術を受ける患者の看護 | 男性女性ともに、性・生殖器機能が障害されることによる心身への影響と看護をグループ演習により学習する。 | 20点 |
| 12 13 | 4. 血液造血機能障害を持つ患者の看護 1) 血液造血機能障害を持つ患者の特徴 2) 血液造血機能障害を持つ患者の看護 | 血液の成分と機能、および造血機能の基礎知識を活用し学習する。 | 20点 |
| 14 15 | 5. 防衛機能障害を持つ患者の看護 1) 防衛機能障害を持つ患者の特徴 2) 防衛機能障害を持つ患者の看護 | 細菌、感染、免疫など病理学の基礎知識を活用し学習する。 | 20点 |
| 授業方法 講義 事例を用いたグループ演習 評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出题する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 慢性期にある対象が、疾病と共存し主体的にセルフケアができるよう関わるためには、どのような看護が必要かを学習する。臨地実習で活用することができる重要な科目である。事例を用いてグループ演習をするため、積極的な参加を期待する。 | | | |

| | | | |
|---|--|---|-------------------|
| 授業科目(必須) | 終末期にある対象の看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師・がん化学療法看護認定看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 9月～11月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 緩和ケア 医学書院 | | |
| 授業概要 成人の終末期にある対象について学習する。終末期では、成人期にある対象の死因の第1位であるがん疾患を取り上げる。 がん疾患で人生の終焉を迎える対象及び家族に、その人らしい最期が迎えられための看護を学習する。 | | | |
| 到達目標 1. 終末期にある対象の特徴について理解できる。 2. がん性疼痛とペインコントロールについて理解できる。 3. がん治療に伴う苦痛の緩和について理解できる。 4. がん患者の家族の看護について理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 1 | 1. 終末期にある患者の特徴 1) 身体的・精神的・社会的・霊的特徴 | 終末期にある対象の特徴である全人的痛み(トータルペイン)について理解する内容である。 | 25点 |
| 2 | 2) 死にゆく人の心理過程の理解と看護 3) 終末期におけるインフォームドコンセント 4) リビング・ウィル | | |
| 3 | 2. がん患者の看護 1) がん患者の特徴 | | |
| 4 | (1) がん性疼痛の理解と看護 | | |
| 5 | 2) 患者の霊的痛みに対する援助 3) がん治療に伴う苦痛の緩和 | がん患者の特徴としてがん性疼痛についてまた、化学療法など治療にともなう苦痛の緩和について理解する内容である。臨床で遭遇する霊的痛みについて具体例を用いて学習し臨地実習で活用できる内容である。 | 50点 |
| 6 | 3. 家族への看護 1) がん患者の家族のアセスメント | 第2の患者ともいわれる家族に対する看護を理解する内容である。 | 25点 |
| 7 | 2) 予期悲嘆への援助 | | |
| | 3) グリーフケア | | |
| | | 筆記試験 | 100点 |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 修了時筆記試験 100% 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 合計100点満点中60点以上の得点をもって合格とする。 | | | |
| その他 この授業が自分自身の死生観を考えるきっかけとなることを期待している。 | | | |

| | | | |
|--|---|---|-----|
| 授業科目(必須) | 成人看護学演習 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月 ~ 11月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 看護診断ハンドブック | | |
| 授業概要 <p>成人の急性期にある対象の事例(紙上患者)を用い、看護過程の展開をする能力を養う。 また、基礎看護技術を基に基礎から応用へ発展した技術を習得する。</p> 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の特徴を踏まえ、周手術期にある対象の看護過程の展開が理解できる。 2. 手術後患者の創傷の回復過程・処置について理解できる。 3. 手術療法を受けた対象への援助計画の立案・実施・評価ができる。 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 事例紹介(開腹術を受ける成人患者) 病態関連図作成 | グループで、関連図を作成していきます。No1の記録は個人課題とします。 関連図について発表会を通して、術後合併症の機序について理解を深めていく。 | |
| 2 | | | |
| 3 | ゴードンの機能的健康パターンの11クラスターのアセスメント | 個人で、事例患者についてクラスターのアセスメントをしていく。 | |
| 4 | ゴードンの機能的健康パターンの11クラスターのアセスメント | | |
| 5 | (発表会) クラスター2 | 発表会の前には事前に当該クラスターの提出が求められる。また発表会を通して、疑問を解消し、アセスメントの追加・修正をして再提出をしていく。 | |
| 6 | (発表会) クラスター3 | | |
| 7 | (発表会) クラスター1・4、その他クラスター | | |
| 8 | 全体像・統合図の作成 | 事例患者について、個人で全体像・統合図の作成をしていく。 | |
| 9 | (発表会) 全体像・統合図 | 発表会の前には事前に全体像・統合図の提出が求められる。 | |
| 10 | 看護計画の立案 | グループで、立案した看護診断に対して看護計画を立案する。 | |
| 11 | 看護計画の立案 | | |
| 12 | (発表会) 看護計画 | 発表会の前には事前に看護計画の提出が求められる。 | |
| 13 | 初回離床場面における看護目標と援助計画の立案 | グループで、手術翌日の患者に対する離床場面の演習を行なう。 | |
| 14 | (演習)初回離床の援助 | | |
| 15 | まとめ | 看護過程全体を振り返り、疑問点などを解消していく。後日、全ての記録の最終提出をする。 | |
| 授業方法 演習(個人ワーク・グループワーク) | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: ①課題の提出物(90%)、②演習への参加態度(10%) 評価基準: ①については、看護過程の共通評価基準を参考とし、詳細は授業にて提示する ②については、グループワークの共通評価基準を参考とし、詳細は授業にて提示する ①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 <p>人体の構造と機能、消化器系疾病論、周手術期の看護、基礎看護学で学習した内容を活用し、対象の条件に合わせて応用していく科目である。既習内容をしっかり復習して臨んでください。また演習の中では周手術期にある対象を取り上げ、看護過程に沿って、進めていく。教科書だけでなく、必要な参考書など自分達で持ってきて演習の中で活用してください。さらにアセスメントや看護診断、看護計画など各過程で発表会・全体討議を通して、演習の中で生じた気づきや学び、さらには疑問点等についても検討を行い、学びを深めていくので、積極的に演習に参加してください。</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------|---|
| 授業科目(必須) | 老年看護目的・対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 講義7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 9月～11月 | | |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) | | |
| 授業概要 高齢者は豊富な人生体験と実績をもった存在であるとともに、加齢による生理的機能低下や精神的変化、社会生活上の役割の変化をきたしていく対象である。その対象を多面的に理解し、QOLの向上をはかりその人らしい生活を送るための看護の役割について学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 老年看護の対象の特性が理解できる。 2. 老年看護の変遷をふまえ、老年看護の目的が理解できる。 3. 老年看護の役割と機能が理解できる。 4. 高齢者の生活適応を阻害する諸要因について形態的・機能的変化から総合的に理解できる。 5. 高齢者を敬い尊重する態度を養う。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. 老年期を生きる人々の特徴 1) ライフサイクルからとらえる 2) 老年期の発達課題 3) 加齢に伴う形態的・機能的変化と生活への影響 4) 加齢に伴う精神的・社会的変化と生活への影響 | | 身体・精神機能加齢変化の学習した内容を活かして、第3次の高齢者体験シュミレーターの作成に活かしていく。 |
| 2 | 5) 老年人口と社会文化的な影響 (1) 高齢者人口の推移 (2) 高齢者世帯の推移 | | 日本の高齢者の社会的な問題を理解し深めていく。 |
| 3 | 2. 高齢者の特徴を体験的に理解する 1) 高齢者体験のシュミレーターの作成 2) 高齢者体験 | | 高齢者体験を通して、身体的・精神的・社会的機能の変化に影響を及ぼすことを考えて学習していく。 |
| 4 | 3. 高齢者ケアと制度の変遷 1) 高齢者の健康保健統計 2) 高齢者医療対策 ・老人保健法、後期高齢者医療制度 3) 老人福祉対策 ・老人福祉法、ゴールドプラン 4) 介護保険制度 | | どのような高齢者支援サービスがあるか、高齢者の健康はどのように守られているかなど身近な高齢者の健康と生活を守るための支援サービスについて学習する。 |
| 5 | | | |
| 6 | 4. 高齢者の生活と倫理的課題 1) 高齢者の権利擁護(アドボカシー) 2) 権利擁護のための制度 | | 高齢者の倫理的課題を理解して、高齢者の権利擁護について学習する。 |
| 7 | 5. 老年看護の概念 1) 老年看護のなりたち 2) 老年看護の役割 3) 老年看護に携わる者の責務 | | 老年看護の基本的な考え方、老年看護に関連の深い理論について学習する。 |
| 8 | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義、健康な高齢者と関わりテーマに沿ったグループワーク演習、高齢者体験モデル装着 | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法： 筆記試験 100% 評価基準： ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②筆記試験で、100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 高齢者の発達課題、現在の超高齢化社会の様相・倫理課題・高齢者をまもるための社会制度を学び、高齢者の特徴を理解していくものである。 | | | |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 高齢者の健康と生活を支える看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 12月 ~ 3月 | | |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系看 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) | | |
| 授業概要 高齢者に起こりがちな変化や障害について理解を深め、健康維持・増進や障害の予防について学習する。本科目では、老化に伴う機能変化が及ぼす影響を日常生活機能の変化に関連させ生活機能の観点からアセスメントする意味を学習する。高齢者の生活を支える看護がQOLへつながることを学習する。 | | | |
| 到達目標 1. 高齢者の健康と日常生活を支える看護が理解できる 2. 長期臥床状態にある高齢者の看護が理解できる | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 高齢者の健康と日常生活を支える看護 | | | |
| 1 | 1. 高齢者の生活機能 1) 高齢者の生活の特徴 2) 生活機能のモデル 3) 高齢者の生活機能評価 | 高齢者の生活機能を評価するスケールについて学んでいく。 | 70点 |
| 2 | 2. 高齢者の食生活を支える看護 1) 高齢者の食生活 2) 食生活のアセスメントと援助 3) 高齢者への口腔ケア | 「活動を整える看護技術」で学んだ食事の援助について、よく復習した上で授業に臨み、高齢者の食事援助の特徴について理解を深めていく。 | |
| 3 | | | |
| 4 | 3. 高齢者の歩行・移動を支える看護 1) 身体機能の加齢変化 2) 高齢者の歩行・移動の援助 3) 転倒のアセスメントと看護 4) 廃用症候群のアセスメントと看護 | 「活動を整える看護技術」で学んだ姿勢・移動を保つための援助についてよく復習した上で授業に臨み、高齢者の食事援助の特徴について理解を深めていく。 | |
| 5 | | | |
| 6 | 4. 高齢者の皮膚と清潔を支える看護 1) 皮膚の加齢変化 2) 高齢者の皮膚と清潔 3) 褥瘡のアセスメントと看護 | 「人体の構造と機能」で学んだ皮膚の解剖生理についてよく復習した上で授業に臨み、高齢者の食事援助の特徴について理解を深めていく。 | |
| 7 | | | |
| 8 | 5. 高齢者の排泄を支える看護 1) 排尿機能の加齢変化 2) 高齢者の排尿ケア 3) 高齢者の排便ケア | 「活動を整える看護技術」で学んだ自然な排泄を助ける援助についてよく復習した上で授業に臨み、高齢者の食事援助の特徴について理解を深めていく。 | |
| 9 | | | |
| 10 | 6. 高齢者の生活リズムを支える看護 1) 加齢による睡眠の変化と障害 2) 睡眠への支援 3) 総括(まとめ) | 「環境を整える看護技術」で学んだ活動・睡眠・休息を助ける援助についてよく復習した上で授業に臨み、高齢者の食事援助の特徴について理解を深めていく。 | |
| 健康寿命延命のための看護 | | | |
| 1 | 7. 高齢者の健康と寿命延伸のための看護 1) 廃用症候群とは 2) 廃用症候群リスクを持つ患者の特徴 3) 廃用症候群のおもな症状 4) 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護 | 疾患や障害による過度な安静で引き起こされる症状や悪循環に陥らないために、廃用症候群リスクの知識や予防への看護の理解を深めていく。 | 30点 |
| 2 | 8. 高齢者の特徴と変化 1) 四肢の運動機能と摂食・嚥下機能 2) 機能が及ぼす生活への影響 転倒、骨折・ひきこもり・誤嚥性肺炎 3) 高齢者のコミュニケーションとかわり方の原則 | 「人体の構造と機能」で学んだ知識を復習し、高齢者の特徴と変化に照らし合わせ、機能が及ぼす生活への影響について理解を深めることができる。 | |
| 3 | | | |
| 4 | 9. 高齢者と家族関係の調整 1) 高齢者におけるセクシャリティ 2) 高齢者ケアの場における性に関する問題 | 高齢者が抱える家族関係のなかにセクシャリティの問題がある。高齢者のセクシャリティの特徴について理解を深めていく。 | |
| 5 | 10. 生活機能の向上に必要な援助 1) 高齢化の現状と目指す社会の方向 2) 地域における高齢者の社会参加 | 高齢者が生活していくための社会参加への支援を学び、高齢化社について理解を深めていく。 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験(100%) 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 筆記試験で、100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 高齢者の健康な日常生活を支えるための看護と他の分野を関連させて活用し、学びを深めていく。 | | | |

| | | | |
|--|---|--|-----------|
| 授業科目(必須) | 健康障害のある高齢者の看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 4月～5月 | | |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) | | |
| 授業概要 障害をもちながら生活する高齢者を支える看護、QOLを高める看護の方法を学習する。ここでは、高齢者におきやすい運動機能障害、感覚機能障害、脱水、せん妄、認知症などを取り上げ、人生の終焉を向かえる高齢者のその人らしい最期が迎えられるための看護を学習する。 | | | |
| 到達目標 1. 障害をもつ高齢者の看護が理解できる 2. 治療を受ける高齢者の看護が理解できる 3. 終末期にある高齢者と家族を支える看護が理解できる | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 高齢者に多い症状・障害の理解と看護 | | | |
| 1 | 1. 感覚機能に障害のある高齢者の看護 | 1年次で履修した「高齢者の健康と生活を支える看護」で学習した高齢者への看護をイメージしつつ、健康障害のある高齢者の看護との違いを理解し知識を深めることができる。 | 50点 |
| 2 | 2. 認知症のある高齢者への看護 認知症高齢者の看護 ① | | |
| 3 | 3. 認知症のある高齢者への看護 認知症高齢者の看護 ② | | |
| 4 | 4. 高齢者のコミュニケーション障害 コミュニケーション障害のある高齢者の看護 | | |
| 5 | 5. せん妄・うつ症状のある高齢者の看護 せん妄・うつ症状 | | |
| 6 | 6. 脱水のある高齢者への看護 症状のなりたちと臨床的特徴 | | |
| 7 | 7. 脱水のある高齢者への看護 脱水のアセスメント・看護の要点 | | |
| 治療を受ける高齢者の看護 | | | |
| 1 | 1. 外来、入院、退院の高齢者の看護 | 高齢化が進む現在、医療の発展もあり高齢者も成人患者と同じように検査や手術を受けている。看護師は、高齢者の特徴と検査や手術の目的・内容・方法などについて十分な理解が必要である。そのため、適切な援助ができるように知識を学ぶ。 | 30点 |
| 2 | 2. 検査を受ける高齢者への看護 | | |
| 3 | 3. 手術療法を受ける高齢者への看護 | | |
| 4 | 4. 薬物療法を受ける高齢者への看護 | | |
| 終末期を迎える高齢者と家族を支える看護 | | | |
| 1 | 1. 終末期を迎える高齢者 1)高齢者の死生観 2)高齢者における終末期とは 3)高齢者の死を看取る場 4)高齢者の死に関わる権利 | 終末期の高齢者を理解し、介護する家族の思いや介護を受ける高齢者の思いを学び、高齢者看護について学ぶ。 | 20点 |
| 2 | 2. 介護を受けている高齢者の介護者への思い 1)病院、自宅それぞれの看取りの実際 | | |
| 3 | 3. 終末期の高齢者とその家族への支援 1)終末期の高齢者の看護 2)家族への看護 3)グリーフケア | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 終末期の事例を用いたロールプレイ演習 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②担当教員4名の筆記試験の合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 老化に伴う健康障害のある高齢者が、自分らしく生きられるような関わるためにどのような看護が必要かを学ぶ。老年期における終末期のあり方と家族への支援とはどのようなものかを考え自己の老年観を養う。 | | | |

| 授業科目(必須) | 老年看護学演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-----|---|------|----|---|-------------------------------------|------------------------|---|--------|-------------|----------------|---|-------------|---------------|--|---------|-------------|----------------------|----|--|---------------------------------|----|---|----|--|----|---------------------------------------|----|--|
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月 ~ 9月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 系看 専門分野Ⅱ 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 老年看護実習ガイド (照林社) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 <p>高齢者の健康維持・増進や障害の予防、障害を持ちながら生活をする高齢者を支える看護の技術を習得する。高齢者の特徴をふまえ、慢性期にある患者の事例展開ができる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護技術が理解できる。 2. セルフケア不足の高齢者への看護技術が理解できる。 3. 慢性に経過している高齢者の看護過程の展開が理解できる。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 慢性に経過している高齢者の看護過程の展開 1) 疾患の理解</td> <td rowspan="2">疾患について事前学習し、関連図を記載していく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 関連図</td> </tr> <tr> <td>3 4 5</td> <td>3) 情報収集・アセスメント</td> <td>生活機能の視点からアセスメントするための情報を各カテゴリーごとに整理し、アセスメントし問題抽出していく</td> </tr> <tr> <td>6 7 8</td> <td>4) 統合の関連図・全体像</td> <td>問題を統合し、問題リスト、期待される結果の全体像をグループワークで検討して、理解を深める</td> </tr> <tr> <td>9 10</td> <td>5) 看護問題、解決策</td> <td>問題リストに沿った看護計画を立案していく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2. セルフケア不足の高齢者への看護技術 (移乗、歩行介助など《片麻痺などの運動障害や視力障害など障害に応じた援助》)</td> <td rowspan="5">事例の患者に応じた援助計画を立案し、校内実習で実施・評価を行う</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>(片麻痺 失行などの障害を持った高齢者への更衣・清潔ケアなど) (排泄に関する観察、トイレ誘導、オムツ使用時の援助など)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3. 摂食嚥下障害をもつ高齢者への看護技術 (準備体操、口腔ケア、アイスマッサージ、嚥下食、摂食嚥下時の援助など)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>4. 高齢者への適切な口腔ケア (体位、物品、義歯の取り扱い方など)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>授業方法 講義・紙上患者の看護過程の展開(個人学習、グループ討議) 摂食嚥下の準備体操、口腔ケア、アイスマッサージ法の演習 片麻痺などの運動障害や視力障害のある高齢者への移乗、歩行介助の演習・オムツ交換の演習</p> <p>評価方法・評価基準 評価方法: 看護過程の展開の記録物80% 看護技術・課題への取り組み20% 評価基準: ①演習事例によるアセスメント、計画立案までの事例展開を評価する。 ②看護技術演習は、演習への取り組み状況と事前・事後課題の提出状況について評価する。 ①②は共通評価基準に基づいて評価し、合計で100点をもって満点とし60点以上を合格とする。</p> <p>その他 既習の学習をもとに学ぶ。授業内容2～4は主に実習室で高齢者への看護で特徴的な看護の技術を実施する。授業内容1は高齢者の看護過程の展開を通して、高齢者に必要な、あるいは特徴的な看護を統合できることを目的とする。</p> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 1 | 1. 慢性に経過している高齢者の看護過程の展開 1) 疾患の理解 | 疾患について事前学習し、関連図を記載していく | 2 | 2) 関連図 | 3 4 5 | 3) 情報収集・アセスメント | 生活機能の視点からアセスメントするための情報を各カテゴリーごとに整理し、アセスメントし問題抽出していく | 6 7 8 | 4) 統合の関連図・全体像 | 問題を統合し、問題リスト、期待される結果の全体像をグループワークで検討して、理解を深める | 9 10 | 5) 看護問題、解決策 | 問題リストに沿った看護計画を立案していく | 11 | 2. セルフケア不足の高齢者への看護技術 (移乗、歩行介助など《片麻痺などの運動障害や視力障害など障害に応じた援助》) | 事例の患者に応じた援助計画を立案し、校内実習で実施・評価を行う | 12 | (片麻痺 失行などの障害を持った高齢者への更衣・清潔ケアなど) (排泄に関する観察、トイレ誘導、オムツ使用時の援助など) | 13 | 3. 摂食嚥下障害をもつ高齢者への看護技術 (準備体操、口腔ケア、アイスマッサージ、嚥下食、摂食嚥下時の援助など) | 14 | 4. 高齢者への適切な口腔ケア (体位、物品、義歯の取り扱い方など) | 15 | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 慢性に経過している高齢者の看護過程の展開 1) 疾患の理解 | 疾患について事前学習し、関連図を記載していく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 2) 関連図 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 4 5 | 3) 情報収集・アセスメント | 生活機能の視点からアセスメントするための情報を各カテゴリーごとに整理し、アセスメントし問題抽出していく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 7 8 | 4) 統合の関連図・全体像 | 問題を統合し、問題リスト、期待される結果の全体像をグループワークで検討して、理解を深める | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 10 | 5) 看護問題、解決策 | 問題リストに沿った看護計画を立案していく | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 2. セルフケア不足の高齢者への看護技術 (移乗、歩行介助など《片麻痺などの運動障害や視力障害など障害に応じた援助》) | 事例の患者に応じた援助計画を立案し、校内実習で実施・評価を行う | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | (片麻痺 失行などの障害を持った高齢者への更衣・清潔ケアなど) (排泄に関する観察、トイレ誘導、オムツ使用時の援助など) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 3. 摂食嚥下障害をもつ高齢者への看護技術 (準備体操、口腔ケア、アイスマッサージ、嚥下食、摂食嚥下時の援助など) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 4. 高齢者への適切な口腔ケア (体位、物品、義歯の取り扱い方など) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-----------|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 小児看護目的対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 12月 ~ 2月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 | | |
| 授業概要 | <p>絶えず成長、発達をしている子どもの特徴とそれらに影響を及ぼす諸因子を理解する。現代の子どもと家族の概要をとらえながら子どもと家族の最善の利益を守るための小児看護の役割について学ぶ。</p> | | |
| 到達目標 | <p>1. 小児の成長・発達を理解する。 2. 成長発達において、個人差として経過を観察するもの、看護援助を必要とするもののアセスメントの視点を理解する。 3. 小児が基本的な生活習慣を身に付ける過程と、小児への関わりかたについて理解する。 4. 親子関係、小児にとっての家族の役割と望ましい家族関係について理解する。 5. 日本の小児の現状(統計)と小児に関する保健施策について理解する。</p> | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 小児看護の概念 1)小児看護の目的 2)小児看護の特徴 3)小児看護の場 | | |
| 2 | 4)小児看護の変遷と動向 | | |
| 3 | 5)小児看護における倫理 ①子どもの権利 | | |
| 4 | 2. 小児の形態的、機能的、心理・社会的発達と家族 1)小児期の分類 2)小児の成長発達 3)成長発達の評価 | | |
| 5 | 4)小児の特徴 | グループワークで各発達段階についてまとめ、発表を通して共有をする。 | |
| 6 | 5)小児各期の成長発達 | | |
| 7 | ①乳児期②幼児期③学童期④思春期 | | |
| 8 | 3. 各発達段階における養育 1)乳幼児期の栄養 | 月齢に応じた栄養について離乳食を食べる体験を通して理解を深める。おもちゃの作成体験を通して、小児の成長発達を促す意味を理解する。 | |
| 9 | 3. 各発達段階における養育 2)乳幼児期の遊び 3)事故防止 | | |
| 10 | 3. 各発達段階における養育 1)学童期・思春期の栄養 | | |
| 11 | 3. 各発達段階における養育 2)学童期・思春期の遊び | | |
| 12 | 3. 各発達段階における養育 4)育児支援 5)小児と社会 ①児童福祉 ②母子保健 ③医療支援 | | |
| 13 | 4. 小児保健 1)予防接種 2)学校保健 | | |
| 14 | 5. 現代社会における小児の諸問題 1)小児と生活習慣病2)小児と事故 3)児童虐待 | | |
| 15 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 | 講義・演習 | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>評価方法:①レポート、②課題提出、③筆記試験、④出席時間など</p> <p>評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②課題は内容の充実度、提出状況によって評価する。 ③レポート課題は共通評価基準に基づいて評価する。 ④グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。 ①～④を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---|---------------------------------|----------|----------|
| 授業科目(必須) | 小児の健康と成長発達を促す看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 臨床医師、看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5～7月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 | | |
| 授業概要 子どもの成長・発達と健康の支援について、各期の特徴的な事象を中心に理解する。小児看護に必要な代表的な疾患の病態・治療・検査について学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 小児とその家族への成長・発達を促す看護を理解する。 2. 小児に生じやすい疾病・障害の成り立ちを理解する。 3. 小児に生じやすい疾病・障害の治療・検査を理解する。 4. 小児に幼児やすい疾病・障害の症状の経過・予後を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 小児における健康の保持増進、成長発達を促すための援助 | | | |
| 1 | 基本的生活援助:食行動 排泄行動 | | 40点 |
| 2 | 基本的生活援助:睡眠、清潔、衣服の着脱、ミルク、離乳食について | | |
| 3 | 遊びの援助 おもちゃの発表 | | |
| 4 | 気になる症状と看護(観察のポイント、看護のポイント) | | |
| 5 | 気になる症状と看護(観察のポイント、プレパレーション) | | |
| 小児に生じやすい疾病障害 | | | |
| 1 | 小児に生じやすい疾病障害:新生児 未熟児 | | 60点 |
| 2 | 小児に生じやすい疾病障害:成長発達異常 先天異常 | | |
| 3 | 小児に生じやすい疾病障害:血液疾患 悪性腫瘍 | | |
| 4 | 小児に生じやすい疾病障害:感染症 予防接種 | | |
| 5 | 小児に生じやすい疾病障害:腎内分泌疾患 先天代謝異常 | | |
| 6 | 小児に生じやすい疾病障害:消化器疾患 | | |
| 7 | 小児に生じやすい疾病障害:膠原病アレルギー疾患 | | |
| 8 | 小児に生じやすい疾病障害:皮膚疾患 事故 虐待 | | |
| 9 | 小児に生じやすい疾病障害:循環器疾患 | | |
| 10 | 小児に生じやすい疾病障害:呼吸器疾患 神経筋疾患 発達障害 | | |
| 授業方法 講義 グループワーク | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: ①課題提出、②筆記試験、③出席時間など 評価基準: ①修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ②課題は内容の充実度、提出状況によって評価する。 ③レポート課題は共通評価基準に基づいて評価する。 ④グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。 ①～④を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| 授業科目(必須) | 健康障害のある小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---------|---|------|----|----|---|--|---|-----|---|------------------------------|---|---------------------------------|---|--|---|---------------------------------|---|------------------------------------|---|-------------------|---|---|-----|---|------------------|---|----------------|---|----------------|---|---|---|--|---|------------------------------------|---|------|------|--|
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 10月 ~ 12月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業概要</p> <p>健康障害のある小児の看護が行われる場の環境や、病児の日常生活援助について学ぶ。また、健康障害の段階それぞれの時期に起こる様々な問題や課題に対応できる看護に必要な知識、技術、態度について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を障害された小児の特徴と看護を理解する。 2. 様々な状況にある小児の特徴と看護の方法を理解する。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 健康を障害された小児の看護の特徴 1) 小児の健康障害と看護 (1) 小児の健康障害とは インフォームドコンセントとは</td> <td rowspan="14">グループワーク(KYT等)の実施や事例を用いて対象の理解を深め看護について学んでいく。</td> <td rowspan="7">50点</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(2) 主要症状と看護 ① 発熱 ② 痛み ③ 呼吸困難</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(2) 主要症状と看護 ④ 脱水 ⑤ 嘔吐 ⑥ 下痢 ⑦ 便秘</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2) 病気に対する児の反応 3) 病気が児に与える影響 4) 小児の健康障害と母親家族</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2. 様々な状況にある小児の看護 1) 外来における看護</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2) 入院している小児の看護 3) 活動制限が必要な小児の看護</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>4) 検査や処置を受ける小児の看護</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>2. 様々な状況にある小児の看護 入院治療の場: 小児病棟、NICU、GCU</td> <td rowspan="7">50点</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5) 手術を必要とする小児の看護</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6) 隔離が必要な小児の看護</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7) 虐待を受けた小児の看護</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>8) 経過および状態に合わせた小児の看護 (1) 急性期にある小児の看護</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>8) 経過および状態に合わせた小児の看護 (2) 慢性期にある小児の看護 (3) 予後不良にある小児の看護</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>9) 救急処置が必要な小児の看護 10) 障害を持つ小児の看護</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>修了試験</td> <td>筆記試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 | 1 | 1. 健康を障害された小児の看護の特徴 1) 小児の健康障害と看護 (1) 小児の健康障害とは インフォームドコンセントとは | グループワーク(KYT等)の実施や事例を用いて対象の理解を深め看護について学んでいく。 | 50点 | 2 | (2) 主要症状と看護 ① 発熱 ② 痛み ③ 呼吸困難 | 3 | (2) 主要症状と看護 ④ 脱水 ⑤ 嘔吐 ⑥ 下痢 ⑦ 便秘 | 4 | 2) 病気に対する児の反応 3) 病気が児に与える影響 4) 小児の健康障害と母親家族 | 5 | 2. 様々な状況にある小児の看護 1) 外来における看護 | 6 | 2) 入院している小児の看護 3) 活動制限が必要な小児の看護 | 7 | 4) 検査や処置を受ける小児の看護 | 1 | 2. 様々な状況にある小児の看護 入院治療の場: 小児病棟、NICU、GCU | 50点 | 2 | 5) 手術を必要とする小児の看護 | 3 | 6) 隔離が必要な小児の看護 | 4 | 7) 虐待を受けた小児の看護 | 5 | 8) 経過および状態に合わせた小児の看護 (1) 急性期にある小児の看護 | 6 | 8) 経過および状態に合わせた小児の看護 (2) 慢性期にある小児の看護 (3) 予後不良にある小児の看護 | 7 | 9) 救急処置が必要な小児の看護 10) 障害を持つ小児の看護 | 1 | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 健康を障害された小児の看護の特徴 1) 小児の健康障害と看護 (1) 小児の健康障害とは インフォームドコンセントとは | グループワーク(KYT等)の実施や事例を用いて対象の理解を深め看護について学んでいく。 | 50点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | (2) 主要症状と看護 ① 発熱 ② 痛み ③ 呼吸困難 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | (2) 主要症状と看護 ④ 脱水 ⑤ 嘔吐 ⑥ 下痢 ⑦ 便秘 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 2) 病気に対する児の反応 3) 病気が児に与える影響 4) 小児の健康障害と母親家族 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 2. 様々な状況にある小児の看護 1) 外来における看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 2) 入院している小児の看護 3) 活動制限が必要な小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 4) 検査や処置を受ける小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 2. 様々な状況にある小児の看護 入院治療の場: 小児病棟、NICU、GCU | | 50点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 5) 手術を必要とする小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 6) 隔離が必要な小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 7) 虐待を受けた小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 8) 経過および状態に合わせた小児の看護 (1) 急性期にある小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 8) 経過および状態に合わせた小児の看護 (2) 慢性期にある小児の看護 (3) 予後不良にある小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 9) 救急処置が必要な小児の看護 10) 障害を持つ小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 修了試験 | 筆記試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業方法 講義、演習、グループワーク</p> <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価方法: 筆記試験 評価基準: 修了試験で到達目標に挙げた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 各講師が実施する試験を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>その他</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|-------|
| 授業科目(必須) | 小児看護学演習 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 臨床看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次後期 12月～3月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 | | |
| 授業概要 事例を用いて看護過程を展開し、子どもとその家族を対象とした援助技術について理解する。 また、健康障害をもつ子どもとその家族に必要な効果的な看護を展開するための技術を学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 小児看護に必要な看護技術について、小児の成長発達にあわせた実施方法を理解する。 2. 事例演習を通して、子どもと家族に必要な看護過程の展開が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 看護過程の実際:事例演習 1) 事例に応じた病態、一般的な検査治療看護、発達段階の理解 | 各自事例展開ができるよう必要な知識の学習をする。 | |
| 2 | 2) 関連図の作成 | 個人で展開した学習を基にグループワークを通して事例展開をする。 | |
| 3 | 3) 情報の整理 4) アセスメント | | |
| 4 | 3) 情報の整理 4) アセスメント | | |
| 5 | 3) 情報の整理 4) アセスメント | | |
| 6 | 3) 情報の整理 4) アセスメント | | |
| 7 | 5) 全体像把握 6) 看護の方向性 7) 看護問題抽出 8) 期待される結果 | | |
| 8 | 9) 看護計画立案 | | |
| 9 | 援助計画の立案 1) 発達段階と安静度に応じた遊び(おもちゃの作成) 2) 発達段階に応じた児と家族への指導(指導媒体の作成) | 各検査や処置の知識や児の成長発達の状況を踏まえ、事例の患児に合わせた援助を考える。 | |
| 10 | 2. 小児の看護技術 1) フィジカルアセスメント 2) 日常生活の援助技術 3) 診察・検査・処置に伴う援助 | | |
| 11 | 2. 小児の看護技術 1) フィジカルアセスメント 2) 日常生活の援助技術 3) 診察・検査・処置に伴う援助 | | |
| 12 | 2. 小児の看護技術 1) フィジカルアセスメント 2) 日常生活の援助技術 | 校内実習 | |
| 13 | 1. 赤ちゃん先生 1) バイタルサイン測定、身体計測 2) コミュニケーション、子育ての実際 | 実際の赤ちゃん母親に触れ子育ての実際を学ぶ。 | |
| 14 | 1. 小児の看護技術 1) 点滴静脈内注射の方法と管理 2) 診察・検査・処置時の固定方法 | 校内実習 各技術の目的方法留意点と発達段階に応じたプレパレーションの計画を実践を通して学ぶ。 | |
| 15 | ① 診察時 ② 採血・皮下注射時 ③ 吸入・吸引時 ④ 腰椎穿刺時 3) 採尿の方法 4) 抑制 | | |
| 授業方法 講義 看護過程の演習のグループワーク 小児看護技術の学内実習(バイタルサイン測定などの看護技術、レポート) | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: ① レポート、② 課題提出、③ グループワーク、④ 出席時間 など 評価基準: ① 小児看護技術の課題、赤ちゃん先生レポートは評価対象とする。 ② 成果物(看護過程の展開記録)は100点満点中60点以上の得点をもって合格とする。 ③ レポート、成果物の評価基準は別途提示する。 ①～③を合計し100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 健康に障害のある小児の看護について、事例を用いて看護過程を展開する。既習の知識を統合させ、児の特徴(発達・生活背景・病態)看護を考え、具体的に考えた指導内容、子供に必要な遊び(おもちゃの使用)などについて学習する。 | | | |

| | | | |
|-----------|---------------------------------|----------|-----|
| 授業科目(必須) | 母性看護目的・対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 助産師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 1年次 後期 11月 ~ 3月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 | | |

授業概要

母性看護は、子どもを産み育てることの援助のみにとどまらず、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに基づき、女性の幸せと幅広い活躍を支援する看護である。本科目は母性看護学を学ぶ出発点として位置づけ、母性看護の変遷や動向、理論、社会状況などの側面から看護の役割を理解し生命倫理、生命尊重の意味について考える機会とする。また、自己の中にある母性・父性について関心を深める学習内容である。

到達目標

1. 母性看護に関連する概念を理解し、母性看護の役割を理解する。
2. 母性看護にかかわりの深いセクシュアリティ(性)について理解する。
3. 母子保健の動向と、母子保健施策を理解する。
4. 母性に関連する倫理的問題を理解する。

授業計画・授業内容

| 回 | 授業内容 | 備考 |
|----|---|--|
| 1 | 1. 母性看護の概念と看護の役割 1) 母性看護の基盤となる概念 | 母性とは何かを学習する。テキストのセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションの基本概念を読んでおくこと。VTR教材使用する。 |
| 2 | (1) 母性とは (2) 母性・家族の発達 (3) リプロダクティブヘルス/ライツ | |
| 3 | 2) 母性看護の対象と看護の役割 | |
| | 2. セクシュアリティ 1) セクシュアリティの概念、特徴 | |
| 4 | 3. 母子関係と家族発達 | 新生児人形をモデルに親子の体験学習をする。これらや、小児看護学概論、クラウス・ケネルの親と子のきずなの資料からも母子関係の発達を学習する。 |
| 5 | 1) 愛着行動 | |
| 6 | 2) 母子相互作用 3) 親になる過程 | |
| 7 | 4. 母性看護の歴史 1) 歴史的変遷と習俗 | 出産をめぐる習俗について調べ発表する。 |
| 8 | 5. 母性の健康と社会 1) 母子保健の動向 | 出生に関する統計、死亡に関する統計(妊産婦死亡、死産、周産期死亡)から動向についてグループディスカッションをする。母子保健法、労働基準法、男女雇用機会均等法について施策を調べグループ発表する。時代背景を読み解き考えてもらいたい。 |
| 9 | 2) 母子保健に関わる法律・諸制度 | |
| 10 | 3) 母子の健康支援施策 | |
| 11 | 6. 母子保健をめぐる問題 ① 1) 10代の妊娠 | 性周期と性ホルモン、受胎のメカニズムについて復習しておくこと。10代の性行動の特徴と、母体への健康の影響を学習する。 |
| 12 | 2) 人工妊娠中絶 | |
| 13 | 7. 母性看護における倫理 | 倫理綱領をもとにいのちをめぐる問題について考える。 |
| 14 | 8. 母子保健をめぐる問題 ② 1) 飲酒・喫煙の女性の健康への影響 | それぞれグループ学習を行い、女性の健康行動について学習する。 |
| 15 | 2) ドメスティックバイオレンス(DV) 3) 児童虐待と親子関係 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 |

授業方法 講義 グループワーク

評価方法・評価基準

評価方法: 筆記試験90% レポート課題10%

評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。

②レポート課題は共通評価基準に基づいて評価する。

①～②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。

その他

母性をとりまく環境に関する情報に関心をもち授業に参加してほしい。

参考図書

有森直子編著 母性看護学 I 概論 医歯薬出版株式会社

クラウス/ケネル/クラウス著 竹内徹訳 親と子のきずなはどうつくられるか 医学書院

| | | | |
|--|---|--|-------------|
| 授業科目(必須) | 女性の健康と看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 臨床医師 助産師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月～9月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院 | | |
| 授業概要 周産期に限定せず、母性としての特性を身体的・心理的・社会的に理解し、母性に影響を与える健康問題と健康生活を営むために必要な看護を理解する。そして、ライフサイクル各期の対象の次世代育成力の保持増進、疾病予防、健康回復過程における看護の実際を学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 周産期以外の女性の各ライフサイクルの身体的、心理的、社会的特徴を理解する。 2. 各ライフサイクルにおける、健康問題と健康教育・保健指導を理解する。 3. 妊娠、分娩、産褥の経過と胎児の健康状態を理解する。 4. 妊娠、分娩、産褥のハイリスク及び正常逸脱状態の治療および対処方法を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題 | | | |
| 1 | ライフサイクルにおける女性の健康問題 | 女性に備わる機能から生じる健康障害の予防と健康の維持増進に向けたケアをグループワークを取り入れ考える。 | 50点 |
| 2 | 思春期の健康と看護 | | |
| 3 | 成熟期の健康と看護 | | |
| 4 | 更年期・老年期の健康と看護 | | |
| 5 | ライフサイクルとセクシャリティ | | |
| 正常な周産期の経過とハイリスク及び正常逸脱状態の病態・治療 | | | |
| 1 | 正常な妊娠経過、胎児の健康状態 | 妊娠・分娩・産褥における母体の正常な経過、胎児の発育について学習する。また、妊娠による合併症とその治療、分娩経過の異常時の対処、産褥経過の異常時の治療について学習する。 | 50点 |
| 2 | 1) 妊娠の成立 | | |
| 3 | 2) 妊娠に伴う母体・胎児の生理 | | |
| 4 | 3) 妊娠中の検査 | | |
| 5 | 4) 異常妊娠、胎児異常 | | |
| 6 | 5) 妊娠合併症 | | |
| 7 | 正常な分娩経過、分娩の異常 | | |
| 8 | | | |
| 9 | 産褥経過、産褥の異常 | | |
| 10 | | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 参考図書 有森直子編著 母性看護学Ⅱ 周産期各論 医歯薬出版株式会社 病気がみえる vol.10 産科 MEDIC MEDIA 高橋真理 他編 女性のライフサイクルとナーシング ニューベルヒロカワ | | | |

| | | | |
|---|--|--|-----|
| 授業科目(必須) | 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 助産師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 10月～1月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ | | |
| 授業概要 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的特徴および家族への理解を深める。また、母性機能の健全な発達や母子の安全を守る看護のあり方、および特徴的な周産期の看護技術について学ぶ。 到達目標 1. 正常な経過をたどる妊婦の看護を理解する。 2. 妊娠中のマイナートラブル・ハイリスク妊婦に対する看護を理解する。 3. 分娩各期の看護を理解する。 4. 褥婦の看護を理解する。 5. 新生児の看護を理解する。 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 1 2 3 4 | 正常な経過をたどる妊婦の看護 1) 妊婦の心理・社会的な変化とそれを支える保健指導 2) マイナートラブルへの対処 3) ハイリスク妊婦の看護 | 妊娠による生理的変化の生活への適応と健康逸脱時の援助を学習する。女性の健康と看護で学習した正常な周産期の経過の知識を活用する。 | 50点 |
| 1 2 3 | 産婦の看護 1) 分娩各期 看護の要点 2) 産婦と家族の心理 3) 分娩異常、産科処置と看護 | 分娩各期の特徴を理解し、経過や時期に合わせた看護を学習する。母子とも安全に分娩できるための援助方法を学習する。 | |
| 1 2 3 4 | 褥婦の健康を促す看護 1) 産褥期の身体的(退行性変化、進行性変化)、心理・社会的変化 2) 褥婦と家族の看護 3) 全身の回復を促す看護 4) 母乳育児を支える看護 5) 産褥の異常と看護 | 褥婦の退行性変化、進行性変化、親役割獲得について学習する。褥婦自身が自分の健康回復が促進できるように、また、正常を逸脱しないよう根拠に基づくセルフケアを促す看護を学習する。褥婦と新生児、双方のアセスメントが援助につながることを理解する。 | 50点 |
| 5 6 7 8 | 新生児の看護 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の基本的ケア 4) 異常を予防する看護 | 新生児の生理、基礎知識をもとに、新生児の健康を促す看護を学習する。基本的ケアの根拠を理解し、正常からの逸脱を予防するための母子への看護を学習する。 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: 筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 参考図書 村本淳子他編 母性看護学1 妊娠分娩 医歯薬出版株式会社 今津ひとみ他編 母性看護2 産褥新生児 医歯薬出版株式会社 仁志田博司著 新生児学入門 医学書院 | | | |

| | | | |
|---|--|----------|---|
| 授業科目(必須) | 母性看護学演習 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 助産師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 1月 ~ 3月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ | | |
| 授業概要 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の変化は生理的な現象ではあるが、容易に異常に傾き急変しやすいという特徴をもっている。これらを健康期の看護と同様に、潜在的な問題や、予測される問題を解決するための看護を、ウエルネス(より良い状態へ導く)という視点から考える。 到達目標 1. 正常な経過をたどる妊婦の看護を理解する。 2. 分娩期の産痛緩和のための看護技術を理解する。 3. 産褥期・新生児期の看護技術の基本を理解する。 4. 褥婦・新生児の看護過程が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 母性の看護過程の特徴 1)ウエルネス看護診断 2)看護過程の事例展開 | | 母性看護の対象の特徴をとらえ、問題解決志向だけでなくウエルネス志向による看護過程の展開を学習する |
| 2 | 妊婦に対する看護技術 1)レオポルド触診法 2)胎児心音の聴取 他 産婦に対する看護技術 1)呼吸法・補助動作 | | この技術は、妊娠経過を把握するため、また、分娩時の産婦への援助に必要な技術であり、母児2人の命にたずさわる看護技術である。安全でより安楽な技術が提供できるよう積極的に参加してほしい。 |
| 3 | 褥婦・新生児の看護過程① | | 妊娠・分娩・産褥経過の一連が関連していること、褥婦と新生児は相互に関連していることを看護過程展開を通して整理する。母体の生理的変化の回復と促進、新生児の胎外生活への適応が順調に経過できるための援助を導きだすことを学習する。 |
| 4 | 1)情報整理 2)関連図 3)分析 4)全体像 | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | 褥婦に対する看護技術 | | この看護技術は、褥婦の経過を把握するための技術であり、回復を促進するための技術である。また新生児の看護を行う上で必須の看護技術である。DVD視聴および看護技術のテキストを活用し積極的に参加してほしい。 |
| 8 | 1)子宮底の観察 2)乳房の観察 3)産褥体操 新生児に対する看護技術 1)バイタルサイン、身体計測 2)抱き方、授乳 3)おむつ交換 他 | | |
| 9 | 褥婦・新生児の看護過程② | | ウエルネスの視点で対象をとらえ、順調な経過を促す看護、異常を予防する看護の考え方を学習する。 |
| 10 | 1)看護目標 2)看護計画 3)保健指導案作成 | | |
| 11 | | | |
| 12 | 新生児に対する看護技術 | | 沐浴のデモンストレーション後、1回以上練習を行い臨むこと。 |
| 13 | 1)沐浴 2)調乳 | | |
| 14 | 褥婦・新生児の看護過程③ | | 作成した指導案をもとにロールプレイを行い、健康行動を促進する看護を学習する |
| 15 | 1)保健指導案発表 | | |
| 授業方法 ペーパーシュミレーションによる事例展開 モデル人形を使用した演習 ロールプレイ 評価方法・評価基準 評価方法: ①看護過程の展開70% ②看護技術レポート課題20% ③グループワーク10% 評価基準: ①看護過程の展開は、共通評価基準に基づいて評価する。 ②レポート課題は、共通評価基準に基づいて評価する。 ③グループワークは、共通評価基準に基づいて評価する。 ①～③を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 参考図書 日本助産診断・実践研究会編 実践マタニティ診断 医学書院 太田操編 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版 佐世正勝他編 ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院 | | | |

| | | | |
|---|--|---|-----------|
| 授業科目(必須) | 精神看護目的論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 精神看護専門看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月 | | |
| 教科書等 | 精神看護学Ⅰ 精神保健学 (ヌーベル ヒロワ) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 (ヌーベル ヒロワ) | | |
| 授業概要 現代社会は精神的ストレスに満ちた社会であり、精神保健が重要性を増している。また、災害被災者や事故・事件等の被害者への心のケアは身近な問題としてとらえられるよう国民意識の変化も求められている。ひとり一人が、その人らしく生きてゆくことを支援するために必要な精神看護の基礎的な考え方を学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 精神看護学の基本的概念を理解する。 2. 心の発達について理解する。 3. 精神看護の役割と機能を理解する。 4. 精神看護の関連理論を理解する。 5. 精神保健活動の制度とシステムを歴史の変遷をふまえて理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 精神看護学の基本的概念 1)心(精神)の健康とは 2)精神保健とは | 精神医療・看護は時代の変遷とともに、変化してきている。どのような経緯をたどって、今に至っているのか考えながら、授業に臨むこと。 | |
| 2 | (1)精神保健のカプランの考え方 (2)精神的健康の考え方 3)精神看護とは | | |
| 3 | 4)精神障害者の定義・障害モデル 5)精神医療・看護の歴史の変遷 6)日本の精神医療の現状と課題 | | |
| 4 | 2. 精神保健活動の制度とシステム 1)精神保健活動の動向 (1)精神保健福祉法の理念・基本的な考え方 (2)現代社会の精神保健に関する国の施策 (3)精神保健関連施設 (4)精神保健関連スタッフ 2)精神保健医療に関わる法制度の変遷 | 精神的健康の保持・増進を図るための国の制度や施設、さらには職種について学んでいく。 | |
| 5 | 3. 心の発達 1)心の構造 (1)エゴ・自我・超自我 (2)自我の強さ(成熟の指標) 2)不安と防衛機制 | 心理学で学んだ知識が必要となるため、よく復習して臨むこと。 | |
| 6 | 4. 精神看護学の関連理論 1)セルフケア理論 | 精神看護でよく用いられる看護理論について学んでいく。なぜこれらの理論が精神看護で大切なのか考えながら、授業に臨むこと。 | |
| 7 | 2)オレム・アンダーウツのセルフケア理論 3)対人関係理論 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 終了時筆記試験100% 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---|--|--|----------|
| 授業科目(必須) | 精神看護対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 臨床医師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月～9月 | | |
| 教科書等 | 精神看護学Ⅰ 精神保健学 (ヌーベル ヒロワ) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 (ヌーベル ヒロワ) | | |
| 授業概要 <p>心の健康を脅かす要因と仕組みを理解し、現代社会に起こりやすい代表的な精神の疾患、症状の病態や、検査、治療について理解する。</p> | | | |
| 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 心の健康について理解する。 ストレスと危機的状況およびライフサイクルの各期における不適応問題を理解する。 精神機能の障害(疾病、症状、治療、検査)について理解する。 精神機能と代表的な精神障がいについて理解する。 精神機能の障害のある対象の検査、治療について理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 精神医療とは 1)精神疾患の理解に必要な脳の機能と構造 2)神経伝達物質と神経系 3)精神科の臨床診断の理解 | 「人体の構造と機能」の中の脳神経系の知識が前提となるため、よく復習をして授業に臨むこと。 | |
| 2 | 2. 精神機能の障害(疾病、症状、治療、検査) 1)代表的な精神障害 (1)心因性精神障害:うつ病 (2)内因性精神障害:統合失調症、躁うつ病 (3)外因性精神障害:器質性精神病、症状精神病 (4)精神作用物質に関連した精神障害:薬物依存 (5)発達障害 | 代表的な精神障害であるうつ病や統合失調症などについて、病態や症状だけでなく、検査や治療も合わせて学んでいく。治療では、薬物療法が特に重要であり、薬理学で学んだことをよく復習して授業に臨むこと。 | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | 3. 精神機能に障害のある人の主な検査、治療 1)検査 (1)脳波検査 (2)心理検査 (3)記憶力検査 (4)人格検査 | 精神機能に障害のある人に対して行われる検査の目的や方法、結果の判断について学んでいく。 | |
| 6 | 2)身体への治療 (1)薬物療法 (2)電気けいれん療法(無けいれん療法) (4)作業療法 (5)レクリエーション療法 3)内面への働きかけの治療 (1)精神療法 (2)精神分析および力動精神療法 (3)認知行動療法 (4)作業療法 (5)レクリエーション療法 4)環境への働きかけの治療 (1)環境療法 (2)治療共同体 | 精神機能に障害のある人に対して行われる治療について、薬物療法から精神科に特有な電気けいれん療法や精神療法などについて学んでいく。 | |
| 7 | | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験(100%) 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 精神面の健康状態が不安定な人や精神機能に障害のある人を偏見や差別でとらえることなく、ストレスや疾病の理解を正しくすることが看護の第一歩である。日頃より新聞やテレビ、雑誌などに興味、関心を持ち、現代社会の精神の健康問題について考えること。 | | | |

| | | | |
|--|---|---|-----------|
| 授業科目(必須) | 心の健康を支える看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 精神看護専門看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期10~12月 | | |
| 教科書等 | 精神看護学Ⅰ 精神保健学 (ヌーベル ヒロワ) 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 (ヌーベル ヒロワ) | | |
| 授業概要 <p>心の健康の保持、増進の援助や心の健康状態を対象が現実を見つめ環境に適応し、その人らしく生活が送れるよう援助する。 具体的には、対人関係の成立を基盤に観察、コミュニケーション、日常生活援助、社会資源の活用などの援助の方法について理解する。</p> 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスと対処行動について理解する。 2. ライフサイクルと精神保健の不適応について理解する。 3. 生活の場と精神保健について理解する。 4. 精神看護の基本的援助について理解する。 5. 精神保健の段階における看護について理解する。 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. ストレスと危機介入 1) ストレスの理解 2) ストレスコーピング 3) 危機介入 4) 外傷反応 | | |
| 2 | 2. 生活の場と精神保健 1) 家族 2) 学校 3) 職場 | | |
| 3 | 3. 基本的援助技術 1) 精神状態のアセスメント 2) コミュニケーション 3) 観察 | | |
| 4 | 4. セルフケア理論とアセスメント 1) セルフケア理論の理解 | 演習: グループワーク 課題: 事例を用いたセルフケアアセスメントの実際 | |
| 5 | 2) セルフケアアセスメント演習 | | |
| 6 | 5. 疾患の理解と看護 1) 統合失調症患者の理解と看護①急性期 | | |
| 7 | 2) 統合失調症患者の理解と看護②回復期 | | |
| 8 | 3) 統合失調症患者の理解と看護③慢性期 | | |
| 9 | 4) うつ病、双極性障害患者の理解と看護 | | |
| 10 | 5) 不安障害、強迫性障害患者の理解と看護 | | |
| 11 | 6) 摂食障害、パーソナリティ障害、物質関連障害および嗜癖性障害群患者の理解と看護 | | |
| 12 | 6. 治療に伴う看護 1) 薬物療法 | | |
| 13 | 2) 認知行動療法 | | |
| 14 | 3) 治療的グループ | | |
| 15 | 7. リエゾン精神看護 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義・演習 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験(100%) 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|--|---|----------|---|
| 授業科目(必須) | 精神看護学演習 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 精神看護専門看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 12月～3月 | | |
| 教科書等 | 精神看護学 I II (ヌーベル ヒロカワ) | | |
| 授業概要 <p>心の健康の保持増進のための援助技術を学ぶ。さらに、看護場面の再構成やロールプレイングを通して、治療的コミュニケーションの基本的な方法や活用する理論を学ぶ。精神科病棟で入院患者が多い統合失調症の患者をとりあげ看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者－看護師関係を成立させる構成因子を理解する。 2. 治療的コミュニケーションの基本的方法がわかる。 3. 精神看護に必要な基本的な援助技術を理解する。 4. 精神に障害のある対象の看護過程の展開が理解できる。 <p>授業計画・授業内容</p> | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 3. 看護過程の展開 1)セルフケア理論を用いた事例展開(統合失調症) | | 演習:個人ワーク・グループワーク 課題:事例を用いたセルフケアアセスメントの実際 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | 1. 患者－看護師関係の成立に必要な看護技術 1)コミュニケーション | | 精神の安寧のための代表的な援助技術について自分たちで体験を通して学ぶ。レクリエーション計画を立案し、実施する。 |
| 12 | 2)ロールプレイング | | |
| 13 | 3)看護場面の再構成 (1)看護場面の再構成を用いた事例検討 | | |
| 14 | 2. 精神の安寧のための援助技術 1)レクリエーション | | |
| 15 | 2)リラクゼーション (1)自律神経とストレス (2)マッサージの実際 | | |
| | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義・演習 評価方法・評価基準 評価方法: 看護過程の展開の記録物80% 看護技術・課題への取り組み20% 評価基準: ①演習事例によるアセスメント、計画立案までの事例展開を評価する。 ②看護技術演習は、演習への取り組み状況と事前・事後課題の提出状況について評価する。 ①②は共通評価基準に基づいて評価し、100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 <p>心の安楽のための援助技術は、あらゆる対象の精神面の健康の保持増進の方法として習得して欲しい。さらに臨地実習で、患者との関わりを振り返り、患者－看護師関係を成立させる構成因子がわかり、自己理解、他者理解に役立てられるような自己洞察力を高める。</p> | | | |

| | | | |
|---|---|----------|---|
| 授業科目(必須) | 健康を維持するための看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 健康管理センター:3日間 病棟実習:2週間 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 健康管理センター 病棟 | | |
| 実習目的 1. 健康づくりの働きかけと健康維持・増進ができるための方法を学ぶ。 2. 生涯セルフコントロールの必要な対象に対して、疾病との共存を図り、セルフケア確立のための援助方法を学ぶ。 | | | |
| 実習目標 1. 0次予防、1次予防、2次予防のための援助が理解できる。 2. 継続して健康管理ができるための支援を理解する。 3. 障害が患者にどのように影響しているのか理解できる。 4. 患者および家族が状態をどのように受け止め、対処しているのか理解できる。 5. 患者の状態に応じた生活指導ができる。 6. 患者とその家族の闘病意欲の維持・向上のための援助ができる。 7. 社会資源を活用する重要性和その活用方法が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| | 実習内容 | | 備考 |
| 健康期にある対象の看護(3日間) | 1. 生活習慣病予防のための保健指導の実際 1) 成人期にある対象の健康問題の特徴(健康管理センターを訪れる人々の背景) 2) 健康に対する意識を高める働きかけ(健康相談、健康教室、集団指導・個別指導等) 3) 健診者自身が健康管理を続けられるような指導の工夫(変化のステージに合わせた支援) 2. 健康診査の援助 1) 健康診査の目的と内容(検査の種類と内容、問診、診察の援助、健診者への心理的配慮) | | 健康管理センター実習(3日間) ・半日ドック (問診見学、乳がん検診介助 など) ・1日ドック (検査見学、問診見学、保健指導見学 など) ・カンファレンス (テーマを決めて実施) |
| 慢性期にある患者の看護(2週間) | 1. 障害受容のための援助 1) 患者の健康障害の部位と程度のアセスメント (障害されている器官、出現している症状、障害されている生理的变化) 2) 疾病、治療、今後の生活に対する受け止めと対処方法 (受容までの心理的プロセス:フィンク、コーン、病みの軌跡、ストレス・コーピング、アドヒアランス) 患者と家族の気持ちの表出を助ける援助 (環境づくり、傾聴、共感) 2. セルフコントロールのための援助 1) 日常生活の規制と阻害されるニーズ 2) セルフコントロールを阻害する因子 (年齢、生活習慣、生活リズム、意欲、社会的役割、基礎疾患、感染) 3) セルフケア能力のアセスメント (必要とされる知識、学習能力・準備状態、自己管理態度の強さ、学習への動機付け、行動特性・パーソナリティ特性、生きがい、社会的支援) 4) 主体性を引き出す生活指導 (症状マネジメント、セルフモニタリング、自己効力感、エンパワーメント、アンドラゴジー) 5) 家族への協力依頼と指導 3. 社会資源の活用 1) 経済的支援のための制度 2) 地域で行われている支援 3) セルフヘルプグループ 4) 他職種との連携 | | 病棟実習(2週間) ・患者を1名受け持ち実習する ・受け持ち患者が透析療法やリハビリテーションを実施している場合は、患者に同行し、見学を通して学習する ・機会があれば、退院調整看護師の活動、MSWなど多職種との連携の実際を学習する |
| | | | 1週目: ・オリエンテーション ・患者、家族、カルテから情報収集し、対象理解につなげる ・コミュニケーションをはかり、患者・家族の受け止めや対処方法を理解する ・患者の状態に応じた援助を実践する 2週目: ・患者のケースカンファレンスを行い、看護問題を明確にする ・患者の状態に応じた援助、生活指導を実践する |
| 実習方法 健康管理センター実習(3日間):健康管理センターの日課に沿って見学実習をする。 病棟実習(2週間):生涯セルフコントロールの必要な患者を受け持ち、看護過程を展開する。 | | | |
| 評価方法・評価基準 事前学習、実習内容、記録物、カンファレンスへの参加度等、評価基準(実習要項参照)によって評価する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「成人看護目的・対象論」、「成人の健康と生活を支える看護」、「周手術期の看護」、「健康障害との共存を支える看護」、「セルフケアを支える看護」、「終末期にある対象の看護」、「成人看護学演習」の履修が必要である。 | | | |

| | | | |
|---|---|----------|---|
| 授業科目(必須) | 急性・回復期にある患者の看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 手術室 | | |
| 実習目的 1. 周手術期患者を通し生体機能が急激に変化している対象に対して、生命維持と苦痛緩和への援助の方法を学ぶ。 2. 生体機能の回復を促し、回復状態に合わせた日常生活自立のための援助方法を学ぶ。 | | | |
| 実習目標 1. 患者の生命の安全を守るための援助ができる。 2. 苦痛の緩和をはかり、阻害されている日常生活充足のための援助ができる。 3. 合併症、二次障害の早期発見および予防の援助ができる。 4. 障害された機能の回復をはかり、患者のセルフケア確立にむけての援助ができる。 5. 患者および家族の心理を理解した援助ができる。 6. 社会資源を活用することにより、日常生活行動の自立と拡大をはかることの重要性が理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| | 実習内容 | | 備考 |
| 1 週 目 | 1. 生命を維持するための援助 1) Mooreの術後回復過程と臨床所見 2) 呼吸を整える援助 (呼吸状態の観察、深呼吸、ネブライザー、喀痰喀出、吸引、酸素吸入等) 3) 循環を整える援助 (循環動態の観察、保温等) 4) 体温を整える援助 (体温の観察、保温、クーリング等) 5) 麻酔覚醒時の危険防止の援助 (意識レベル・麻酔覚醒状況の観察、せん妄・興奮の観察、転落防止、自己抜去) 2. 創痛緩和への援助 1) 疼痛のアセスメント 2) 鎮痛薬の効果と評価 3) 疼痛緩和のための援助 (呼吸法・咳嗽法の工夫) | | 1週目: ・オリエンテーション(病棟、手術室) ・患者、家族、カルテから情報収集し、対象理解につなげる ・コミュニケーションをはかり、患者・家族の受け止めや対処方法を理解する ・患者の状態に応じた援助を実践する |
| 2 週 目 | 3. 術後合併症の予防の看護 1) 予測される合併症とそのメカニズム (肺合併症、循環器合併症、イレウス、縫合不全、深部静脈血栓等) 2) 術後合併症の徴候の観察 (呼吸、循環動態、腹部状態、創傷治癒状況等) 3) 術後合併症予防の援助 (創傷処置、ドレーン管理、肢位の保持、呼吸訓練、咳嗽法、清潔ケア、床上運動等) 4. 早期離床への援助 1) 早期離床の効果 2) 早期離床の介助 | | 2週目: ・患者のケースカンファレンスを行い、看護問題を明確にする ・患者の状態に応じた援助、生活指導を実践する |
| 3 週 目 | (体位変換、床上運動、排泄介助、清潔ケア、歩行指導等) 5. ボディイメージの変化の受容と新しい生活様式獲得のための援助 1) 機能・形態、能力障害の部位、原因 2) 患者の日常生活行動の障害程度 3) 機能の変化やボディイメージの変化に対する受容過程 (フィンクスの危機モデル、コーンの喪失モデル) 4) 障害された機能の改善、残存機能の強化をはかるための援助 (実施されている機能訓練の目的と方法、補装具、自助具などの必要性と使用方法) 5) 社会復帰に対する患者・家族の受け止めと対処方法 6) 社会資源の活用方法 7) 退院指導・継続看護 | | 3週目: ・患者の状態に応じた援助、生活指導を実践する ・立案した看護計画に基づき実践し、評価・フィードバックする |
| 実習方法 病棟実習(3週間):手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を展開する。原則として術前・術後の看護を学習する 手術室見学実習(1日):手術中の看護を見学する。可能であれば、受け持ち患者の手術が望ましい | | | |
| 評価方法・評価基準 事前学習、実習内容、記録物、カンファレンスへの参加度等、評価基準(実習要項参照)によって評価する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「成人看護目的・対象論」、「成人の健康と生活を支える看護」、「周手術期の看護」、「健康障害との共存を支える看護」、「セルフケアを支える看護」、「終末期にある対象の看護」、「成人看護学演習」の履修が必要である。 | | | |

| | | | |
|---|--|----------|---|
| 授業科目(必須) | 終末期にある患者の看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| 実習目的 1. 近い将来死を免れない対象に対し、その人らしい人生の終焉が迎えられよう援助の方法を学ぶ。 | | | |
| 実習目標 1. 患者の全人的痛みが把握できる。 2. 家族の苦痛が理解できる。 3. 苦痛緩和への援助方法を理解する。 4. 家族への援助がわかる。 5. 緩和治療への援助がわかる。 6. 実習を通して自己の死生観が深められる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| | 実習内容 | | 備考 |
| 1 週目 | 1. 患者の心理過程を理解するためのコミュニケーション 1) 病名・病状の説明とその理解 2) 対象に生じている苦痛・不安・恐怖・社会的問題 3) 受容の段階(キューブラ・ロスのモデル) 4) 対象の状態に合わせたコミュニケーション技法 (傾聴的態度・共感的態度・受容的態度・支持的態度・対象の意向や要望の代弁・時間の共有・タッチング等) 2. ペインコントロールの援助 1) 疼痛のアセスメント 2) 鎮痛薬の効果と評価 3) 安楽な体位の工夫 4) 代替療法 3. 希望を支えるための援助(QOLの維持・向上のための援助) | | 1週目: ・オリエンテーション ・患者、家族、カルテから情報収集し、対象理解につなげる ・コミュニケーションをはかり、患者・家族の受け止めや対処方法を理解する ・患者の状態に応じた援助を実践する |
| 2 週目 | 1) 基本的欲求充足のための日常生活の援助(食事・排泄・移動・清潔・休息など) 2) 対象の価値・信条・宗教を尊重した援助 3) 対象と家族が望む個別的な援助 4) チームアプローチ(医師・看護師・宗教家・PT・OT・栄養士・ボランティアなど) 4. 治療に伴う苦痛の緩和(放射線治療・化学療法の副作用緩和等) 1) 身体症状とその原因 2) 全身倦怠感に対するケア 3) 食欲不振・悪心・嘔吐に対するケア 4) 皮膚症状へのケア 5) 骨髄抑制へのケア 6) その他の身体症状へのケア(脱毛・発熱・便秘・咳嗽・呼吸困難感・浮腫・腹水など) 5. 患者を支える家族の援助 | | 2週目: ・患者のケースカンファレンスを行い、看護問題を明確にする ・患者の状態に応じた援助、家族への援助を実践する |
| 3 週目 | 1) 家族の価値観、患者の予後・病状・死別への不安 2) デス・エデュケーション 3) 選択を支える援助 4) 予期悲嘆への援助 5) 危篤時・死後の処置時の援助 6) グリーフケア | | 3週目: ・患者の状態に応じた援助、家族への援助を実践する ・立案した看護計画に基づき実践し、評価・フィードバックする |
| 実習方法 病棟実習(3週間):終末期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 | | | |
| 評価方法・評価基準 事前学習、実習内容、記録物、カンファレンスへの参加度等、評価基準(実習要項参照)によって評価する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「成人看護目的・対象論」、「成人の健康と生活を支える看護」、「周手術期の看護」、「健康障害との共存を支える看護」、「セルフケアを支える看護」、「終末期にある対象の看護」、「成人看護学演習」の履修が必要である。 | | | |

| | | | |
|--|---|----------|--|
| 授業科目(必須) | 様々な場で生活する高齢者の看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 9月 | | |
| 実習場所 | 地域、高齢者支援対策関連施設、東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| 実習目的 | | | |
| c | | | |
| 到達目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の機能低下に応じたコミュニケーションができる。 2. 加齢に伴う変化や、疾病・障害を持ちながら生活している高齢者を理解する。 3. 高齢者の状態に合わせて看護上の問題の優先度を考え、具体的に看護計画を立案できる。 4. 立案した看護計画に沿って実施・評価できる。 5. 地域における様々な高齢者サービスの役割や機能を理解する。 | | | |
| 実習計画・実習内容 | | | |
| 週 | 実習内容 | | 備考 |
| 東京山手メディカルセンター実習 | | | |
| 1週目 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者と関係性の構築 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の関わり方 2) 機能低下に応じたコミュニケーションの方法 2. 高齢者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢による生理的変化の特徴 2) 加齢に伴う生理機能の低下による各種検査・治療への影響 3) 対象の生活史と価値観 4) 加齢・疾病治療に対する受け止め 5) 治療や環境の変化に対する適応状態の観察 6) 対象の生活機能のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) フィジカルアセスメント (2) 日常生活動作のアセスメント(ADL・IADL) (3) メンタルアセスメント 3. 高齢者の看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報収集 2) 情報の解釈・分析 | | <p>事前学習を活用し、病態と収集した情報の関連性が理解できるように、関連図に記述する</p> <p>患者とのコミュニケーションや記録、医療スタッフから情報を収集し、情報を分析・解釈を行う</p> |
| 2週目 | <ol style="list-style-type: none"> 3) 問題の統合、問題の明確化 4) 患者の全体像の把握 5) 看護問題の優先順位 6) 期待される結果 7) 計画の立案 | | <p>問題の統合・看護問題を明確化していく。看護計画との関連で日々の行動計画を立案し、適切な看護実践を行う</p> |
| 3週目 | <ol style="list-style-type: none"> 8) 看護計画に基づいた日々の行動計画の立案 9) 立案した看護計画に沿って実施・評価 | | <p>看護計画で立案した期待される結果に、到達したか否かとその原因の追及、又、計画の修正が必要か否かを記述していく</p> |
| 高齢者支援対策関連の施設見学実習 | | | |
| 2日 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 地域における高齢者サービス <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者支援対策関連の施設の事業内容や役割、具体的なサービス内容 | | <p>高齢者支援対策関連の施設の事業内容や役割、具体的なサービス内容を見学実習する</p> |
| <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院実習では、老年期にある患者を受け持ち、看護過程に沿って看護実践する。 2) 実習を通して、高齢者への看護の役割と多職種との連携のあり方を考える。 3) カンファレンスにおいて、高齢者の特性、受け持ち患者の疾患・症状・援助など理解を深める。 4) 高齢者の住む地域の環境を調べ、高齢者のケアニーズや各サービスの必要性や役割を学ぶ。 5) 高齢者福祉施設を見学し、施設の目的や活動状況について知る。 <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価方法： 実践内容、記録物、カンファレンス状況などを総合評価する</p> <p>評価基準： ①事前学習、実習内容、実習記録物、カンファレンスへの参加度などに評価基準(実習要項参照)によって評価する</p> <p>②100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | | |
| <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」の履修が必要である。</p> | | | |

| | | | |
|---|--|----------|--|
| 授業科目(必須) | 健康障害のある高齢者の看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 2月 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| 実習目的 老年看護分野の講義・演習で学んだ理論、知識、技術を統合させ実践に応用し、老年看護の基礎的実践能力を養う。高齢者の心身の特性および健康レベルの多様性について理解し、高齢者の健康・生活状態と家族を包括的にアセスメントする。さらに、高齢者と取りまく環境との関係について理解し、高齢者がその人らしく心豊かに日々を送るために必要な看護について考える。 | | | |
| 到達目標 1. 疾病や障害をもちながら生活している高齢者が理解できる。 2. 高齢者の生活機能のアセスメントが理解できる。 3. 障害のある高齢者の主な症状、検査、治療に対する援助を理解し、看護計画が立案できる。 4. 高齢者の機能低下に応じたコミュニケーションができる。 5. 高齢者のもてる力を活用した日常生活の援助ができる。 6. 高齢者が退院後も安全で心豊かに生活するための継続ケアの必要性がわかる。 | | | |
| 実習計画・実習内容 | | | |
| 週 | 実習内容 | | 備考 |
| 1 週 目 | 1. 障害のある高齢者の特性理解 1) 疾病、治療、検査 2) 受け持ち患者の生活史と価値観 3) 加齢による生理的変化の特徴 4) 加齢に伴う生理機能の低下による各種検査・治療への影響 5) 加齢、疾病治療に対する受け止め方 2. 高齢者と関係性の構築 1) 高齢者の関わり方 2) 機能低下に応じたコミュニケーションの方法 | | 高齢者の加齢現象・疾患の病態生理・生活への影響・看護問題などの関連図を記述する 障害のある高齢者の主な症状、検査、治療を理解し、看護計画を立案する |
| 2 ・ 3 週 目 | 3. 治療や環境の変化による合併症や二次的障害を最小限にするための援助 1) 高齢者が混乱や不適応状態に陥ることなく、回復に向かえるような援助 2) 合併症や二次的障害を予防するための援助 3) 高齢者の持てる力を活かした生活行動への援助 4) 終末期にある高齢者および家族への援助 | | 高齢者のもてる力を活用した日常生活の援助を実施していく |
| | 4. 退院後、必要となるケアの継続と連携のための援助 | | 退院後、必要となるケアの継続と連携のための援助を学習する |
| 実習方法 1) 老年期にある患者を受け持ち、看護過程に沿って看護実践をする。 2) 検査、処置など見学し、ナースと共に援助を行う。 | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法: 実践内容、記録物、カンファレンス状況などを総合評価する 評価基準: ①事前学習、実習内容、実習記録物、カンファレンスへの参加度などに評価基準(実習要項参照)によって評価する ②100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 原則として、「看護過程展開の基礎実習」「老年看護目的・対象論」、「高齢者の健康と生活を支える看護」、「健康障害のある高齢者の看護」、「老年看護学演習」の履修が必要である。 | | | |

| | | | |
|-------------|--|-----------------------------|-----|
| 授業科目 | 健康な成長発達を促す援助実習 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | |
| 単位数(時間) | 1単位(45時間) | 実習期間 | 6日間 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月～7月 | | |
| 実習場所 | 新宿区立保育園、新宿区立学童保育クラブ | | |
| 授業概要 | 健康な子どもの成長発達を理解し、成長発達を促す援助の基本を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 健康な乳幼児・学童期の成長発達の特徴を理解する。 各成長発達段階に応じた保育の特徴と援助方法がわかる。 子どもの心身の成長発達には個人差があることがわかる。 子どもの安全がどのように守られているか理解する。 保育の実際の中で、健康な子どもと積極的に触れ合い、子どもとコミュニケーション・遊びなどの関わりが実践できる。 保育園・学童クラブと家庭との連携について理解できる。 | | |
| 実習計画・実習内容 | | | |
| 回 | 実習内容 | 備考 | |
| 1 週 間 | 1)形態的発育、機能的な発達 | 実施方法、実習上の留意点などは実習要項で確認すること。 | 80点 |
| | 2)乳幼児の精神・運動機能、言語、社会性、知的能力の発達 | | |
| | 3)乳幼児のコミュニケーションの特徴 | | |
| | 4)年齢に応じた遊び | | |
| | 5)基本的な生活習慣の援助 | | |
| | 6)子どもを尊重した働きかけ | | |
| | 7)環境整備、危険防止対策及び子どもに対する安全への配慮 | | |
| | 8)保育施設と家庭との連携 | | |
| 2 日 間 | 1)学童とのかかわりを通して上記1)から8)の内容を学ぶ | | 20点 |
| | 1)実習後まとめの会 | 学びの確認と共有をする。 | |
| 実習方法 | <ol style="list-style-type: none"> 保育園で1週間の実習をおこなう。 0～5歳時の各発達段階のクラスで健康乳幼児の保育に参加し、年齢による違いや個人差をしり、学習した内容をレポートする。 新宿区内の学童保育クラブ等を見学し、レポートする。 | | |
| 評価方法・評価基準 | <p>事前学習、実習内容、記録物、カンファレンスへの参加度等を評価基準(実習要項参照)にそって評価する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | |
| その他 | | | |

| 授業科目(必須) | 健康障害のある小児の看護 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---------------------------------|-----|---|------|----|--------|--|--|-------------|--------------------------------------|---------------------------------|------------------------|-----------------|---------------------|-------------------------|-----------|----------------------------|--------|--|--|-------------|--------------------------|--|--------------|--|--|-------------|------------------|----------------------------|--|----------|--------------|
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(45時間) | 実習期間 | 2週間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 4月～ 後期 12月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実習場所 | 小児科病棟、小児外来、重症心身障がい児施設 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実習概要 | <p>健康障害のある小児の看護が行われる場の環境や、病児の日常生活援助について学ぶ。また、健康障害の段階それぞれの時期に起こる様々な問題や課題に対応できる看護に必要な知識、技術、態度について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康を障害された小児の特徴と看護を理解する。 2. 様々な状況にある小児の特徴と看護の方法を理解する。 <p>実習計画・実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>実習内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">小児病棟実習</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">1 週 間</td> <td>1) 健康障害のある小児の特徴と小児の身体的、精神的、社会的な発達と援助</td> <td rowspan="7">小児看護に必要な事前学習と技術練習を十分にして実習に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>2) 健康障害の種類 健康の段階の理解と援助</td> </tr> <tr> <td>3) 健康障害と日常生活の援助</td> </tr> <tr> <td>4) 障害された機能を整えるための援助</td> </tr> <tr> <td>5) 治療(安静、薬物、食事、手術)処置、検査</td> </tr> <tr> <td>6) 診察時の援助</td> </tr> <tr> <td>7) 健康障害、入院が小児及び家族に及ぼしている影響</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">小児外来実習</td> </tr> <tr> <td>2 日 間</td> <td>上記1)から7)の内容について外来診療の場で学ぶ</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">重症心身障がい児施設実習</td> </tr> <tr> <td>1 日 間</td> <td>障害を持つ人の療育の実際を学ぶ。</td> <td>見学を通して、障害のある人への看護の実際を理解する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実習後まとめの会</td> <td>学びの確認と共有をする。</td> </tr> </tbody> </table> <p>実習方法</p> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児病棟において、一人の患児を受け持ち、看護過程を展開し小児看護の実際を学ぶ。 <p>【外来実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外来において、診察の援助、検査・処置の援助、乳幼児健診、予防接種時の援助を体験し、学習した内容をレポートする。 <p>【重症心身障がい児施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設において、障害を持つ小児の療育の実際を体験し、学習した内容をレポートする。 <p>評価方法・評価基準</p> <p>評価基準: □</p> <p>事前学習、実習内容、記録物、カンファレンスへの参加度等を評価基準(実習要項参照)にそって評価する。</p> <p>100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「小児看護目的・対象論」、「小児の健康と成長発達を促す看護」、「健康障害のある小児の看護」、「小児看護学演習」、「健康な成長発達を促す援助実習」の履修が必要である。</p> | | | 回 | 実習内容 | 備考 | 小児病棟実習 | | | 1 週 間 | 1) 健康障害のある小児の特徴と小児の身体的、精神的、社会的な発達と援助 | 小児看護に必要な事前学習と技術練習を十分にして実習に臨むこと。 | 2) 健康障害の種類 健康の段階の理解と援助 | 3) 健康障害と日常生活の援助 | 4) 障害された機能を整えるための援助 | 5) 治療(安静、薬物、食事、手術)処置、検査 | 6) 診察時の援助 | 7) 健康障害、入院が小児及び家族に及ぼしている影響 | 小児外来実習 | | | 2 日 間 | 上記1)から7)の内容について外来診療の場で学ぶ | | 重症心身障がい児施設実習 | | | 1 日 間 | 障害を持つ人の療育の実際を学ぶ。 | 見学を通して、障害のある人への看護の実際を理解する。 | | 実習後まとめの会 | 学びの確認と共有をする。 |
| 回 | 実習内容 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小児病棟実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 週 間 | 1) 健康障害のある小児の特徴と小児の身体的、精神的、社会的な発達と援助 | 小児看護に必要な事前学習と技術練習を十分にして実習に臨むこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2) 健康障害の種類 健康の段階の理解と援助 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 3) 健康障害と日常生活の援助 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 4) 障害された機能を整えるための援助 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 5) 治療(安静、薬物、食事、手術)処置、検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 6) 診察時の援助 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 7) 健康障害、入院が小児及び家族に及ぼしている影響 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小児外来実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 日 間 | 上記1)から7)の内容について外来診療の場で学ぶ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 重症心身障がい児施設実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 日 間 | 障害を持つ人の療育の実際を学ぶ。 | 見学を通して、障害のある人への看護の実際を理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実習後まとめの会 | 学びの確認と共有をする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 授業科目(必須) | 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護実習 | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|-----|--|------|----|-----------------|---|---|---|--|--|---|
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 助産師 | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 5月 ～ 後期 11月 | | | | | | | | | | | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 産婦人科病棟 ・ 産婦人科外来 | | | | | | | | | | | | |
| 実習概要 <p>講義や学内演習で学んだ知識・技術を統合し、妊産褥婦と新生児およびその家族の理解を深める。また、対象者の健康の保持増進を目指し、新しい環境に適応するための看護実践の基礎能力を習得する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦・早期新生児の正常な経過を理解する 2. 妊産褥婦・早期新生児に対する看護の必要性を理解する 3. 早期新生児の基本的ケアの実践能力を習得する 4. 褥婦のセルフケア能力の向上を目指した看護実践の基礎的能力を養う 5. 母子関係確立への援助を通し自己の母性観・父性観を養う <p>実習計画・実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護</td> <td> 妊婦の看護 1. 妊娠経過を理解する 2. 健康診査の重要性を理解する 3. 妊婦が適切なセルフケアを行うための保健指導を理解する </td> <td>医師・助産師による問診や診察の内容と、保健指導の内容を関連させて見学する。(外来の見学実習16h)</td> </tr> <tr> <td> 産婦の看護 1. 分娩各期の特徴を理解する 2. 分娩が順調に進行するための援助を理解する 3. 産婦及び家族の不安を緩和する援助について理解する </td> <td>分娩進行に合わせた呼吸法、補助動作を助産師とともに実施する。産婦・家族の不安や苦痛を配慮し共感的に関わる。分娩の見学実習(8h)</td> </tr> <tr> <td> 褥婦・新生児の看護 褥婦の看護 1. 産褥経過が順調か判断する 2. 褥婦の日常生活行動が適切か判断する 3. 褥婦の精神・心理状態が良好か判断する 4. 復古を促進するための援助を実践する 5. 母乳育児を促すための援助を理解する 6. 受け持ち褥婦に必要な保健指導、育児指導について理解する 7. 退院後受けられる社会的サポート、社会資源について理解する 8. 母子相互作用を促進させる働きかけを理解する 新生児の看護 1. 新生児の健康状態を判断する 2. 新生児の基本的ニーズに応じた援助を実施する 1) 体温保持のための援助 2) 栄養状態管理のための援助 3) 排泄物の観察と安全なおむつ交換 4) 安全安楽な沐浴 5) 新生児の感染予防力の理解と援助 6) 新生児の安全を守るための援助 </td> <td> 1週目: 褥婦・新生児を受け持ち、対象理解が得られるよう学習する。 2～3週目: 外来実習2日間含む。 妊婦、産婦の看護の見学を通して、新生児の誕生を迎える妊産褥婦とその家族への看護とは何か学びがまとめられるように学習する。 受け持ち褥婦を日々観察、アセスメントし、復古促進の援助の実施、授乳場面では同席し必要時助言する。褥婦に行われる指導を見学し目的方法について理解する。 新生児の看護は、受け持ち時を中心に観察、アセスメント、援助の実施をする。褥婦の経過が判断できるために、また新生児の看護ができるためには、看護技術の練習を積むことが必要である。 </td> </tr> </tbody> </table> | | | | | 授業内容 | 備考 | 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護 | 妊婦の看護 1. 妊娠経過を理解する 2. 健康診査の重要性を理解する 3. 妊婦が適切なセルフケアを行うための保健指導を理解する | 医師・助産師による問診や診察の内容と、保健指導の内容を関連させて見学する。(外来の見学実習16h) | 産婦の看護 1. 分娩各期の特徴を理解する 2. 分娩が順調に進行するための援助を理解する 3. 産婦及び家族の不安を緩和する援助について理解する | 分娩進行に合わせた呼吸法、補助動作を助産師とともに実施する。産婦・家族の不安や苦痛を配慮し共感的に関わる。分娩の見学実習(8h) | 褥婦・新生児の看護 褥婦の看護 1. 産褥経過が順調か判断する 2. 褥婦の日常生活行動が適切か判断する 3. 褥婦の精神・心理状態が良好か判断する 4. 復古を促進するための援助を実践する 5. 母乳育児を促すための援助を理解する 6. 受け持ち褥婦に必要な保健指導、育児指導について理解する 7. 退院後受けられる社会的サポート、社会資源について理解する 8. 母子相互作用を促進させる働きかけを理解する 新生児の看護 1. 新生児の健康状態を判断する 2. 新生児の基本的ニーズに応じた援助を実施する 1) 体温保持のための援助 2) 栄養状態管理のための援助 3) 排泄物の観察と安全なおむつ交換 4) 安全安楽な沐浴 5) 新生児の感染予防力の理解と援助 6) 新生児の安全を守るための援助 | 1週目: 褥婦・新生児を受け持ち、対象理解が得られるよう学習する。 2～3週目: 外来実習2日間含む。 妊婦、産婦の看護の見学を通して、新生児の誕生を迎える妊産褥婦とその家族への看護とは何か学びがまとめられるように学習する。 受け持ち褥婦を日々観察、アセスメントし、復古促進の援助の実施、授乳場面では同席し必要時助言する。褥婦に行われる指導を見学し目的方法について理解する。 新生児の看護は、受け持ち時を中心に観察、アセスメント、援助の実施をする。褥婦の経過が判断できるために、また新生児の看護ができるためには、看護技術の練習を積むことが必要である。 |
| | 授業内容 | 備考 | | | | | | | | | | | |
| 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護 | 妊婦の看護 1. 妊娠経過を理解する 2. 健康診査の重要性を理解する 3. 妊婦が適切なセルフケアを行うための保健指導を理解する | 医師・助産師による問診や診察の内容と、保健指導の内容を関連させて見学する。(外来の見学実習16h) | | | | | | | | | | | |
| | 産婦の看護 1. 分娩各期の特徴を理解する 2. 分娩が順調に進行するための援助を理解する 3. 産婦及び家族の不安を緩和する援助について理解する | 分娩進行に合わせた呼吸法、補助動作を助産師とともに実施する。産婦・家族の不安や苦痛を配慮し共感的に関わる。分娩の見学実習(8h) | | | | | | | | | | | |
| | 褥婦・新生児の看護 褥婦の看護 1. 産褥経過が順調か判断する 2. 褥婦の日常生活行動が適切か判断する 3. 褥婦の精神・心理状態が良好か判断する 4. 復古を促進するための援助を実践する 5. 母乳育児を促すための援助を理解する 6. 受け持ち褥婦に必要な保健指導、育児指導について理解する 7. 退院後受けられる社会的サポート、社会資源について理解する 8. 母子相互作用を促進させる働きかけを理解する 新生児の看護 1. 新生児の健康状態を判断する 2. 新生児の基本的ニーズに応じた援助を実施する 1) 体温保持のための援助 2) 栄養状態管理のための援助 3) 排泄物の観察と安全なおむつ交換 4) 安全安楽な沐浴 5) 新生児の感染予防力の理解と援助 6) 新生児の安全を守るための援助 | 1週目: 褥婦・新生児を受け持ち、対象理解が得られるよう学習する。 2～3週目: 外来実習2日間含む。 妊婦、産婦の看護の見学を通して、新生児の誕生を迎える妊産褥婦とその家族への看護とは何か学びがまとめられるように学習する。 受け持ち褥婦を日々観察、アセスメントし、復古促進の援助の実施、授乳場面では同席し必要時助言する。褥婦に行われる指導を見学し目的方法について理解する。 新生児の看護は、受け持ち時を中心に観察、アセスメント、援助の実施をする。褥婦の経過が判断できるために、また新生児の看護ができるためには、看護技術の練習を積むことが必要である。 | | | | | | | | | | | |
| <p>実習方法 病棟実習3週間のうち、外来実習2日、分娩実習1日が含まれる</p> <p>病棟実習: 褥婦・新生児を受け持ち、「母子の看護」という視点でマタニティ診断に基づき必要な看護を実践する。</p> <p>産婦の了解が得られれば、1例以上の分娩に立ち合い分娩第Ⅰ～Ⅳ期の助産師の助産活動に参加する。</p> <p>外来実習: 1グループが1～2名ずつに分かれて産科外来で妊婦健康診査と保健指導の見学実習をする。</p> <p>評価方法・評価基準 事前学習、実習内容、記録物、カンファレンスへの参加度等に評価基準(実習要項参照)によって評価する。 100点をもって満点とし、60点に常を合格とする。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| <p>その他</p> <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「母性看護目的・対象論」、「女性の健康と看護」、「妊娠・分娩・産褥・新生児の看護」、「母性看護学実習」の履修が必要である。</p> | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|---|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 精神障害のある人の看護実習 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 ~ 後期 | | |
| 実習場所 | 病院実習: 大石記念病院もしくは陽和病院、 社会復帰施設: NPOあおぞら、かがやき会、東京ムツミ会ファロ、新宿西共同作業所ラバンス | | |
| 実習目的 1. 地域で生活する精神障害者の社会参加の実態にふれることを通じて、地域生活支援についての理解を深め、支援の方法を学ぶ。 2. 精神を病む人との対人関係を発展させるための方法を活用し、看護をおこなうために必要な基礎知識、技術、態度を習得する。 | | | |
| 到達目標 1. 対象との対人関係において、自己理解を深めるとともに関わりの振り返りを通して、対象理解、状況理解ができる。 2. 地域で生活する障害者を支える施設の役割、機能を理解する。 3. 精神の健康問題をもつ患者の疾病、精神症状、検査、治療について理解する。 4. 対象のセルフケア能力をアセスメントし、その能力の維持と向上に向けて必要な援助方法を理解する。 5. 人権を擁護し、対象の安全を守るための援助を理解する。 6. 地域精神保健における生活自立や社会参加に向けての支援の方法を理解する。 | | | |
| 実習計画・実習内容 | | | |
| 週 | 実習内容 | 備考 | 配点 |
| 病院実習(10日×6時間) | | | |
| 1週 | 1. 全体(もしくは病棟)オリエンテーションを受ける 2. 病棟の看護活動に参加し観察、コミュニケーションの方法(接近の方法)を学ぶ。 3. 指導者の助言を受け受持ち患者を決め、承諾を得て、挨拶をする。 | 各実習病棟において、病棟の構造、患者の特徴、看護の特徴、日課、週間予定等について把握する。 | 70点 |
| | 1. 病棟の日課に沿って患者とともに行動し、一日の流れと看護師の関わり方の実際を学ぶ。 2. 受持ち患者の情報を収集し、日常生活行動を整えるために必要な援助を考える。 3. 受け持ち患者への援助 | 患者との関わりを振り返り、再構成の場面について記録する。また受持ち患者の関連図を作成する。レクリエーションの日程(2週目)についても、指導者と相談し、決定する。 | |
| | 1. 受持ち患者への援助 2. 受持ち患者の看護計画を立案する。 3. レクリエーションの計画書を提出し、指導を受ける。 | | |
| | 1. 受持ち患者への援助 2. 再構成、関連図を提出し、指導を受ける。 | | |
| | 学内日 | レクリエーションの準備をする。 | |
| 2週 | 1. 受け持ち患者への援助 2. 学生レクリエーションの実施・評価 3. 看護過程を提出し、指導を受ける。 | レクリエーションの実施状況を指導者に報告する。実施日はカンファレンスでレクリエーションの振り返りを行う。 | |
| | 1. 受け持ち患者への援助 2. 学生レクリエーションの実施・評価 3. 病棟での最終カンファレンス、自己評価 | 最終カンファレンスでは、実習全般を通しての自己の学びや疑問等について、話し合うため、振り返りを十分に臨むこと。 | |
| | 1. 受け持ち患者への援助 2. 病棟での最終カンファレンス、自己評価 | | |
| 学内日 | まとめの会の中で、精神看護学実習を通して得られた知識について確認をする。 | | |
| 社会復帰施設(5日×6時間) | | | |
| 1週 | 1. 施設概要のオリエンテーション 2. 事業・プログラムへの参加 1) 地域活動支援センター事業 2) 就労継続支援B型事業 等 | 各施設の事業内容について、実際に参加しながら学んでいく。 | 30点 |
| | 1. 事業・プログラムへの参加 1) 地域活動支援センター事業 2) 就労継続支援B型事業 等 | 利用者との関わりを振り返り、再構成の場面について記録する。 | |
| | 1. 事業・プログラムへの参加 1) 地域活動支援センター事業 2) 就労継続支援B型事業 等 2. カンファレンス | 最終カンファレンスでは、実習全般を通しての自己の学びや疑問等について、話し合うため、振り返りを十分に臨むこと。 | |
| | 学内日 | 実習記録の追記・修正をしてまとめる。 | |
| 授業方法 実習 評価方法・評価基準 評価方法: ①病院実習(70%)、②社会復帰施設実習(30%) 評価基準: ①②ともに事前学習・実習内容・記録物・カンファレンスの参加度等について評価基準(実習要項参照)を用いて評価する。 ①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 特に精神看護では相手との関わりを通して看護者や対象者の感情が揺さぶられることがある。自分や相手の感情や考えに目を向け、関わりを客観的に振り返ること(再構成)を通して、看護について学びを深めていく。 | | | |

統合分野

| | | | |
|---|---|--|-----------|
| 授業科目(必須) | 在宅看護目的論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 訪問看護認定看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 5月～9月 | | |
| 教科書等 | 在宅看護論(医学書院) | | |
| <p>授業概要 健康に問題のある高齢者の増加や、生活の場である在宅で過ごしたいという療養者の希望により、在宅看護が重要視されている。在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、地域や対象の生活を視野に入れた真の継続看護の実践について学ぶ必要がある。在宅看護が制度として成り立った過程を振り返り、人々のニーズと社会情勢から現在の在宅看護について学ぶ。また、在宅看護は訪問看護師の判断・責任を問われる援助も多い。在宅看護をめぐる保健医療制度も関連づけて学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴を理解する。 2. 在宅看護の変遷と現状を理解できる。 3. 在宅システムにおける看護の役割が理解できる。 4. 在宅看護をめぐる保健医療制度について理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 在宅看護の変遷と現状 1)医療保健福祉の変化 2)在宅看護が必要とされる背景 | 在宅看護を取り巻く状況の変化を踏まえ、在宅看護の目的と特徴について理解する内容である。 | |
| 2 | 2. 在宅看護の目的と特徴 1)在宅看護の目的 2)施設内看護と在宅看護の機能の相違と特徴 | | |
| 3 | 3. 在宅ケアシステムにおける看護の役割 1)ケアマネジメントと看護の役割 | 療養者の生活を支えるシステムケアマネジメントについて理解する内容である。個の状態に合わせて、どんなサービスをどこまで行うか、経済的な負担も含めて、ケアマネジャーや医師を含め実際にどのようにマネジメントするのか、また看護師はどのような役割を担っているのかを学ぶ。 | |
| 4 | (1)ケアマネジメントとは (2)社会資源の理解と活用 (3)介護保健とケアマネージャー | | |
| 5 | 2)チームケアの重要性、他職種との連携 (1)専門職メンバーとその役割 (2)専門職メンバーとの連携のポイント | | |
| 6 | 4. 在宅看護をめぐる保健医療制度 1)訪問看護と法律 (1)健康保険法 (2)介護保険法 (3)総合自立支援法 (4)診療報酬 (5)保健師助産師看護師法および医師法 | 療養者及びその家族の不安や負担を軽減して、在宅での療養生活が継続できるための医療制度を理解する内容である。 | |
| 7 | 5. 在宅看護における倫理的課題 6. 在宅看護の課題および展望 | 地域の医療や介護の担い手がきちんと整備されていないことや、年々増える医療費をいかに減らすかという在宅における課題を考え今後の展望を学習する内容である。 | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| <p>授業方法 講義</p> <p>評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | | |
| <p>その他 2025年を目途に、「地域包括ケアシステム」の取り組みが推進されている。「時々入院ほぼ在宅」というスローガンで、在宅看護を取り巻く状況が変化してきている。日常生活の中に看護がある“在宅看護”に関心を持ち、看護師の役割について理解し看護の視野を広げるきっかけになる授業である。</p> | | | |

| | | | |
|---|--|---|----------|
| 授業科目(必須) | 在宅看護対象論 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期 4月～9月 | | |
| 教科書等 | 在宅看護論(医学書院) | | |
| 授業概要 在宅看護の対象はあらゆる発達段階にあり、その対象をとりまく条件や環境は多様である。在宅看護においては、対象をとりまく家族・社会から、対象を理解することが重要となる。 様々な在宅療養者の特徴と家族への在宅看護の実際を学び、興味関心を高める。さらに、対象のQOLを維持し高めるために、多職種と連携・協働しながら、看護の役割を果たすことができるような基礎的知識を学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 生活の場である地域環境の中で療養する対象を理解する。 2. 家族看護アセスメント視点をふまえ、家族看護の看護者の役割を理解する。 3. 在宅療養者の生活を支える社会資源を理解する。 4. 継続看護のための看護者の役割を理解する。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 在宅看護の対象とその生活 1) 在宅看護の対象者 (1) 疾病を持つ人と家族 (2) 障害を持つ人と家族 (3) 生活自立が困難な人と家族 | 在宅看護を必要としている対象者は生活機能の水準やライフサイクル、健康障害の程度も多様である。様々な角度から対象を理解する内容である。 | |
| 2 | 2) 対象者の特徴 (1) 年齢からみた対象者の特徴 (2) 疾患からみた対象者の特徴 (3) 障害からみた対象者の特徴 | | |
| 3 | 2. 家族と家族介護者の理解及び健康支援 1) 家族のとらえ方 2) 家族介護者のアセスメント 3) 家族関係の調整 | 家族は、療養者と1つの単位としてとらえる。家族に対して必要な看護を考えるための家族アセスメントの方法を理解する内容である。 | |
| 4 | 4) 介護方法の指導 5) 家族介護者の健康 6) レスパイトケア | | |
| 5 | 3. 在宅療養者の住環境 1) 住環境の意義と特長 2) 住環境調整の基本 3) 住環境調整の看護師の役割 | 療養者やその家族が安全・安心して生活するために、住環境の調整について理解する内容である。 | |
| 6 | 4. 継続看護 1) 退院支援・退院調整 | 在宅での生活を送るためには、病院など施設から在宅療養への移行がスムーズに進むことが重要である。そのために必要な看護について理解する内容である。 | |
| 7 | 2) 施設と在宅療養をつなぐ継続看護 | | |
| | 修了試験 | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 家族とその暮らしぶりを理解するうえで、家族社会学・生活科学の住環境などの知識を基にして学習が進む。 | | | |

| | | | |
|--|--|--|-----|
| 授業科目(必須) | 在宅療養者と家族の健康と生活を支える看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 10月 ~ 12月 | | |
| 教科書等 | 在宅看護論(医学書院) 山田雅子編集 パーフェクト臨床実習ガイド 在宅看護実習ガイド 照林社 | | |
| 授業概要 在宅看護の対象はあらゆる発達段階にあり、その対象をとりまく条件や環境は多様である。在宅看護においては、対象をとりまく家族・社会から、対象を理解することが重要となる。 様々な在宅療養者の特徴と家族への在宅看護の実際を学び、対象のQOLを維持し高めるために、多職種と連携・協働しながら、看護の役割を果たすことができるような基礎的知識を学ぶ。 | | | |
| 到達目標 1. 在宅看護の基本となる援助方法が理解できる。 2. 地域で療養する主な疾患・症状の特徴とそれに伴う在宅ケアを理解できる。 3. 在宅看護における看護過程の特徴を理解できる。 4. 在宅療養におけるリスクマネジメントの必要性を理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 在宅看護技術の特徴と方法(6H) | 療養者とその家族の生活を支えるためには、良好な信頼関係を築くことが重要である。また、安心・安全に療養生活を続けられることを保証することは何よりも重要なことである。そのために必要な看護を理解する内容である。 | |
| 2 | 1)在宅看護技術の原則 | | |
| 3 | 2)在宅看護面接・相談技術 3)家族への援助方法 | | |
| 4 | 4)生活の中で必要となる安全管理 | 実際に介護用品を工夫し発表する。 | |
| 5 | 2. 在宅における日常生活支援の方法および介護用品の工夫 (4H) | | |
| 6 | 1)食事 2)排泄 | | |
| 8 | 3)清潔 4)移動 | 医療管理を必要とする療養者及び家族に対して必要な看護を学ぶ内容である。 | |
| 9 | 3. 在宅における医療管理を必要とする人への看護 (日常生活上の注意・社会資源の活用等)(10H) | | |
| 10 | 1)在宅酸素療法 | | |
| 11 | 2)在宅人工呼吸療法 | | |
| 12 | 3)膀胱留置カテーテル法 | | |
| 13 | 4)在宅経管栄養・経腸栄養法 | | |
| 14 | 5)在宅中心静脈法 | | |
| 15 | 6)在宅褥瘡管理 | 多様な状況にある療養者及び家族に対して必要な看護を理解する内容である。 | |
| 16 | 7)服薬管理 | | |
| 17 | 4. 在宅療養者の状態別看護(8H) | | |
| 18 | 1)認知症高齢者 | | |
| 19 | 2)難病による療養者 | | |
| 20 | 3)生活自立困難者 | 筆記試験 | |
| 21 | 4)精神障害のある療養者 | | |
| 22 | 5)感染症のある療養者 | | |
| 23 | 5. 在宅におけるターミナル期の看護(2H) | | |
| 修了試験 | | 筆記試験 | |
| 授業方法 講義 グループワーク 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験 100% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 家族とその暮らしぶりを理解するうえで、家族社会学・生活科学の住環境などの知識を基にして学習が進む。 | | | |

| 授業科目(必須) | 在宅看護論演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------------------------------|-----|---|------|----|---|--|---------------------------|---|---|--|-----------------------------|---|---|---|--|-----------------------------------|---|---|---|----|----|---|-----------------------|----|----|---------|------------|----|----|--|--|
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 15回 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 4月 ~ 9月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教科書等 | 在宅看護論 (医学書院) 山田雅子編集 パーフェクト臨床実習ガイド 在宅看護実習ガイド 照林社 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業概要 在宅看護の技術は、基礎看護学を応用し、在宅にある物品を使用(工夫)しながら援助することが多々ある。在宅看護における基本的な日常生活援助について学び、その多様性を意識する。(食事、清潔、排泄、移動)また、屋内・屋外の環境、福祉用具について考える。さらに、在宅看護における基本技術を通して、療養者と家族、継続看護について考える。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における日常生活の援助技術を習得できる。 2. 在宅療養の場における社会資源の活用方法を理解できる。 3. 在宅看護の特徴をとらえ、事例展開ができる。 <p>授業計画・授業内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">1. 在宅看護における日常生活援助技術 1)洗髪・足浴・清拭・口腔ケアの工夫 2)服薬管理の工夫</td> <td rowspan="2">在宅療養者の日常を整えるための援助の工夫を考える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="3">2. 地域における社会資源とその活用 1)地域と住まいのユニバーサルデザイン 2)社会資源の活用の実際 3. 在宅におけるヘルスアセスメントの実際</td> <td rowspan="3">在宅療養者及び家族を支えるための社会資源について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="5">4. 在宅療養者の看護過程の展開 1)対象のアセスメント 2)初回訪問導入 (1)初回訪問計画立案 (2)訪問バッグ作成 3)看護ケアプラン立案 1)事例に合わせた看護工夫 2)利用できる社会資源の検討・ケアプラン</td> <td rowspan="5">在宅療養者の事例を展開し、療養者及びその家族に必要な看護を考える。</td> </tr> <tr> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> </tr> <tr> <td>9</td> </tr> <tr> <td>10</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td rowspan="2">5. 訪問看護の実際 1)マナーの実践と初回訪問の実践 2)実施後評価</td> <td rowspan="2">在宅実習室で計画した看護を実践・評価する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td rowspan="2">福祉用具の見学</td> <td rowspan="2">実際の福祉用具を見学</td> </tr> <tr> <td>14</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>授業方法 講義 グループワーク</p> <p>評価方法・評価基準 評価方法: グループワーク30% 演習成果物70% 評価基準: ①グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。 ②演習成果物は看護過程の共通評価基準に基づいて評価する。 ①と②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> <p>その他 療養者及びその家族との信頼関係を築く看護についてロールプレイを実施して学ぶ。在宅看護論実習につながる授業である。</p> | | | | 回 | 授業内容 | 備考 | 1 | 1. 在宅看護における日常生活援助技術 1)洗髪・足浴・清拭・口腔ケアの工夫 2)服薬管理の工夫 | 在宅療養者の日常を整えるための援助の工夫を考える。 | 2 | 3 | 2. 地域における社会資源とその活用 1)地域と住まいのユニバーサルデザイン 2)社会資源の活用の実際 3. 在宅におけるヘルスアセスメントの実際 | 在宅療養者及び家族を支えるための社会資源について学ぶ。 | 4 | 5 | 6 | 4. 在宅療養者の看護過程の展開 1)対象のアセスメント 2)初回訪問導入 (1)初回訪問計画立案 (2)訪問バッグ作成 3)看護ケアプラン立案 1)事例に合わせた看護工夫 2)利用できる社会資源の検討・ケアプラン | 在宅療養者の事例を展開し、療養者及びその家族に必要な看護を考える。 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 5. 訪問看護の実際 1)マナーの実践と初回訪問の実践 2)実施後評価 | 在宅実習室で計画した看護を実践・評価する。 | 12 | 13 | 福祉用具の見学 | 実際の福祉用具を見学 | 14 | 15 | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 在宅看護における日常生活援助技術 1)洗髪・足浴・清拭・口腔ケアの工夫 2)服薬管理の工夫 | 在宅療養者の日常を整えるための援助の工夫を考える。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 2. 地域における社会資源とその活用 1)地域と住まいのユニバーサルデザイン 2)社会資源の活用の実際 3. 在宅におけるヘルスアセスメントの実際 | 在宅療養者及び家族を支えるための社会資源について学ぶ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 4. 在宅療養者の看護過程の展開 1)対象のアセスメント 2)初回訪問導入 (1)初回訪問計画立案 (2)訪問バッグ作成 3)看護ケアプラン立案 1)事例に合わせた看護工夫 2)利用できる社会資源の検討・ケアプラン | 在宅療養者の事例を展開し、療養者及びその家族に必要な看護を考える。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 5. 訪問看護の実際 1)マナーの実践と初回訪問の実践 2)実施後評価 | 在宅実習室で計画した看護を実践・評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 福祉用具の見学 | 実際の福祉用具を見学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|--|---|----------|--|
| 授業科目(必須) | 災害看護 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 災害支援ナース、看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回・テスト1回 |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 後期 10月 ~ 12月 | | |
| 教科書等 | 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[3]循環器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[5]消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学[10]運動器 (医学書院) | | |
| 授業概要 <p>災害医療及び災害看護の基本的知識・技術を理解するとともに、災害看護に必要な基礎的能力を養う。 災害時の国際協力について学び、国際社会において、広い視野で看護師としての国際協力を考える。</p> | | | |
| 到達目標 1. 災害医療の概念について理解できる。 2. 災害看護の目的と看護師の役割が理解できる。 3. 災害看護活動の内容が理解できる。 4. 災害時に必要な基本的技術を理解できる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | | 備考 |
| 1 | 1. 災害医療の概念 | | |
| 2 | 1)災害の歴史と災害医療 | | |
| 3 | 2)災害医療対策 3)災害の種類別の被害の特徴 4)災害種類別の疾患の特徴 | | |
| 4 | 2. トリアージ | | トリアージの基礎的な内容を学習する。 |
| 5 | 3. 災害看護の目的と特徴 4. 災害における看護の役割 5. 災害看護活動 | | |
| 6 | 1)災害看護活動への個人としての心構え 3)災害中長期における看護の役割 5)災害関連死 | | |
| 7 | 2)災害急性期における看護の役割 4)被災者と救援者の心のケア | | |
| 8 | | | |
| 9 | 6. 災害時に必要な基本的技術(演習) | | トリアージの実際を演習を通して学ぶ。 |
| 10 | | | |
| 11 | | | |
| 12 | 8. 救命救急の看護技術 1)救急医療と看護 2)心肺蘇生法 3)包帯法 | | 心配蘇生法の技術も、エビデンスに基づいて、数年毎に変化していく。授業の中で最新の方法を学んでいくので、しっかり頭と身体を使って覚える。 |
| 13 | 9. 救命救急の看護技術の実際 1)AED 2)心肺蘇生法 3)包帯法 | | |
| 14 | | | モデル人形を活用し、実際に心配蘇生法を行う。また包帯法は学生同士でお互いに実施していく。授業で学んだことをしっかり復習して臨み、実施を通してさらに理解を深めていく。 |
| 15 | 修了試験 | | 筆記試験 |
| 授業方法 講義・演習 評価方法・評価基準 評価方法: 筆記試験100% 評価基準: 修了試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|---|---|---|---------------|
| 授業科目(必須) | 医療安全 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 講義回数 | 14回 (テスト1回) |
| 対象学年、開講時期 | 2年次 前期～後期 4月～3月 | | |
| 教科書等 | 系看 統合 医療安全 看護の統合と実践② (医学書院) 医療安全ワークブック(医学書院) | | |
| 授業概要 <p>人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を果たし、安全な看護を提供するための基礎的能力を養う。</p> 到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全についての基礎的知識が理解できる。 2. 医療安全における看護職の責任について理解できる。 3. 医療におけるリスクマネジメントと事故予防のための組織的取組の必要性が理解できる。 4. 医療安全のための看護の基本が理解できる。 5. 診療補助業務における医療安全のためのアセスメントの視点が理解できる。 7. 医療安全のためのリフレクションの必要性が理解できる。 8・自己の言動を洞察し、ヒューマンエラーにおける自己の特徴的傾向が理解できる。 9. 演習を通して療養上の世話における医療事故予防の視点が理解できる。 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | 配点 |
| 永原 | | | |
| 1 | 1. 医療安全とは 2. 医療安全と看護師の責務 | 医療安全の歴史、学ぶ意義、看護師の責務(法的責任)、人間の特性に気づく。 | 50点 |
| 2 | 1. ヒューマンエラーとは 2. ヒューマンエラーと人間の特性 | | |
| 3 | 1. 看護における安全対策の考え方 | | |
| 4 | 1. インシデントレポートの振り返り | 実習体験を活用し、事故の発生要因や対応、自己の行動の振り返りと課題の明確化につなげる。 | |
| 5 | 1. 療養上の世話における医療安全 | 演習を通して安全管理に関する認識を深め、事故から学ぶ姿勢を身につける。 | |
| 6 | | | |
| 7 | 1. 医療安全における自己の傾向 | | |
| 新井 | | | |
| 8 | 医療におけるリスクマネジメントと事故予防(医療と看護の質の保証) | 事例やビデオ視聴などにより、臨床場面をイメージし、医療安全に対する理解と自己の意識を高めていく。KYTを通して潜在的問題について危険予測をする訓練をする。 | 50点 |
| 9 | 医療安全管理体制と事故分析 | | |
| 10 | 療養上の世話における事故防止 | | |
| 11 | 診療の補助業務における事故防止 | | |
| 12 | 診療の補助業務における事故防止 | | |
| 13 | 診療の補助業務における事故防止 | | |
| 14 | 診療の補助業務における事故防止 | | |
| 15 | 修了試験、講義のまとめ | | |
| 授業方法 講義・グループワーク・演習 評価方法・評価基準 評価方法: ①筆記試験 90% ②レポート課題・グループワーク 10% 評価基準: ①筆記試験で、到達目標にあげた内容の理解を確認するための総合的な問題を出題する。 ② 課題は内容の充実度、提出状況によって評価する。 ③レポート課題は共通評価基準に基づいて評価する。 ④グループワークは共通評価基準に基づいて評価する。 ①～④を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 | | | |

| | | | |
|--|---|--------------------------------------|----------|
| 授業科目(必須) | 看護研究の実際 | | |
| 担当講師 | | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | 7回・発表会1回 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 4月 ~ 後期 2月 | | |
| 教科書等 | ①看護研究(医学書院) ②看護学生のためのケーススタディ(メジカルフレンド社) | | |
| 授業概要 看護研究の基礎的知識をもとに、看護の実践を通して、対象者に対する看護の働きかけがどのような効果をもたらすのかを研究のプロセスを踏みながら実施する。さらに、まとめ方・発表の仕方・講評を体験する。また、ケーススタディをまとめることで、自分が行った看護を振り返るとともに、看護に対する考えを深める。 | | | |
| 到達目標 1. 論文としての形式をふまえて、ケーススタディをまとめることができる 2. 研究発表に必要な準備を行い適切な発表ができる 3. 看護研究に取り組むことにより、看護の目がますます深まっていくことが実感できる 4. 看護学的知識をよりよく理解するための、研究的態度を身につける 5. 看護研究における倫理的配慮ができる。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| 1 | 1. 科目のオリエンテーション 2. 研究を実施するうえでの留意点 3. ケーススタディ実施のアンケート | 研究目的を明確にし、実習できるよう自覚を持って取り組むこと | |
| 2 | 1. 指導教員発表 2. 研究の進め方 | | |
| 3 | 1. 研究計画立案 2. 研究テーマの決定 3) テーマ、キーワードについての先行文献や一般論、基本的知識の学習 4. 研究論文作成 | 1) 問題認識と課題の追求 2) テーマに関連した文献検索と検討 | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | ケーススタディ発表会 | 研究発表に向けての発表準備 発表会の意味を自覚し、会の運営を含め体験する | |
| 8 | | | |
| 授業方法 事例研究、論文作成、発表 評価方法・評価基準 評価方法: 論文作成状況 論文 発表態度 等 評価基準: □ 研究の評価表に沿って評価する。 100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 専門職である看護師は、対象者によりよい看護を提供するために、看護上問題になっていることを解明し、よりよい方法を見出す必要がある。そのためには、様々な研究が必要である。研究の基礎的な知識を学び、看護実践を振り返り、研究的視点で分析、考察していくことにより、研究的に臨む姿勢を身につける。さらに、ケーススタディをまとめることにより、看護に対する考えを深めてもらいたい。 | | | |

| | | | |
|--|---|---|------------------|
| 授業科目(必須) | 看護の統合と実践 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 1単位(15時間) | 講義回数 | オリエンテーション1回・演習7回 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 5月 後期 11月 | | |
| 教科書等 | | | |
| 授業概要 既習の知識、技術を用い統合し、実践する能力を養う。 多重課題の解決のための優先順位の考え方、タイムマネジメント、医療安全の視点をもって総合的に実践する能力を養い、看護マネジメントの基礎的能力を養う。 | | | |
| 到達目標 1. 複数の模擬患者の各々に必要な日常生活援助を計画できる。 2. 多重課題の解決のための適切な判断および対処について考えることができる。 3. 自己の看護技術の修得状況を把握し、課題を明確にする。 | | | |
| 授業計画・授業内容 | | | |
| 回 | 授業内容 | 備考 | |
| | オリエンテーション | (5月) | |
| 1 | 1. 事例患者の状況に応じた基本的な看護援助の演習 1) 事例患者に必要な看護をアセスメントし、看護実践ができるよう計画を立てる | 各看護学実習前に、事例患者の状況に応じた基本的な看護援助の演習を実施する。 | |
| 2 | 2) 事例患者に応じた基本的な看護を実施する | | |
| 3 | 3) 演習で実施した看護援助を振り返り、自己の課題を見出す | | |
| 4 | 2. 多重課題解決のための優先順位の考え方、タイムマネジメント、医療安全の視点で、総合的に看護実践する演習 1) 複数患者を受け持ち、優先順位を考えた1日の行動計画を立案する | (11月) 統合実習前に、多重課題解決のための優先順位の考え方、タイムマネジメント、医療安全の視点を持って、総合的に看護実践する演習を実施する。 | |
| 5 | 2) 計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況に対し、自己の対応能力を認識した上で対処方法を判断する | | |
| 6 | 3) 自己の看護実践能力に応じ、チームメンバーと連携し(連絡・報告・相談、協力、依頼等)しながら、状況に応じた看護ケアの実践 | | |
| 7 | 4) 複数患者の看護実践を振り返る。割り込み状況を含め、どうすれば良かったか、医療安全、倫理的行動、自己の臨床実践能力等の視点から分析する | | |
| | 5) 事例に対する看護実践を振り返り自己の課題を見いだす | | |
| 授業方法 | 複数患者の事例の看護計画を立案する。 シミュレーション演習 転倒しやすい患者に排泄を頼まれた場面、点滴が終了直前の患者に声をかけられた場面等 実施後リフレクションを行い、体験から自分の考え、行動を意識化し、気づきを共有する。 | | |
| 評価方法・評価基準 | 評価方法： 基礎学力テスト30%、リフレクションシート10%、演習実施評価50%、模擬患者評価6%、実施計画4% 評価基準： ①看護の統合と実践の評価表(リフレクションシート、演習実施評価、模擬患者評価、実施計画)に沿って評価する。 ①の合計100点をもって満点とし60点以上を合格とする。 | | |
| その他 | 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容の知識や技術を統合できるように考え、臨床現場の状況に即した看護が提供できるように、各看護学実習前・統合実習前に事例患者に応じた演習を実施していく。演習で実施した看護援助を振り返り、自己課題を明確にすることを目的とする。 | | |

| | | | |
|---|---|--|----------------------|
| 授業科目(必須) | 地域で生活する人々の看護実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員・訪問看護ステーション看護師 | 担当講師実務経験 | 看護師 訪問看護ステーション看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | | |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 前期 4月 ~ 後期 11月 | | |
| 実習場所 | 新宿区保健所・保健センター、特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・ショートスティサービス、デイサービスセンター 都内訪問看護ステーション | | |
| 目標 | <p>1. 保健所・保健センターにおける保健活動を見学し、地域の特徴を活かした保健活動と看護職の果たす役割を学ぶ。</p> <p>2. 介護保険制度における施設サービス・地域密着型介護予防サービス・地域包括支援センターなどを利用する高齢者への支援のあり方を学ぶ。</p> <p>3. 在宅療養者と家族の生活にふれ、また訪問看護の実際を経験することによって、地域における訪問看護の役割を理解する。</p> | | |
| 実習場所 | 実習内容 | 備考 | |
| 保健所・保健センター | <p>1. 保健所・保健センターの保健活動における保健師業務の実際</p> <p>2. 保健所・保健センターの事業活動の取り組み</p> | <p>・保健所・保健センターの見学実習(6H)</p> <p>・(まとめの会2H)</p> | |
| 特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・ショートスティサービス、デイサービスセンター | <p>3. 介護老人福祉施設、デイサービスセンター、地域包括支援センターなどの法的位置づけとそのサービスの実際</p> <p>4. 認知症高齢者個々に応じたコミュニケーションの取り方</p> <p>5. 生活の安全、快適に過ごせるための援助</p> <p>6. 地域の高齢者を支える人々の連携の実際</p> | <p>・特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・ショートスティサービス、デイサービスセンターで、各2日間見学実習(32H)</p> <p>(カンファレンス・学習のまとめ8H)</p> | |
| 訪問看護ステーション | <p>7. 施設や在宅で安らかな死を迎えるための援助のあり方</p> <p>8. 在宅における援助方法</p> <p>9. 在宅療養者が活用している社会資源</p> <p>10. 保健医療福祉チームとの連携</p> | <p>・訪問看護ステーションにて2週間(4~6日間)の体験実習(42H)</p> <p>・オリエンテーション(1H) 学内実習</p> | |
| 評価方法: | | | |
| <p>①訪問看護ステーション(70%)</p> <p>②特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・ショートスティサービス、デイサービスセンター(30%)</p> | | | |
| <p>評価基準: ①②ともに事前学習・実習内容・記録物・カンファレンスの参加度等について評価基準(実習要項参照)を用いて評価する。</p> <p>①②を合計し、100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | | |
| その他 | | | |
| <p>原則として、「看護過程展開の基礎実習」、「在宅看護目的論」、「在宅看護対象論」、「在宅療養者と家族の健康と生活を支える看護」、「在宅看護論演習」の履修が必要である。</p> | | | |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 授業科目(必須) | 臨床統合実習 | | |
| 担当講師 | 専任教員 | 担当講師実務経験 | 看護師 |
| 単位数(時間) | 2単位(90時間) | 実習期間 | 3週間 |
| 対象学年、開講時期 | 3年次 後期 11月～12月 | | |
| 実習場所 | 東京山手メディカルセンター 病棟 | | |
| 実習目的 1. 複数患者の看護や一勤務帯を通した患者の看護の体験を通し、あらゆる状況に安全に対応できる、看護の基礎的能力を養う。 2. 看護チームの一員としての役割を体験し、看護専門職としての役割と責任を自覚し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 | | | |
| 到達目標 1. 複数患者を受け持ち、優先すべき情報収集や看護問題、看護の援助方法を理解する。 2. 看護チームの看護管理やリーダーシップ、メンバーシップを理解し、チームの一員であることを自覚し、責任をもって行動できる。 3. 医療チームのなかで多職種と協働しながら、看護の役割について理解できる。 4. 就寝までの夜間帯の実習を通して24時間の患者の生活と看護の継続を理解できる。 5. 夜間帯の看護体制の中で看護師が患者の安全・安楽を守るためにどのように連携しているかを知る。 6. 自己の看護行動を倫理綱領に照らして振り返ることができる。 7. これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を確認できる。 | | | |
| 実習内容 | | | |
| 週 | 実習内容 | 備考 | |
| 1週 | 1. 看護組織システム 2. チームリーダー、チームメンバーの役割と実践 3. 適切な時期、適切な人への報告、連絡、相談 4. 多職種との連携の重要性と方法 | 看護師長とともに行動し、1日見学実習を行い、看護管理について学習する。 看護チームメンバー、またはリーダーとともに行動し、1日見学実習を行いチームメンバーの役割について学習する。 | |
| 2週・3週 | 5. 複数の受け持ち患者個々の状態(健康状態、看護計画、治療、検査など) 6. 複数患者の看護の優先順位の考え方 7. 複数の受け持ち患者への看護実践 8. 夜間の看護 | 複数の受け持ち患者の看護計画を立案し、優先度の判断、チーム内の調整、連携を考えた実習を行う。 夜勤看護師とともに行動し、就寝までの見学実習を行い、夜間の患者の状況や夜間の看護体制・看護師の役割について学習する。 | |
| 実習方法 1. 同看護チームの患者を同時期に2名受け持ち、病棟で立案されている看護計画にそって看護師と共に看護を実践する。 2. 病棟師長と行動を共にし、看護管理の実際について学ぶ。 3. チームリーダー、チームメンバーと各々1日行動を共にし、リーダーシップ、メンバーシップについて学ぶ。 4. 医師、薬剤師、管理栄養士などの多職種や専門看護師、認定看護師と連絡相談報告の実際を見学する。 5. 夜間の看護を体験する(ケアは原則単独では実施しない)。 6. 看護者の倫理綱領にそって自己の看護行動を評価し、自己の課題を明確にする。 | | | |
| 評価方法・評価基準 評価方法： 実践内容、記録物、カンファレンス状況などを総合評価する。 評価基準： ①事前学習、実習内容、実習記録物、カンファレンスへの参加度などに評価基準(実習要項参照)によって評価する。 ②100点をもって満点とし、60点以上を合格とする。 | | | |
| その他 原則として、専門分野Ⅰの臨地実習、専門分野Ⅱの臨地実習の履修および「看護の統合と実践」の受講が必要である。 | | | |